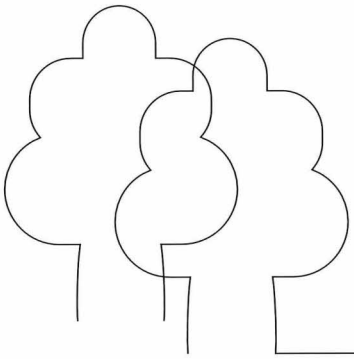


都道府県における緑化活動

●北海道

現況	名称	社団法人　北海道国土緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒006-0004　札幌市中央区北4条西5丁目　林業会館内				
	電話	011-261-9022	緑化強調期間	春4月1日～6月30日	緑の募金期間	春4月23日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	011-261-9032				
	役職員	会長	湯佐　利夫 (北海道議会議長)	主要事業	1．緑化運動の普及啓発 2．緑化事業の推進 3．緑の募金運動 4．緑と水の森林基金事業	
		理事長	澤田　豊 (北海道木材協会副会長)			
		事務局長	高橋　眞二			
		参事	本田　澄雄 (道森林整備課主幹)			
		常勤役職員数	計　4人（職員のみ）			
	緑の少年団	74団　2,814人		道担当部局	水産林務部森林整備課緑化指導係	

組織の沿革

昭和25年5月22日	北海道緑化推進委員会設立
昭和29年5月1日	北海道国土緑化推進委員会と名称変更
昭和43年10月16日	社団法人設立認可
昭和59年3月21日	試験研究法人等の認可
昭和63年9月16日	特定公益増進法人の認可

歴代理事長(委員長)

三国重四郎	(S25.5～37.4)
宮脇　恒	(37.4～48.6)
中野　正彦	(48.6～H5.5)
千廣　俊幸	(5.5～9.5)
澤田　豊	(9.5～現在)

歴代事務局長

古畑　要司	(S25.8～30.9)
梅本　信清	(30.9～33.4)
西原　照光	(33.4～38.6)
上杉　和一	(38.10～40.7)
川村　順	(40.8～51.6)
藤本　紀一	(51.6～57.5)
猪川　重徳	(57.7～H3.8)
扇谷　敏	(4.6～11.5)
高橋　眞二	(11.6～現在)

主要活動事項

昭和25年5月～現在	緑の(羽根)募金運動
昭和26年5月～現在	北海道植樹祭の開催
昭和26年5月	緑の週間の設定
昭和28年～現在	東北・北海道地区民有林造林コンクールの実施
昭和32年8月～現在	緑化思想普及作品懸賞募集(作文・標語等)
昭和33年3月～現在	機関誌「緑の栄光」の発行
昭和36年5月24日	第12回全国植樹祭
昭和38年5月～現在	緑化功労者の表彰
昭和43年9月	「北海道の名木美林」の発行
昭和43年11月	北海道百年記念分収造林地の設定
昭和47年～現在	さくら若木の配布
昭和50～52年	「資源倍増の森」の顕彰
昭和51年5月	「北海道森林植物図鑑」の発行
昭和52年9月～現在	ゴルファー緑化事業の実施
昭和53年～平成10年	みんなの森造成事業の実施
昭和59年9月	「北海道緑の環境づくり」発行
昭和60年度	国際森林年事業の実施
昭和60年～平成10年	緑の少年団交流集会の開催
昭和61年2月～現在	「北海道緑の少年団情報」の発行
昭和62年7月	「緑豊かな並木づくり」の発行
昭和62年9月13日	第11回全国育樹祭
昭和62年11月～現在	グリーンインストラクター養成事業
昭和63年～平成7年	緑と水の森林基金造成
平成元年～現在	森林基金事業の実施
平成5年2月	「北海道の巨樹・名木」発行
平成6年～現在	寄付金緑化事業の実施
平成7年4月	「北海道森林浴コースガイド」の発行

活　動　の　特　色（主な事業）

1．北海道百年記念造林地の設定と保有

昭和43年に北海道百年記念事業として，帯広営林局（当時）が根室支庁管内別海町に，「輝く未来の森」と名付け，400ヘクタールの記念造林を計画した。

これは，造林意欲の高揚と愛林思想の普及を図り，森林資源の培養と林業経営の充実によって農林漁業一体となった根釧地方の安定した発展に寄与することを目的としたものである。本会も，国土緑化の実践を通じて，緑化思想の普及啓発や林業教育のため，この意義ある事業に参加し，30.2ヘクタールの分収林を設定して，カラマツを植栽し，保育，間伐を行ってきた。なお，契約期間は当初32年としていたが，造林地の現況等を考慮して50年に変更している。

2．資源倍増の森の設定と顕彰

昭和50～52年に，森林資源倍増道民運動の一環として，育林，愛林の意欲向上と森林生産力の増強を図るため，資源倍増を目指して適切な施業を行っている優良な森林を選定して，その努力を顕彰し，林業経営の指標とするとともに，広く道民に紹介するもので，全道で70カ所，28,773ヘクタールを設定している。

3．寄付金緑化事業

これは企業・団体などからの寄付金をもとに，緑化事業を実施するもので，平成7年に道央市民生活協同組合ほか3組合が，オリジナル・ティッシュペーパーの売上金の一部を木材使用の還元金として環境緑化に寄付するということで，本会が緑化事業を実施している。平成8年には，旭川信用金庫が創立80周年事業の一環として地域の緑化をとりあげ，定期預金元金の0.1％相当額の預金利息に信金が同額を合算して寄付し，緑化事業を実施している。

また，ホーマック株式会社は，平成7年から，社会貢献機能を付与した会員カードを発行し，その年会費の一部等を寄付して緑化事業を実施している。以上3件の寄付金総額は，19,614千円に達している。

4．緑化思想普及作品懸賞募集

昭和32年から，次代を担う少年，少女の緑化思想の普及啓発を図るため，毎年，小・中・高等学校の児童・生徒を対象に，緑化に関する作文・標語・ポスター原画を懸賞募集している。一位入選ポスターと標語は，「緑の募金」キャンペーン用のポスターに採用し，関係方面に配布している。

5．グリーンインストラクター養成事業

森林の保健休養施設等を利用した森林浴，自然観察会等の指導者を養成するため，昭和62年から研修会を開催しており，現在，422名が登録されている。また，養成研修を受講した人を対象として，樹木・草花・野鳥などの専門研修を実施している。

6．図書の発行

① 機関誌「緑の栄光」

当初，「緑の芽生」と題して，緑化思想普及作品懸賞募集の入選作品を紹介していたが，昭和33年から，「緑の栄光」と改題して，会の事業計画・事業報告，緑の週間行事，緑の羽根募金の実績などを掲載する本会の機関誌として年1回発行し，現在に至っている。

② 北海道の名木美林

昭和43年に，北海道百年記念事業の一環として北海道の名木美林149点を紹介している。（名木100点，美林30点，並木・防風林等19点，計149点）2,000部発行（道林務部監修）

③ 北海道森林植物図鑑

昭和51年に，北海道に生育する森林・植物に対する認識を高めるため，樹木・草花の図鑑を作成・頒布している。10,000部

④ 北海道緑の環境づくり

昭和59年に，郷土を緑で覆い，美しく住み良い環境づくりに役立てるため，模範となる優良事例を調査・分析した結果を，環境樹林・屋敷林・耕地防風林にわけて記述し，緑化推進用テキストとしてとりまとめたものである。

⑤ 緑豊かな並木づくり

道路の緑は，風致美観の向上をはじめ，遮光，防雪，騒音の緩和等様々な環境保全機能をもっている。そこで，昭和62年に北国にふさわしい並木づくりをめざし，実務に携わる技術者のマニュアルとして作成したものである。

⑥ 北海道の巨樹・名木

道内の巨樹・名木の現状を調査して公表し，再び得がたい巨樹・名木の保存につとめ，併せて緑化思想の普及啓発に寄与することを目的として，150件を収録して平成5年に刊行している。

⑦ 北海道森林浴コースガイド

北海道の豊かな自然にふれ，森林づくりや緑の教育に活用できるように，森林浴に適した遊歩道，散策路等を対象として，施設の概要，交通，動植物などを調査し，153コースを収録し，平成7年に刊行している。3,500冊発行

●青森県

現況					
名称	社団法人　青森県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日	
所在地	〒030-0813　青森市松原1丁目16番25号				
電話	017-773-8787	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	017-773-8788				

役職員	
会長	木村　守男 (青森県知事)
理事長	小笠原恭裕 (青森県森林組合連合会会長)
専務理事	杉山　博利 (青森県森林組合連合会副会長)
事務局長	三上　昇
常勤役職員数	計3人（内役員0人）

主要事業

◎「緑の募金」活動推進事業
◎ 環境緑化推進事業
◎ 緑の少年団育成事業
◎「森林·緑に関する標語」募集事業
◎ 青森県植樹祭の開催

緑の少年団	63団　2,325人	県担当部局	農林部林政課普及班

組織の沿革

昭和24年4月	青森県森林復興期成連盟設立
昭和32年	青森県緑化推進委員会に名称変更
平成3年3月19日	社団法人設立認可（平成3年4月1日登記）
平成3年4月1日	事務局を青森県林政課から森林組合会館に移転

歴代委員長·理事長

(委員長)
菊池　昌治（S24.4～32.2）
田沢　吉郎（32.2～34.5）
菅原　光珀（34.5～36.10）
小倉　豊（36.10～38.5）
三浦　道雄（38.5～39.6）
三村　泰右（39.6～40.10）
毛内　豊吉（40.10～42.5）
白鳥　大八（42.5～44.12）
白瀬　兵次（44.12～46.5）
寺下　岩蔵（46.5～47.6）
小坂　甚義（47.6～48.12）
小野　清七（48.12～50.5）
中村富士夫（50.5～51.6）
山田　虎三（51.6～52.12）
藤田　重雄（52.12～54.5）
秋田　正（54.5～55.7）
菊池利一郎（55.7～56.12）
脇川　利勝（56.12～58.4）
吉田　博彦（58.5～59.10）
石田　清治（59.10～61.3）
今井　盛男（61.3～62.4）
原田　一實（62.5～H元.3）
工藤　省三（元.3～3.3）
(理事長)
山内　善郎（3.4～5.3）
山口　國雄（5.3～7.7）
中川原啓介（7.7～8.6）
小笠原恭裕（8.6～現在）

歴代事務局長

平井　修造（S24.4～29.6）
伊藤　馨（29.7～29.9）
丸山　慶造（29.9～31.3）
松形　祐堯（31.4～34.6）
孕石　正久（34.7～37.3）
下平　仁（37.4～39.8）
滝本　睦夫（39.9～42.3）
杉村　敬一（42.4～43.8）
荒川　文夫（43.8～46.11）
今　寛人（46.12～52.3）
佐々木光三（52.4～54.3）
川合　昭（54.4～56.3）
鶴賀　泰美（56.4～60.3）
松田富士雄（60.4～H元.3）
小笠原隆一（元.4～2.3）
須藤　清衛（2.4～3.3）
松橋　秀彦（3.4～4.3）
奈良　洋（4.4～5.3）
岩淵　松年（5.4～6.5）
小笠原隆一（6.6～10.3）
三上　昇（10.4～現在）

主要活動事項

昭和24年～現在	「緑の羽根募金」·「緑の募金」運動の実施
昭和25年～28年	県緑化大会の開催
昭和25年～現在	県植樹祭の開催
昭和38年5月	全国植樹祭の開催
昭和46年6月～現在	緑の少年団結成
昭和48年～現在	県民有林造林·保育コンクール及び環境緑化整備事業の実施
昭和49年～現在	市民緑化推進事業の実施
昭和51年～現在	森林愛護団育成事業の実施
昭和53年～現在	施設緑化事業の実施、みんなの森造成事業の実施
昭和54年～現在	県緑化功労者の表彰
平成2年～現在	「森林·緑に関する標語」の募集実施
平成2年～11年	県民グリーンフェスティバルの実施
平成9年	全国育樹祭の開催

活　動　の　特　色

青森県緑化推進委員会の活動テーマ

[県民総参加による県土緑化の推進]

(春)

“募金による緑化運動への参加を”

緑の週間を中心に，緑の幼年団，公共及びボランティア団体の参加のもと「街頭募金」を実施。

“県民参加の植樹を”

緑化期間中に市町村と共催により，農林漁業，一般県民，施設の方々等約1,000名に参加をいただき「県植樹祭」を実施。

(夏)

“親子で森･木の温もりに接して”

森･木･緑を理解していただくため，親子による「木工教室」を県内7箇所で約700名の参加のもと実施。

(秋)

“森林・緑の理解者を”

多くの方々に，森林の手入れの大切さ，重要さを知っていただくため，ボランテイア等の参加のもと「森林の保育事業」を実施。

☆12年度から，「県育樹祭」を実施する。

●岩手県

現状					
名称	社団法人　岩手県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日	
所在地	〒020-0021　盛岡市中央通三丁目15－17				
電話	019-625-0310	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春3月20日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	019-625-0356				

役職員	
会長	山内　隆文
理事長	金澤　裕臣
常務理事	田村　恒麿
事務局長	同　上
常勤役職員数	15人（うち役員1名）

主要事業
1．県植樹祭の開催
2．緑の少年団県大会及び交流集会の開催
3．ボランティアによる森林づくり
4．造林コンクール等緑化運動顕彰事業
5．緑と水の森林基金事業
6．県民の森の管理等県委託事業

緑の少年団	162団　7,842人	県担当部局	

組織の改革

昭和25年3月30日　岩手県国土緑化推進委員会発足
昭和55年2月21日　㈳岩手県緑化推進委員会設立総会
昭和55年3月24日　同設立認可
昭和55年3月27日　同設立登記

歴代委員長

村上　順平
中野　吉郎
内村　一三
橋本　八百二
金子　太右衛門
山崎　権三
千葉　一
高橋　清孝
藤原　哲夫
田代　三郎
館石　基治
高橋　清孝
藤根　順衛
菅　三郎
川口　善弥
菊地　正
佐々木　俊夫
堀口　治五右衛門
那須川　健一
山内　隆文

歴代事務局長

神倉　松
米田　宏
阿部　圭
宮　恭
平澤　啓明
菊池　助太郎
酒井　俊夫
若林　亀三郎
小原　善次
川村　公慶
村上　恒二
斎藤　陞
嘉村　毅
川井　正夫
田村　恒麿

主要活動事項

平成11年4月23日	緑の募金街頭活動
〃　4月29日	「親子で春を北上川・馬淵川源泉の里に名木を訪ねて」
〃　5月15～16日	春の緑化まつり
〃　5月25日	新緑を楽しもう
〃　5月27日	岩手県植樹祭
〃　6月5日	山火事被害地のボランティアによる森林づくり
〃　7月29～30日	岩手県緑の少年団大会及び交流集会
〃　7月30～8月8日	県民の森夏の自然展
〃　8月30日	緑化講習会
〃　9月18～19日	秋の緑化まつり
〃　10月6～9日	県民の森秋の自然展
〃　10月9日	ボランティアによる森林づくり
〃　10月14～15日	ボランティアによる森林と海づくり体験の集い

活　動　の　特　色

県土の緑化運動を推進することにより，緑の山づくり，潤いのある県土の創造に寄与するため，特に次の活動に力を注いでいる。

1　広く県民が参加する岩手県植樹祭を昭和25年から毎年継続実施している。

2　森林・樹木を愛し豊かな人間性を持つ健康で明るい青少年を育成するため，昭和44年から岩手県緑の少年団大会及び交流集会を毎年継続開催している。

3　県民参加の森林づくり運動を推進するため，ボランティアによる山火事跡地の復旧造林また，漁業者と連携による森林づくり（森林と海づくり体験の集い）を推進している。

4　緑の保全と緑化意識の高揚を図るとともに地域の貴重な緑の文化財として大切に保存していくため，県内の巨樹・名木の実態調査を実施し保全に努めている。

こうした緑化運動を推進するため，本委員会では県の地方振興局単位に地区緑化推進委員会また，市町村単位に市町村支部緑化推進委員会を置き，各種緑化活動・事業を展開している。

●宮城県

現況				
名　称	社団法人　宮城県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日
所在地	〒981-0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17　宮城県仙台合同庁舎9階			
電　話	022-301-7501	緑化強調期間	春：4月1日～5月31日 みどりの週間4月23日～4月29日 秋：9月1日～10月31日	緑の募金期間　春：4月1日～5月31日 秋：9月1日～10月31日
FAX	022-301-7502			

役職員	
理事長	鴇田　豊蔵
常勤理事	小原　憲由 (他に3団体兼務)
事務局長	同上（兼務）
書記	曽山　啓子（同上）
書記	佐藤　志保（同上）
常勤役職員数	計3名（うち役員1名）

主要事業

1．宮城みどりの祭典開催（県，地元市町村共催）
2．募金運動の展開（市町村緑推へ交付金等交付）
3．学校緑化，花壇など各種コンクールの実施支援
4．みどりの少年団大会開催(県，少年団連盟共催)
5．どんぐり会員による「どんぐりの森」づくりと保育管理
6．公共施設などの緑化整備，グリーンボランティア育成，広報啓発活動などの支援
7．愛鳥モデル校への緑化活動支援

緑の少年団	79団（5,170名）	県担当部局	環境生活部自然保護課みどり保全班

組織の沿革

昭和25年3月日　緑化推進委員会設立
平成8年3月7日　社団法人設立認可(3月14日登記)
平成11年4月1日　事務局を県庁森林整備課(旧森林保全課)から県仙台合同庁舎9Fへ独立移転。併せて，治山林道協会，林業協会，みどりの少年団連盟各団体の事務局も兼ねる。

歴代委員長

樺沢敬之助（S25.3～25.12）
今野　貞亮（25.12～28.9）
栗野　豊助（28.9～30.4）
遠藤　実（30.5～31.8）
鮎貝　盛益（31.10～33.7）
高橋文五郎（33.7～35.7）
屋代文太郎（35.7～38.4）
門伝勝太郎（38.5～41.7）
遠藤　金一（41.7～42.4）
佐藤民三郎（42.5～44.7）
村松　哲治（44.7～46.4）
遠藤　要（46.5～48.10）
木村喜代助（48.10～50.4）
木村幸四郎（50.5～52.7）
佐々木源佐ヱ門（52.7～54.4）
星　長治（54.5～56.7）
佐藤常之助（56.7～58.4）
森　康（58.5～60.7）
畠山　孝（60.7～62.4）
安住仁太郎（62.5～H元.6）
菊地　辰夫（元.6～3.4）
小野寺信雄（3.5～4.2）
亀谷　博昭（4.3～5.7）
斎藤　栄夫（5.7～7.4）
高橋　健輔（7.5～9.7）
佐々木久壽（9.7～11.4）
千葉　正美（11.5～現在）

(注：平成8年3月社団法人認可により定款第12条で委員長を会長とし，新たに理事長を選任した。)

歴代事務局長

斎藤　良次（S25.4～27.3）
和泉　健（27.4～31.3）
大立目謙誼（31.4～32.3）
和泉　健（32.4～35.3）
鎌田　和平（35.4～39.3）
松本　光（39.4～42.3）
菊地　徹（42.4～47.3）
山内　尚（47.4～52.3）
小嶋襲三郎（52.4～53.3）
早坂　善吉（53.4～56.3）
小泉　隆夫（56.4～58.3）
浦壁　宏平（58.4～59.3）
工藤　健二（59.4～60.3）
大柳　雄彦（60.4～61.3）
三嶋　久志（61.4～63.3）
千葉　仁（63.4～H元.3）
三嶋　久志（元.4～2.3）
千葉　仁（2.4～3.3）
尾花健喜智（3.4～6.3）
佐々木貞夫（6.4～7.3）
小原　憲由（7.4～8.3）
佐藤　貫也（8.4～9.3）
木村　敏男（9.4～11.3）
小原　憲由（11.4～現在）

主要活動事項

昭和24年　学校植林50年計画樹立，学校植林スタート
昭和25年　県緑化推進委員会設立，緑の羽根募金開始
　　学校植林全国一を同年から16年連続樹立
昭和27年　青少年緑化弁論大会，講和記念植樹
昭和28年　第1回東北・北海道緑化推進大会(宮城県)，巣箱コンクール開催
昭和30年　第6回全国植樹祭開催（4月6日，大衡村7,000名参加），県花みやぎのはぎ認定
昭和33年　学校植林優秀校・緑化教育研究指定校へ両陛下御手播苗(スギ，アカマツ)を配布
昭和34年　緑化運動，学校植林10周年両記念大会
昭和37年　宮城県緑の会発足，学校植林など学校緑化運動の推進母体となる
昭和39年　緑化運動15周年記念大会。東京オリンピック記念みやぎのはぎ種子を117ヵ国へ贈呈
昭和41年　県木「ケヤキ」選定
昭和42年　明治100年記念植樹式典（県民の森造成記念），市町村の木・花・鳥制定スタート(栗駒町，クリ，シャクナゲ)
昭和44年　緑化運動20周年記念大会
昭和47年　県制100年記念植樹式典
昭和49年　緑化運動25周年記念大会
昭和50年　みどりの少年団結成(4団)，第1回県みどりの少年団大会
昭和53年　県議会制度100周年記念植樹式典
昭和54年　緑化運動30周年記念大会，鹿原みどりの少年団全国大会で活動発表，全国みどりの少年団サマージャンボリーへ白石みどりの少年団参画
昭和57年　第30回東北・北海道緑化推進大会(宮城県)
昭和58年　東日本地区緑化シンポジウム開催(宮城県)
昭和59年　緑化運動35周年記念大会
昭和60年　国際森林年記念植樹式典(市町村の木による市町村の森造成)
昭和61年　天皇陛下御在位60周年記念植樹式典(昭和30年全国植樹祭地，昭和万葉の森整備化)
昭和62年　学校林活用の部全国特選・本吉町馬籠小学校
昭和63年　第36回東北・北海道緑化推進大会(宮城県)
平成元年　緑化運動40周年記念大会，皇太子殿下昭和万葉の森ご訪問(昭和万葉の森オープン)
平成2年　学校環境緑化の部全国特選・歌津町名足小学校
平成3年　樹木医制度スタート
平成4年　県みどりの文化の創造計画策定にともなう，みやぎ未来の森構想(七ツ森地区)樹立
平成5年　第1回宮城みどりの祭典開催，百万本植樹運動開始，巨樹・古木林等戸籍調査開始，宮城みどりの基金設置，こもれびの森開園
平成6年　緑化運動45周年記念大会（一檜山県有林40周年記念）
平成8年　第42回東北・北海道緑化推進大会(宮城県)，緑の募金森林整備合宿の集い(川崎町)，みどりの少年団上下流交流の森造成
平成9年　第48回全国植樹祭開催（5月26日，蔵王町12,000名)，どんぐり会員(228名)がどんぐり苗木養成開始
　　七ツ森森林公園整備事業開始
平成10年　第1回森林インストラクター養成講座発足(30名)，みどり十字軍独立再スタート
平成11年　緑化運動50周年記念大会(どんぐりの森造成，みどりの少年団第25回県大会式典)，宮城の巨樹・古木の出版，第7回宮城みどりの祭典開催，職場みどりの日，学校みどりの日，愛鳥みどりの日各種行事の植樹式典，巣箱，標語，ポスター各コンクール実施

活　動　の　特　色

1．「宮城県緑の会」の学校緑化などの推進とみどりの少年団活動の支援

1）緑の会は，学校植林全国大会の偉業記念（昭和25年から連続16年第1位継続）と，これからの学校緑化活動を推進する母体として昭和37年発足（会員小学校451校，中学校224校），昭和44年から併せて花壇コンクール，学校教職員緑化功労者表彰も継続実施している。

2）緑の会は，通常の学習の中に緑化活動，園芸教育を取り入れ，自然愛護の心，集団での協調性，マナーの体得を理念として地道な活動を実践しており，みどりの少年団結成を提唱するとともに，最近の活動の一端が写真1のとおり紹介された。

花壇コンクール特選校の活動状況

3）宮城県みどりの少年団大会は，昭和50年第1回大会開催後（同年発足4団150名，大会参加3団150名），平成11年に第25回大会（参加42団800名）の節目を迎えるとともに，現在79団5,200名に達し各々の地域で活動の輪は広がっている。

2．「どんぐり通信」を介した，みどりの少年団交流と森林整備活動の展開

1）川崎町支倉みどりの少年団（上流側）と仙台市将監小みどりの少年団（下流側）の「交流の森」造成と保育管理の継承。

平成8年12月，下流側少年団へクヌギ，カツラの苗木を150本配布し，平成9年3月両団員など106名参画のもと，上流側少年団の学習林内に交流の森1.16haを造成し，毎年7月～8月にかけて両団交流を兼ねた保育管理を継続している。

2）どんぐり会員登録と「どんぐりの実」などの配布。「どんぐりの森」造成。

登録全会員228名（仙台市民82％）へ希望樹のどんぐりの実（クヌギ，コナラ，クリ，トチノキ，エゴノキ5種）を2～3箇／1名配布し，平成11年春まで育成を依頼するとともに，この間「どんぐり通信」を利用して情報交換をしている。

3）緑化運動50周年記念「どんぐりの森」造成と森林整備活動の実践継続。

平成11年6～7月にかけて3日間，どんぐり会員とその家族300名参画のもと，会員が自宅の庭先やベランダで育成した苗木400本（内苗木なし会員用に150本本会で用意）を各自が県民の森（平成7年山火事跡地）へ持参の上，復旧造林を行い0.10haの「どんぐりの森」を実現させた。

どんぐり会員とその家族の「どんぐりの木」植栽

4）さらに，当日は，宮城県森林インストラクターによる植栽，下刈指導とみどり十字軍の作業支援も行われた。

平成10年第1回インストラクター養成講座終了者10名（全30名）と同年独立再スタートのみどり十字軍10名（全96名）が，どんぐり会員と交流を深め，上記「どんぐりの森」を全0.20haに拡大，両団体の活動フィールドと市民交流の場が確保されるとともに，自主的，定期的保育管理が推進されることとなった。

3．「宮城の巨樹・古木」出版，配布による鎮守の森の継承活動の促進

1）出版経過

平成5～7年にかけて，県樹木医会と県内の巨樹・古木林等戸籍調査を行い，平成8～10年にかけて，補足調査，編集作業を実施し，県内全71市町村のシンボル的な樹木を1本以上選定するとともに，発行河北新報社，監修本会で分担した。

2）掲載概要

①候補木選定：天然記念物主体269本リストアップ，第1次選抜を基準に従い142本，第2次選抜で100本に厳選した。

②写真：特徴的なもの（新緑，花など）。

③紹介記事：故事，いわれなど400字，重要有名木800字。

④マップ原稿：1/25,000地形図へ位置図，目印物など記入。

⑤樹木データ：樹種，愛称，天然記念物などの指定年，指定状況，所在地，樹高，樹齢，胸高幹周など。

●秋田県

現況					
名称	社団法人　秋田県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日	
所在地	〒010-0931　秋田市川元山下町8番28号				
電話	018-883-0815	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春4月23日～5月31日 秋9月1日～10月10日
FAX	018-883-0816				

役職員	
会長	安杖　正義 (県議会議長)
理事長	加賀谷力司 (県林業育成協会会長)
事務局長	吉田　安孝
書記	阿部　訓子
常勤役職員数	計2人（うち役員0人）

主要事業

1．緑の募金フェスティバル開催
2．緑の募金普及啓発展示事業
3．秋田県植樹祭開催
4．緑の診断活動事業
5．郷土の森保存推進事業
6．記念の森造成植樹事業
7．ゴルファー緑化事業
8．グリーンキャンペーン事業
9．緑の少年団交流集会開催事業
10．ボランティア活動支援事業

緑の少年団	147団　19,562人	県担当部局	林務部林業政策課緑化班

組織の沿革

昭和25年4月1日	秋田県緑化推進委員会発足
昭和46年4月1日	社団法人秋田県国土緑化推進委員会発足 事務局を県林政課内に置く
平成11年3月29日	特定公益増進法人認定

歴代委員長・会長・理事長

菊池時之助（S25.3～26.4）
渋谷　倉蔵（26.3～30.4）
谷藤　征得（30.5～34.4）
中田　直敏（34.5～36.7）
加賀谷保吉（36.7～37.5）
佐藤善治郎（37.5～38.5）
大塚政市郎（38.5～40.7）
小松　武文（40.7～42.3）
佐藤　育秀（42.5～44.4）
西村　節朗（44.6～46.5）
田口　鉄蔵（46.5～48.6）
原　龍一（48.6～50.5）
木内　主計（50.5～54.4）
中田　初雄（54.5～60.6）
楢岡　貞龍（60.6～62.4）
加藤　義孝（62.5～H元.6）
田中　昌（元.6～3.4）
北林　昭助（3.5～5.6）
柴田康二郎（5.6～7.4）
谷藤　昌二（7.5～9.6）
北林　康司（9.6～11.4）
安杖　正義（11.5～現在）

【理事長】
柴田与太郎（S46.4～63.3）
加賀谷力司（63.4～現在）

歴代事務局長

藤原　康（S25.3～26.3）
千葉　清一（26.4～27.3）
土田　要吉（27.4～30.3）
池田清治郎（30.4～31.3）
貝塚　清明（31.4～41.4）
沼田　友雄（41.4～42.3）
太田　直一（42.4～45.3）
斎藤　博（45.4～46.2）
武石　圭一（46.2～47.12）
長島　栄吾（47.12～50.6）
小田島亀章（50.7～53.7）
能勢　誠夫（53.8～55.7）
輪湖　元彦（55.8～56.3）
木谷　修三（56.4～57.3）
東海林一郎（57.4～58.3）
松橋　重雄（58.4～60.3）
伊藤　昭三（60.4～62.3）
吉川　貞吉（62.4～63.3）
阿部　威（63.4～H2.3）
遠藤　幸七（2.4～3.3）
小野　昭夫（3.4～4.3）
石郷岡岩雄（4.4～5.3）
桃崎　富雄（5.4～7.3）
橋野　清蔵（7.4～9.3）
武藤　洋右（9.4～10.3）
越前谷　康（10.4～11.3）
吉田　安孝（11.4～現在）

主要活動事項

昭和25年～現在	秋田県植樹祭開催
昭和28年～現在	東北北海道地区緑化推進大会
昭和43年	第19回全国植樹祭を田沢湖町で開催
昭和44年～現在	緑の少年団活動促進事業実施
昭和47年～平成8年	苗木プレゼント会開催
昭和49年～現在	秋田県学校林・環境緑化コンクール開催
昭和52年～現在	秋田県民有林造林コンクール開催
昭和53年～現在	みんなの森造成事業実施
昭和53年	第2回全国育樹祭を田沢湖町で開催
昭和53年～55年	青少年の森造成事業実施
昭和54年～現在	ゴルファー緑化協力金による公共施設の緑化事業実施
昭和55年～現在	秋田県緑の少年団交流集会・活動発表会の開催
平成9年～現在	緑の募金フェスティバル開催
平成元年～現在	国民参加の森林づくり（緑の診断事業外）事業実施

活　動　の　特　色

1．秋田県植樹祭の開催

昭和25年国土緑化運動が一大国民運動として展開されることを契機に，同年５月２日に第１回秋田県植樹祭が県南の稲川町で開催された。

以来，開催地を変え継続して実施して来ており，51回目を迎える今年度は，５月19日に田沢湖町で開催することとしている。

半世紀に亘るこの植樹祭の開催は，本県の緑化推進の柱として大きな足跡を記してきた。

2．緑の少年団活動発表大会・交流集会の開催

緑の学習と相互の交流を通じて，健全な少年少女の育成に寄与することを目的に，実施してきた「緑の少年団リーダー講習会」をさらに充実し，昭和55年度から「秋田県緑の少年団交流集会・活動発表会」を開催してきた。少年団員の活動発表を初め，自然観察，森林学習，記念植樹等を行っている。昨年は，団員等150名近い参加者がテント泊による２泊３日の日程で，活動発表大会，キャンプファイヤー，フォークダンス，森の探検等を実施し，緑の大切さを学びつつ参加者の交流を図った。

3．みどりの診断活動推進事業

県内の貴重な保存樹や公共機関等の緑化木の診断を，樹木の所有者より依頼を受け日本樹木医会秋田県支部に委託し毎年50本程診断している。

幹周囲5.1メートルの樹齢600年をこえる（伝説）御神木の「けやき」や，樹齢1,100年位と推定される男鹿真山神社のかや等，後世に引き継いでいくべき貴重な樹木について，被害の有無，原因，樹木の形状，とるべき対策等詳細に診断し適切なアドバイスをしている。

4．緑の募金フェスティバル開催事業

平成８年まで実施してきた苗木プレゼント会を継続発展し，平成９年度より毎年４月29日の「みどりの日」に秋田市をメイン会場に県内３会場で実施している。知事をはじめ，県林務部長，東北森林管理局長，緑の募金運営協議会の会長・副会長による苗木のプレゼントや緑の少年団による街頭募金，樹木医によるみどりの相談等を実施している。

●山形県

現況					
名称	財団法人　山形県みどり推進機構		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒990-2363　山形市大字長谷堂字馬場2265				
電話	023-688-6633	緑化強調期間	春4月23日～5月31日	緑の募金期間	春4月23日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	023-688-6634				

役職員	
理事長	細野　武司 (県農林水産部長)
副理事長	山村　勝 (県農林水産部参事)
常務理事	渡部　功　志田　昌義
事務局長	佐藤　弘之
常勤役職員数	計13人（うち役員2人）

主要事業
1．みどりの日校庭樹配布
2．ゴルファーの緑化
3．緑化樹無償配布
4．山形県林業まつり
5．山形県植樹祭及び育植樹祭の開催
6．緑の少年団交流研修会及び活動発表会の開催
7．源流の森森林の学校・県民の森第四土曜日森林クラブ等森林教室の開催
8．春の緑化運動キャンペーン
9．ボランティア緑化
10．樹のホームステイ

緑の少年団	47団　2,349人	県担当部局	農林水産部森林課環境緑化係

組織の沿革

昭和31年4月1日	山形県緑化推進委員会設立
平成元年4月1日	㈶山形県緑基金（昭和61年7月22日設立）に統合
平成9年10月9日	特定公益増進法人認定
平成12年2月15日	㈶山形県みどり推進機構と改称
平成12年4月1日	㈳山形県緑化センターを統合

歴代委員長・理事長

委員長
加藤富之助（S31.4～42.5）
前田　巖（42.5～45.6）
白岩　石雄（45.7～48.3）
岸　伊一郎（48.3～50.5）
宍戸　一郎（50.5～52.3）
井上　秀雄（52.3～54.3）
近岡理一郎（54.5～55.5）
石垣　直一（55.5～57.3）
沼沢　善栄（57.3～58.5）
長谷川六郎（58.5～60.3）
丹野　茂治（60.3～63.4）
児玉　勉（63.4～H元.3）
理事長
長谷川六郎（元.4～12.3）
細野　武司（12.4～現在）

歴代事務局長

小関　福男（S31.4～35.8）
坂田源五郎（35.9～47.3）
荒木　聡助（47.4～53.3）
前田　武男（53.4～58.3）
奥山千代治（58.4～62.3）
岸　昭（62.4～63.3）
高橋　豊（63.4～H元.3）
高橋　弥（元.4～2.3）
横尾　庫松（2.4～3.3）
山口　清（3.4～4.3）
菅原　六郎（4.4～6.3）
三澤　泉哉（6.4～7.3）
金子仙之助（7.4～8.3）
大髙　勇司（8.4～10.3）
佐藤　弘之（10.4～現在）

主要活動事項

昭和31年～現在	山形県植樹祭（山形市熊の前）
昭和35年5月10日	全国植樹祭（上山市小倉）
昭和35年8月9日～10日	第8回東北・北海道地区緑化推進大会（山形市）
昭和42年9月13日	第15回東北・北海道地区緑化推進大会（山形市）
昭和46年～現在	緑化樹無償配布会開催
昭和49年9月19日	第22回東北・北海道地区緑化推進大会（山形市）
昭和49年10月15日	県下初の緑の少年団結成（鶴岡緑の少年団）
昭和50年～現在	緑の少年団交流研修会開催
昭和56年9月17日	第29回東北・北海道地区緑化推進大会（天童市）
昭和61年～現在	ゴルファーの緑化協力金による公共施設の緑化事業の実施
昭和63年7月22日	『'88グリーン・トーク　イン山形』
昭和63年9月18日	全国育樹祭（県民の森，上山市小倉）
平成元年10月18日	第37回東北・北海道地区緑化推進大会（天童市）
平成元年10月15日～現在	山形県育樹祭・緑の少年団活動発表大会（新庄市陣峰市民の森）
平成3年9月19日～21日	国民参加の森づくり総括指導者全国研修会（国土緑化推進機構主催　天童市）
平成7年10月17日	第43回東北・北海道地区緑化推進大会（上山市）
平成9年10月25日～26日	樹のホームステイ交流会（大江町・上山市）

活　動　の　特　色

1．山形県植樹祭及び育樹祭の開催

戦後間もない昭和22年にスタートした国土緑化運動は，昭和25年の全国植樹祭の開催により，一大国民運動として推進する基盤が整備された。

これと同時に山形県でも第１回植樹祭が開催され，以来，平成11年で50回を数えるに至っている。この間，造林及び緑化の推進並びに緑化思想の普及啓蒙に大きく貢献してきたが，県民参加の森づくり運動をさらに進めるため，第50回からは多彩なプログラム構成とし，休日に開催している。

また，昭和63年には，第12回全国育樹祭が本県で開催された。これを契機に平成元年から山形県育樹祭が毎年開催されている。

以来，春の植樹祭と秋の育樹祭は，それぞれ県内７地区の持ち回りの二大緑化行事として定着している。

2．山形県緑の少年団交流研修会及び活動発表大会の開催

本県の緑の少年団は昭和49年に初めて結成されて以来，県内市町に次々と結成され，平成２年には22市町の緑の少年団運営協議会からなる山形県緑の少年団連盟が設立された。

昭和50年から，緑の少年団育成事業を重要事業として掲げ，その活動に対する助成を始め，緑の少年団大会やリーダー研修会・交流研修会などを開催してきた。

さらに，平成２年からは，県内を３ブロに分けて，団員の交流研修会を開催している。宿泊訓練を兼ねたもので，公立の少年自然の家を中心に毎年夏休み期間中に開かれ，通常の活動枠を越えた交流と多彩なプログラムに参加団員の満足度は高く，各団の指導者からも好評を得ている。

3．樹のホームステイ

平成９年に㈳国土緑化推進機構の委託事業として実施した樹のホームステイ・21モデル推進事業を引き継いで，平成10年から山形県植樹祭・山形県育樹祭・緑の少年団指導者研修会等の行事で，参加者がミズナラ・トチ等の実を鉢に播種し，鉢は各家庭に持ち帰って苗木を養成している。この苗木は３～４年後に交流の森等での植樹を予定している。

4．源流の森森林の学校・県民の森第四土曜日森林クラブ等森林教室の開催

平成12年４月１日に㈳緑化センターとの統合にあわせ，事業項目に森林環境教育事業を新たに加え，県から受託している森林公園である「県民の森」・「源流の森」で，ボランティアの支援を受けながら，一般参加型の体験・学習プログラムを定期的に展開している。

参加層は，子どもたちが多いが，その他はリピーターが増える傾向にあり，参加者からは好評を得ている。

●福島県

現況					
名称	社団法人　福島県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日	
所在地	〒960-8043　福島市中町5番18号　林業会館内				
電話	024-524-1480	緑化強調期間	春3月1日～5月31日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	024-524-1480				

役職員	
会長	三保　恵一 (県議会議長)
理事長	池田　善治 (梁川町長)
専務理事	鈴木　博之
事務局長	渡辺　洋
常勤役職員数	計3人（うち役員1人）

主要事業

1．緑の募金運動·緑化基金の造成管理
2．ゴルファー協力緑化促進事業
3．テレホンカード緑化協力募金
4．市·地方緑化推進委員会の植樹祭の開催
5．親子緑の教室の開催
6．花いっぱい県民運動の実施(園芸教室·モデル花壇の造成·コンクール)
7．ふくしま緑の百景歩こう会の実施
8．緑の少年団活動発表大会
9．緑の少年団県大会の開催

緑の少年団	81団　6,047人	県担当部局	農林水産部森林整備課緑化推進係

組織の沿革

昭和25年4月1日	国土緑化福島県推進委員会を結成，県地方事務所単位に16の支部結成，委員会の事務局を県林務部におく
昭和46年4月	委員会の事務を(社)福島県林業協会に委託
昭和60年4月24日	社団法人福島県緑化推進委員会設立許可，委員会の事務局を林業会館内に設置

歴代委員長

蓮沼　龍輔（S25.1～30.4）
渡辺鉄太郎（30.5～32.3）
河原田盛雄（32.3～34.4）
伊藤　幟（34.5～35.6）
鈴木寅之助（35.6～36.7）
山口　一男（36.7～37.7）
馬目武之助（37.7～38.4）
佐川　幸一（38.5～40.3）
鈴木　省吾（40.3～43.6）
早川　竣通（43.7～45.3）
横井　政吉（45.3～46.4）
鈴木　正一（46.5～50.4）
池田　善治（50.5～54.4）
遠藤　正二（54.5～56.3）
中田　武雄（56.4～57.3）
笠原　太吉（57.3～58.4）
添田増太郎（58.5～60.1）
渡辺　正市（60.2～62.4）
早川　理久（62.5～H元.3）
大野　雅人（元.3～3.5）
太田　豊秋（3.5～5.4）
菅野　喬之（5.5～7.4）
山口　勇（7.5～9.4）
齊藤　卓夫（9.5～11.4）
三保　恵一（11.5～現在）

歴代事務局長

根津　武雄（S25.4～27.3）
石井　五六（27.4～31.3）
平野　孝二（31.4～33.3）
芳賀　武（33.4～38.3）
村上　正（38.4～44.3）
似内　長吉（44.4～45.3）
菅野　勉（45.4～52.4）
似内　長吉（52.4～60.3）
専務理事
新村　末男（60.4～H2.3）
専務理事
小松崎　宏（2.4～8.3）
事務局長
佐藤栄二郎（6.4～11.3）
専務理事
鈴木　博之（8.4～現在）
事務局長
渡辺　洋（11.4～現在）

主要活動事項

昭和23年～31年	福島県山林復興大会
昭和28年10月10日～17日	第7回全国山林復興大会
昭和28年～現在	東北·北海道地区緑化推進大会
昭和32年～50年	森林文化祭
昭和37年～59年	みどりの学校の開催
昭和42年～48年	グリーンガールによる緑のパレードの実施
昭和43年	明治100年記念「郷土の森」造成事業の実施，明治100年記念全国県の木献木記念植栽
昭和43年～現在	花いっぱい県民運動の実施，①花いっぱいコンクール，②花の児童画コンクール，③園芸教室
昭和49年～現在	緑の少年団大会の開催
昭和53年～現在	みんなの森造成事業の実施
昭和54年～現在	緑の少年団活動発表大会の開催
昭和59年～現在	ゴルファー協力緑化募金による社会公共施設等の緑化
昭和60(1985)年	国際森林年を記念し，'85ふくしま緑の百景選定
昭和60年～現在	緑化基金造成事業
昭和60年～平成9年	福島県林業祭
平成元年～現在	ふくしま緑の百景歩こう会の実施
平成5年～現在	ふるさとの緑を考える提言・作文コンクールの実施
平成8年～現在	森林整備合宿の集いの実施
平成10年～現在	うつくしま農林水産まつり

活　動　の　特　色

[緑の少年団大会]

緑を守り育てる活動をしている少年たちが一堂に会し交流を深める福島県緑の少年団大会を，昭和49年から毎年７月に大玉村のふくしま県民の森で開催している。

少年団員たちは，大会式典日をはさんで，前泊班と後泊班に分かれて，キャンプを行いキャンプファイヤーや交歓会などを通して楽しく友情を深めている。

毎年，少年団員と育成会員あわせておよそ2,500～3,000人が参加し盛大に開催している。

[緑の少年団活動実績発表大会]

昭和54年から毎年５月に緑の少年団活動実績発表大会を福島県林業試験場研修本館を会場に開催している。

毎年40数団の発表があり,それぞれの少年団は，５分間の持ち時間で，スライドやパネルなどを使って日頃の活動状況などを発表している。

特選（知事賞）に選ばれた少年団を全国大会へ推薦している。

福島県緑の少年団活動発表大会

[花いっぱい県民運動]

“毎日の生活に潤いを”と，花で県土を飾る「花いっぱい県民運動」を昭和43年から実施している。

この運動には，学校，工場，職場，病院，町内会などが参加，年々参加団体が増え大きな成果をあげている。この運動は，花壇コンクールの実施，花の種子の配布，園芸教室，花の児童画コンクールなどを行っている。

[ふくしま緑の百景歩こう会]

昭和60(1985)年，国際森林年を記念してふるさとの森や樹を見直し，その美しさを守り育てることを目的に「'85ふくしま緑の百景」を選定したヵ所を，「みどりの日」制定を記念し，毎年歩こう会を実施し都市部の住民と農山村の住民との交流を図っている。

毎年参加者が増え,本年は3,500人の参加があった。

花いっぱい県民運動

[ふるさとの緑を考える提言・作文コンクール]

「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発するため，小・中学生より作文を募集し，コンクールを実施し，優秀作品の表彰を行うとともに，福島民友新聞の「みどりの日」特集として掲載している。

[ふくしま緑の写真コンクール]

県民一人ひとりに緑の大切さを再認識してもらうため，県民が選んだ「緑の百景」を中心に，身近かにある「鎮守の森」や「公園」など，豊かな緑を題材とした作品を募集。

優秀作品を表彰するとともに，その作品のテレホンカードを作成し，緑の募金用資材として活用している。

[ゴルファー協力緑化促進事業]

福島県ゴルフ連盟及びゴルファーの協力によりプレイヤー一人一日50円の緑化協力募金により，緑豊かな住み良い県土づくりのため，社会公共施設等の環境緑化事業を実施している。

なお，昭和59年本事業開始以来平成11年３月末現在，県内85市町村427ヵ所の施設等に対し，181,595本の植樹をした。

ゴルファー協力緑化促進事業

●茨城県

現況					
名称	財団法人 茨城県農林振興公社(茨城県緑化推進委員会)		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒311-0122 茨城県那珂郡那珂町戸4589 茨城県植物園内				
電話	029-295-2150	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	029-295-2149				

役職員	
会長	
理事長	橋本 昌 (茨城県知事)
副理事長	川村 重信
専務理事	植木 章夫
事務局長	樋口 和安
常勤役職員数	計5人（うち役員1人）

主要事業	
1．森林整備	・ボランティアによる下刈・間伐等(合宿の集い) ・森林浴の道整備
2．地域緑化	・みんなの森造成
3．普及啓発	・緑化コンクール ・もりもくフェアの開催
4．森林愛護	・緑の少年団の交流・指導・育成
5．緑の募金活動	

緑の少年団	64団 5,947人	県担当部局	農林水産部林政課緑化グループ

組織の沿革	
昭和37年3月31日	茨城県緑化推進委員会設立
平成8年8月1日	緑の募金法公布に伴い，財団法人茨城県農林振興公社を指定法人に認可 事務局を茨城県林政課から当公社緑化部に移転

歴代委員長	歴代事務局長
塚本 育造（S55.7～56.10）	井坂 浩一（54.6～56.5）
常井 文男（56.10～58.1）	萩庭 勤五（S56.6～58.3）
久保田今朝武（58.1～58.12）	木村 隆臣（58.4～H元.3）
武藤 彬（58.12～59.12）	堀内 孝雄（元.4～3.3）
青木来三郎（59.12～60.12）	大久保雅史（3.4～5.3）
岡部 英男（60.12～62.1）	等々力 聡（5.4～8.3）
川口 三郎（62.1～63.7）	平原 俊次（8.4～8.7）
柴沼 弘（63.7～63.10）	小田 信雄（8.8～9.3）
佐川 清一（63.12～H2.3）	山本 賢（9.4～12.3）
新名 登（2.3～3.1）	樋口 和安（12.4～現在）
長谷川大紋（3.1～4.6）	
鈴木 正義（4.6～5.10）	
手塚 克彦（5.10～7.1）	
小川栄次郎（7.1～8.3）	
松浦 英一（8.3～8.8）	
橋本 昌（8.8～現在）	

主要活動事項	
昭和37年4月～平成8年7月	緑の羽根募金活動
平成8年8月～現在	緑の募金活動・緑化推進事業
昭和44年11月～現在	日立市北部森林愛護隊ほか63団(隊)を育成，指導(うち昭和55年以降，つくば市桜地区緑の少年団ほか40団(隊)の編成)
昭和55年10月29日	茨城の緑を守る県民大会開催（水戸市）
昭和56年5月20日	みどりのタイムカプセル埋設式(大子町・奥久慈憩いの森)
昭和60年11月3日～10日	茨城県森林まつり(県植物園ほか) 緑化ハンドブックの刊行
昭和61年6月1日	全森連第4回グリーンキャンペーン(筑波山) 茨城森林浴55選定及びガイドブックの刊行
昭和61年10月12日	第1回森林浴のつどい開催（県民の森）
平成元年4月29日～5月7日	みどりの日制定記念「森林フェスティバル」開催（県植物園ほか）
平成元年10月28日	全国緑の少年団活動発表大会（水戸市）
平成元年10月29日	第13回全国育樹祭（大子町）
平成元年12月1日	緑化の手引きの刊行
平成2年5月8日	みどりの日制定記念「地域植樹祭」の開催を始める（新治村）
平成4年11月3日	第1回「もりもくフェア」の開催
平成5年4月1日	一人一本運動の推進
平成6年3年26日	第1回茨城県緑化キャンペーン(水戸市)
平成7年8月20日	県民参加の森づくり推進事業の開始 森林ボランティア登録の下刈・枝打
平成8年2月1日	茨城の名木・巨樹の選定及び刊行
平成9年4月1日	緑の募金，家庭募金を開始（三和町）
平成9年11月3日	第1回森林ボランティア活動の実施(いばらき森林クラブ)
平成10年4月1日	森林浴の道整備事業の実施

活　動　の　特　色

1．緑の募金活動

募金額の68％が学校募金（額・割合ともに全国一），今後は家庭募金に重点をおき目標額達成をめざす。

県植物園で募金活動の那珂町森林愛護隊

2．森林（もり）づくりの集い，森林整備合宿の集い

一般公募や森林ボランティア（いばらき森林クラブ）による森づくりへの情報提供，支援活動。

奥久慈憩いの森での森林づくり作業体験

3．緑の少年団の育成と組織化

それぞれの地域において森林づくりや森林パトロール，森林や河川の清掃，緑の募金などの奉仕活動で活躍，さらに連携強化，組織化を図る。

大子町有林で植付け作業中の大子町緑の少年団

4．森林浴の道整備事業の推進

平成９年に選定された森林浴100コースの案内板等の整備を行い県民にみどりとふれあう場を提供する。
（補助事業：県 1/3，市町村1/3，緑化推進委員会1/3，平成10年から14年まで毎年20箇所）

那珂町県民の森地内

●栃木県

現況	名称	社団法人　栃木県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日	
	所在地	〒320-0024　宇都宮市栄町5－7				
	電話	028-643-6801	緑化強調期間	春4月～5月 秋9月～10月	緑の募金期間	春4月～5月 秋9月～10月
	FAX	028-643-6802				
	役職員	会長	大島　和郎 （兼職名　県議会議長）	主要事業	1．県植樹祭の開催 2．県育樹祭の開催 3．緑化行事 4．緑の募金 5．緑化関係の表彰 6．緑化相談・緑化指導 7．緑の少年団育成 8．緑と水の森林基金 9．とちぎ緑の基金 10．ゴルファー緑化協力	
		理事長	田村　修也 （兼職名　県整備公社理事長）			
		専務理事	大渕　恭平			
		事務局長	大渕　恭平			
		常勤役職員数	計4名（内役員2名）			
	緑の少年団	151団　35,598人		県担当部局	林務部造林課緑化担当	

組織の沿革

昭和25年4月17日	設立総会
昭和44年5月14日	社団法人設立許可
昭和60年11月26日	ゴルファー等による緑化推進協力事業運営委員会設立
昭和62年2月20日	とちぎ緑の基金推進委員会設立
平成7年12月8日	緑の募金委員会知事指定

歴代委員長・会長

高徳　徳治（S25.4～28.4）
小田垣健一郎（28.5～30.4）
稲川　時（30.5～31.5）
川俣　憲治（31.9～32.6）
小田垣健一郎（32.6～33.8）
島田藤五郎（33.8～34.4）
福田　新作（34.5～35.9）
大淵源一郎（35.9～36.6）
中島金太郎（36.6～37.3）
星　功（37.3～38.4）
島田藤五郎（38.5～39.1）
田村　賢作（39.2～40.3）
佐藤　昌次（40.3～41.3）
藤田　計次（41.3～42.4）
安藤満次郎（42.5～43.12）
沢田　武雄（43.12～45.3）
柿沼　利男（45.3～46.2）
館野　武男（46.2～46.4）
沢田　武雄（46.5～47.9）
大野陽一郎（47.9～48.10）
小池　知明（48.10～50.4）
和池　好美（50.5～51.7）
薄井　信吉（51.7～52.6）
鈴木乙一郎（52.6～53.9）
川野　敏男（53.9～54.4）
山口　公久（54.5～55.7）
鈴木　重幸（55.7～56.7）
平山　正二（56.7～57.7）
橋本雄飛太郎（57.7～58.4）
福富　金蔵（58.5～59.3）
高徳　正美（59.3～60.3）
岩崎　実（60.3～61.3）
板橋　一好（61.3～62.3）
前原　範三（62.5～63.3）
神谷　正三（63.3～H元.3）
田野辺充男（元.3～2.3）
野沢　隆治（2.3～3.4）
野沢　隆夫（3.5～4.3）
増渕　賢一（4.3～5.3）
西川　公也（5.3～7.3）
吉成　健造（6.3～7.3）
吉谷　宗夫（7.3～8.3）
岸野　節男（8.3～9.3）
新井喜久男（9.3～10.3）
村田　茂忠（10.3～11.5）
郡司　征夫（11.5～12.3）
大島　和郎（12.3～現在）

歴代理事長

沢田　武雄（S44.5～47.9）
大野陽一郎（47.9～57.9）
福田七右衛門（57.6～58.5）
福田　儀（58.5～62.2）
浅野　冨雄（62.5～H6.3）
竹田　敏二（6.3～11.3）
蓮見　珖一（11.4～12.3）
田村　修也（12.4～現在）

歴代専務理事

古橋　義雄（S48.6～57.6）
兼事務局長
吉田　光男（S58.6～63.5）
市川　友一（63.5～H6.3）
鈴木　稔（6.4～11.3）
大渕　恭平（11.4～現在）

歴代事務局長

石川　多市（S25.4～28.3）
渋井　兼（28.4～30.3）
渡辺　喜済（30.4～33.3）
小堀　三郎（33.4～34.3）
斎藤　真輔（34.4～37.3）
諏訪　彦市（37.4～38.3）
斎藤　二郎（38.4～41.3）
三尾谷正三（41.4～42.3）
亀井　章（42.4～44.3）
古橋　義雄（44.4～48.6）
渋谷　宏平（48.7～50.3）
岩田　重夫（50.4～51.3）
松本　順（51.4～58.5）

主要活動事項

昭和25年4月17日	栃木県緑化推進委員会の設立（事務局；林政課内）
昭和26年4月	第1回栃木県植樹祭（日光街道）
昭和41年	トチノキが県木に選定
昭和44年	ヤシオツツジが県花に選定
昭和45年	明治百年記念の森の造成（塩原町地内　国有林）
昭和57年5月23日	第33回全国植樹祭（矢板市　「県民の森」）
昭和58年8月	全国緑の少年団交流集会（東日本地区）（矢板市　「県民の森」）
平成2年4月	グリーンアドバイザーの設置
平成2年4月29日	みどりの日記念グリーンツアー（名木100選めぐり）
平成2年7月6日	栃木県緑の少年団連盟設立
平成8年10月12日	全国緑の少年団活動発表大会（日光市総合会館）
平成8年10月13日	第24回全国育樹祭（矢板市　「県民の森」）
平成9年10月5日	第1回栃木県育樹祭（矢板市　「県民の森」）
平成11年3月	緑づくり人材バンク設置

活　動　の　特　色

本県の緑化運動は，戦後の荒廃した森林，県土の緑化を進めようと，昭和25年に「緑の羽根」とともに発足した当委員会の設立とともにスタートし，それぞれの時代に即応した取組を 展開しながら，満50年の歴史を刻もうとしております。

特に，昭和57年に開催されました「第33回全国植樹祭」は，開催日の５月23日を栃木県「みどりの日」に制定等，緑化運動を県民参加の運動に盛り上げるうえで，大きな役割を果たしました。

この間，各種の記念植樹，緑の羽根募金運動，学校や家庭での緑化活動等幅広い運動を展開してきました。なかでも，緑の羽根募金の浄財による日光街道桜並木や皇太子御成婚記念の森の造成をはじめ,県土の永続的な緑化推進を目的とした「とちぎ緑の基金」や「ゴルファーの緑化協力金」の創設，さらには，県民総参加の緑づくりに必要なグリーンアドバイザーの設置とマロニエメイツの任命等は全国に誇れる先駆的，モデル的事業と思います。

当委員会では，県と一体になって「とちぎグリーンネットワークプラン」に基づき，植樹祭や苗木配布会に象徴される普及啓発運動，緑化・森林ボランティアや緑の少年団などの緑化実践活動，そして法制化された「緑の募金」の三つの運動を中心に展開しています。

普及啓発運動につきましては，春の苗木配布会(25市町村)，植樹祭に加えて，秋の育樹祭(とちぎ緑と森のつどい)，森林整備体験のつどいを実施しています。また，これらの緑化イベントを盛り上げ，緑化を普及するマロニエメイツと地域緑化ボランティア活動を支援する緑化推進員も活躍しています。

緑化実践活動の「緑化ボランティア」では，25市町村，77グループの方々が地域の環境緑化活動を展開し，また，県に登録した約250名の「森林ボランティア」は，年に十数回の集いに会員の時間に合わせて出席し，里山林等の森林整備に活躍しています。さらに,151団３万５千名の緑の少年団は，学校環境緑化関係コンクールにおいては，二十数年間連続して最高の特選校を受賞するなど活躍しています。郷土や自然を愛し，緑や環境を学習し，社会奉仕活動に励んでいる緑の少年団や緑化・森林ボランティアは，将来の緑化運動を背負って立つ重要な存在として，今後ともその育成助長と活動支援に努めます。

緑の募金は，市町村緑化推進委員会の設置拡大や地域や職場レベルでの支援体制の整備促進を図るとともに，ＪＲ駅頭をはじめ，各地での募金キャンペーン，県民一般からの緑の募金公募事業，募金協力者の地元新聞掲載等の活動を展開しています。

最後に，本県は森林が，県土の55％を占め，清らかな水は首都圏を潤し，四季折々の美しい自然環境は私達の生活に心の豊かさを提供してくれます。当委員会では県民の皆様の御意見をいただきながら，身近な自然との共存など，新たな緑づくり活動を展開し，私達のふるさと栃木がいつまでも美しく緑豊かでありますよう努めて参りたいと考えております。

●群馬県

現況	名称	社団法人　群馬県緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒371-0854　前橋市大渡町一丁目10番7号　群馬県公社総合ビル内				
	電話	027-280-6257	緑化強調期間	春4月23日～29日	緑の募金期間	4月1日～5月31日
	FAX	027-255-6265				
	役職員	理事長	小寺　弘之（群馬県知事）	主要事業	1．県植樹祭の開催 2．緑の募金運動の推進 3．緑化思想の普及および啓発 4．森林の整備並びに緑化の推進	
		常務理事	大関　修			
		常勤役職員数	計2人（うち役員1人）			
	緑の少年団	356団　58,738人		県担当部局	林務部緑化推進課緑化推進係	

組織の沿革

昭和23年3月　日	群馬県郷土緑化促進委員会設立
昭和25年3月18日	群馬県郷土緑化推進委員会と名称変更
昭和56年11月16日	事務局を前橋市紅雲町1-7-12群馬県住宅供給公社ビルへ移転
昭和59年11月9日	社団法人設立許可
昭和59年11月21日	群馬県緑化推進委員会と名称変更現在に至る
昭和60年5月17日	試験研究法人等の認定を受ける
昭和62年6月15日	同　上
平成元年9月27日	特定公益増進法人の認定を受ける
平成3年9月18日	同　上
平成6年3月18日	同　上
平成8年7月9日	同　上
平成11年2月3日	同　上
平成12年3月31日	事務局を群馬県公社総合ビルへ移転

歴代委員長・理事長

北野　重雄（S22.4.21～23.8.12）
伊能　芳雄（23.8.13～27.8.4）
北野　重雄（27.8.5～31.8.1）
竹腰　俊蔵（31.8.2～35.8.1）
神田　坤六（35.8.2～51.8.1）
清水　一郎（51.8.2～H4.5.31）
小寺　弘之（4.6.1～現在）

歴代事務局長

設立後群馬県（林務部）で執行
大場　岩雄（S53.8.1～55.3.31）
田子平三郎（55.6.2～56.3.31）
武井　尋匡（56.4.1～61.4.30）
関　啓二（61.5.1～H元.3.31）
石川　清（元.4.1～2.1.13）
志塚　猛（2.4.1～4.4.30）
関　三四郎（4.5.1～11.5.31）
大関　修（11.6.1～現在）

主要活動事項

昭和23年	第3回群馬県植樹祭を主催
昭和25年4月1日	緑の羽根募金運動開始（実績2,292千円）
昭和25年4月9日～11日	緑のニュースカーで県内を巡回放送
昭和26年2月	緑化運動基本計画策定
昭和26年4月4日	第2回全国植樹祭開催
昭和27年3月～5月	講和記念植樹運動実施，公有・私有林，学校林，部分林造成
昭和28年4月～5月	緑化推進映画祭開催
昭和38年4月1日	「植栽時の手入れ運動」展開
昭和38年11月～翌1月	オリンピック協力緑化バッチ募金実施
昭和52年4月1日	県活動助成金を交付，緑の少年団（3団体）結成
昭和54年8月17日	第1回緑の少年団交流集会開催
昭和54年8月20日	ＧＧＧによる緑化事業開始
昭和60年8月8日	国際森林年記念パレード開催
昭和60年12月	学校緑化5ケ年計画策定（GGG関連）
昭和63年9月26日	緑と水の森林基金推進会議を設置
平成2年	緑と水の森林基金事業開始
平成6年	第49回全国植樹祭の誘致に向け，知事と連名で国土緑化推進機構へ申し入れ
平成8年4月	ぐんまフラワーフェスティバルで募金
平成9年11月22日	県から森林づくりネットワーク整備事業を受託し，ボランティアの募集と森林整備を実施（3ケ年）
平成10年5月10日	第49回全国植樹祭開催記念テレカ発行
平成12年1月22日	県からみどり世紀の森づくり事業を受託し，森林整備を実施

活　動　の　特　色

1．緑化運動の推進

昭和12年の日支事変は昭和16年の太平洋戦争へと拡大し，国も山河も共に破れ果てた状況で昭和20年に戦争の終結を見たのであるが，本県では，昭和21年に東京営林局と県との共催で植樹祭を開催し，23年には発足したばかりの群馬県郷土緑化促進委員会（当委員会の前身）が主催し，県民に「国土保全」と「挙国造林」思想の普及を図った。

しかし，本県では昭和22年のキャサリン，23年のアイオン，24年のキティと連続襲来する台風に，県土はまさに『人為と天災とに因り，林野は全く荒廃其の極に達した，と申しても過言ではない(昭和25年県治山治水協会長，衆議院議員　藤枝泉介)』様相であった。

昭和26年の第２回全国植樹祭を機に緑化推進運動は高揚したが，昭和40年代までは緑化とは荒廃した県土，とりわけ森林の復旧であり，都市部を含む環境緑化も進めはするが，『戦争に伴う無謀とも言うべき略奪的伐採は遂に利根川水源の山々を禿山とし（中略）…従って大利根川の水源県である本県では（中略）…緊急造林計画を樹立し，五ケ年間に４万町歩の造林を完了する予定であります（昭和25年４月１日知事発言。以下略)』というように，治山事業，造林事業を中心に据えた林務部挙げての取り組みであった感がある。(現在，本県の人工造林地は11万㌶である。)

以来緑化事業(学校，公民館等公共施設)，緑化啓発事業さらに次代を担う緑の少年団の育成事業等その事業量の増加に加え，当然事業費も増嵩することとなった。このため，社会的にも責任ある組織であること，また資金も個人，企業等広く浄財を集めて事業費の確保を図ること等の理由により法人化を進め，名実共に県民運動を推進する母体として昭和59年に社団法人群馬県緑化推進委員会の設立をした。なお，翌年には寄付（募金）者に税法上の便宜を図るため試験研究法人等の認定を受けた。

2．緑の募金の取り組み

昭和25年から始まった緑の羽根募金は40年代までほぼ300万円で推移していたが，50年代に入り事業費の増加とともに募金目標額も上昇し，60年には1,200万円となった。しかし緑化事業の主は公的経費で賄うべきであり，委員会はあくまでその補完的役割を担うものである。委員会の使命は啓発活動であり，１人５円の募金を10円にするより２人に呼び掛ける努力をすべきであるという意見が根強く存在した。

また，発足当初は学校募金を行い，街頭でも児童・生徒が活躍していたが，家庭募金の徹底化により50年代で中止された。

現在は募金する企業が250社以上ある。

また，平成８年からはボランティアの協力によりぐんまフラワーパークで１週間の募金活動をしている。

3．緑と水の森林基金事業

昭和46年に群馬県議会が「利根川上流水源かん養についての意見書」を議決以来，県・議会・関係団体挙げて下流都県等に応益分担制度の創設を訴えてきた。従って，水源税，森林河川緊急整備税構想に対しても直ちに群馬県議会から地方自治法第99条に基づく意見書を提出した。

この間，県では単独予算により森林の水源涵養機能計量化調査（第一次が昭和58～63年，第二次が平成元年～７年）を実施し，森林が『緑のダム』である科学的根拠を得た。なお，第二次調査の内平成３～５年には当委員会を通じ，森林基金の益金が充当された。

4．森林整備事業

昭和38年の緑化運動主要実施事項では，「植林並びに植樹の手入れ如何は植栽木の成否を左右する最も肝要のことであり（中略）…『植栽時の手入れ運動』を強力に推進する」とされた。

緑化の基本は「木を植える」ことである。しかし，植えられた木が良好に育つか否かは，まさに手入れの如何に掛かっている。

現在本県の人工林の内緊急に間伐を必要とする森林は１万５千㌶あり，新たに５カ年計画で緊急間伐対策が実施される。これまで年３千㌶くらいの実施状況であるから相当な努力を要するであろう。

当委員会では平成９年度から県の委託事業によりボランティアによる森林整備を実施している。会員は80名（常時参加する者20～30名，内安全衛生の特別講習修了者20名）で，作業用具もチェーンソー３台，刈払機20台，２丁差し100セットを用意している。

特定の森林での活動ではなく，作業を必要とする森林へ出向くことを基本とし，月１～２回の作業を実施しているが，県の施策に呼応して側面から健全な森林の育成に寄与したいと考えている。

●埼玉県

現況	名称	社団法人　埼玉県緑化推進委員会				
	所在地	〒336-0011　浦和市高砂1丁目14－13　埼玉県林材会館内				
	電話	048-824-5978	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春4月15日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	048-825-2166				
	役職員	会長	なし	主要事業	1．県植樹祭の開催 2．緑の募金活動 3．コンクールの実施（緑化ポスター，森林フォト，学校環境緑化） 4．緑の募金緑化事業 5．森林サポーター育成事業 6．ゴルファーの緑化促進事業	
		理事長	土屋　義彦 （兼職名埼玉県知事）			
		専務理事	吉田　守生			
		事務局長	飛田　一成			
		常勤役職員数	常勤役職員　0			
	緑の少年団	32団　2,334人		県担当部局	埼玉県農林部林務課	

組織の沿革

昭和25年1月1日～平成7年9月29日
埼玉県郷土緑化推進委員会
平成7年9月29日　埼玉県緑化推進委員会設立総会
平成7年10月25日　社団法人設立認可

歴代委員長（理事長）

平沼弥太郎（S25.1～54.4）
市川　宗貞（54.4～H7.10）
土屋　義彦（7.10～現在）

歴代事務局長

県林務課長兼職
（S25.1～54.5）
関口　一郎（54.6～61.3）
大山　七郎（61.4～H4.11）
中村　卓司（5.4～7.10）
中村　卓司（7.10～10.3）
藤塚　三雄（10.4～11.3）
飛田　一成（11.4～11.11）

主要活動事項

緑の募金活動
　実績　昭和25年～昭和55年　10,910万円
　　昭和56年～平成11年　36,016万円
全国植樹祭　昭和34年4月5日（寄居町）
県植樹祭の開催　昭和25年～平成11年（県と共催）
その他
・公共施設の緑化事業に対する助成金の交付
　概ね年25カ所
・森林サポーター育成事業
　（登録人数）
　平成10年　162名　3団体
　平成11年　339名　6　〃
　（活動回数）
　平成10年　5回　189人
　平成11年　18回　607人
・緑の少年団交流会の開催
・ゴルファーの緑化促進会の委託による学校等の緑化事業に対する助成金の交付事業
　概ね年25カ所

活　動　の　特　色

社団法人埼玉県緑化推進委員会の取り組み

昭和25年に埼玉県，林業関係団体，ボーイスカウトその他学識経験者の常任委員を構成員として埼玉県郷土緑化推進委員会が設立された。平成7年には「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」の制定に伴い各市町村長を構成員として社団法人埼玉県緑化推進委員会として改組され，現在に至っている。

主な取り組みとして，当初，緑の募金運動，植樹祭の開催，緑化事業への交付金の交付，緑化作文・ポスターの募集で始まったが，現在では森林フォトコンテスト，緑の少年団の結成及び交流会の開催，森林ボランティア活動，ゴルファーの緑化促進協力委託事業等が加わり，幅広い活動を展開している。

1　緑の募金運動

募金活動は，学校募金，職場募金，街頭募金が中心，概ね各65％，25％，10％となっているが，近年の少子化にともない学校募金が減少傾向にある。

2　緑化事業への交付金の交付

緑の募金の益金による事業は「緑化事業への交付金の交付」が主要な事業（50％）であったが，平成10年以降は募金額の増大が見込めない中，事業種の増大により緑化事業への交付が25～30％に暫減傾向にある。

緑の募金による苗木の配布

3　緑の少年団活動

緑の少年団は，昭和57年までは1団，昭和58年～平成3年までは2団であった。平成4年以降年々増大し現在32団となっている。緑の少年団の個々の活動内容は結成市町村により異なっているが，県・緑推が主催する埼玉県植樹祭（4月実施）及び交流会（10月）への参加については，一同に会し盛大な交流活動を実施している。

4　森林ボランティア

平成8年度から始まった森林サポーター事業は，年々増大しており1,000人を目標にサポーターの登録事務，ボランティア活動の受け入れ森林所有者の登録事務，ボランティア活動実施（下刈り，枝打ち，間伐）に当たっての連絡調整及び現地案内を実施している。

県からの委託によるサポーター活動も年々増加し11年度は18回実施，延べ607人が参加している。

森林サポーター会員（11年度末）

森林サポーターによる下刈り作業

5　ゴルファーの緑化促進協力事業

昭和52年以来（23年間），ゴルファー募金による緑化事業を社団法人ゴルファーの緑化促進協力会から委託を受け，県内の315箇所の学校，公園等の公共的な施設において実施している。

●千葉県

現況	名称	社団法人　千葉県緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒299-0265　千葉県袖ケ浦市長浦拓2号580－148				
	電話	0438-60-1521	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春3月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	0438-60-1522				
	役職員 会長	井上　裕 (参議院議員)	主要事業	1．緑の募金法に基づく事業 2．緑と水の森林基金事業 3．千葉県緑化基金事業 4．公共施設等の環境緑化事業(ゴルファー緑化事業含) 5．千葉県みどりの祭典開催（県と共催） 6．緑化広報事業（緑化相談・広報誌発行） 7．県民植樹運動推進事業 8．みどりの少年団育成事業 9．みどりのボランティア推進事業 10．千葉県環境緑化センターの管理運営委託		
	役職員 常務理事（事務局長）	北川　清夫				
	役職員 常勤役職員数	計28人（うち役員23人）				
	緑の少年団	67団　7,786人	県担当部局	農林部みどり推進室企画調整班		

組織の沿革

昭和25年10月10日	千葉県緑化推進委員会設立
昭和59年11月1日	社団法人として設立認可 同年度に特定公益増進法人承認
平成10年4月1日	事務所を千葉市から袖ケ浦市に移転（環境緑化センター）

歴代委員長

斉藤万寿雄（S25.10～27.2）
川口為之助（27.3～37.2）
木島　義夫（37.2～49.5）
菅野　儀作（49.6～56.1）
始関　伊平（56.7～60.5）
井上　　裕（60.5～現在）

歴代事務局長

向井　十郎（S25.10～37.11）
新井賢太郎（37.11～55.10）
都筑　　篤（55.11～60.3）
香取　　実（60.4～H元.3）
榎本　　進（元.4～3.3）
村田　正彦（3.4～6.3）
川名　　進（6.4～7.3）
吉野　　儀（7.4～9.3）
鈴木　和彦（9.4～10.3）
北川　清夫（10.4～現在）

主要活動事項

昭和25年	第1回山林復興大会を県教育会館で開催
昭和26年～現在	緑の羽根募金運動の実施
昭和28年	第4回全国植樹祭を富津岬で開催
昭和28年	山林復興大会を郷土緑化県民大会に改名
昭和45年～現在	市町村の木が指定される，国土緑化運動ポスター原画コンクールの実施
昭和52年～現在	ゴルファーの緑化促進協力金による公共施設等の環境緑化事業の実施
昭和54年～現在	みどりの少年団育成事業の実施
昭和58年	千葉県人口500万人達成記念植樹
昭和59年～現在	千葉県緑化基金の造成管理
昭和60年	第9回全国育樹祭を富津岬で開催
平成5年～現在	広報誌「グリーンえっせんす」の創刊
平成8年～現在	みどりのボランティア推進事業の実施
平成10年～現在	千葉県環境緑化センターの管理運営
平成11年～現在	千葉県郷土緑化県民大会を千葉県みどりの祭典に改名

活　動　の　特　色

1　県民参加の植樹祭（千葉県みどりの祭典）

県と共催により行ってきた緑化大会は，昭和25年の第１回山林復興大会から数えて，平成11年でちょうど50年目を迎えた。みどりに関わる県の中心行事としてのこの大会も，長い歴史のなかで大会を取り巻く背景が大きく変わってきており,大会のあり方について見直しが必要となった。

今後は，行政改革の推進や県民意識の変化を踏まえ，式典の内容を簡素化して積極的に一般県民が参加出来るような併催行事（県民植樹・みどりの観察会・みどりの体験ウォーク等）を主体にした県民参加型の行事として新たにスタートした。約3,000人の参加者があり県民の関心の強さが感じられる。

みどりの少年団と県民参加による「千葉県みどりの祭典」

2　みどりの少年団の育成

本県のみどりの少年団は，67団体，7,786人が学校単位，自治単位に結団されており，それぞれ地域の特性に合った活動が行われている。

この行事の一環として毎年夏休みを利用して県内の「県民の森」において，３日間の日程で交流集会が行われる。

(今年度は約280名の参加)

内容は,交歓会ゲーム･キャンプファイヤー･自然観察会・体験林業・活動発表会等で特に体験林業での間伐作業は人気が高く，前夜の寝不足も忘れて夢中に動き回っている。

みどりの少年団キャンプにおける食事風景

3　樹木ラベル取付け運動

県内の小・中学校に間伐材を利用した樹木ラベルを無償配布をしている。一校当たり，50枚で毎年5,000枚を該当市町村（教育委員会）経由で配布する。

子供たちは，自分で名前を調べ，ラベルに書き込み樹木に取付ける，自分で取付けた樹木には愛着があり,名前は絶対に忘れることはない。

学校の教材としても広く利用されており申込みが非常に多い。

小学生が自分たちで校庭の木にラベルを取付けている

4　みどりのボランティア活動

平成８年度から始めた「みどりのボランティア推進事業」は，各種の広報活動を実施した結果，登録数は，延べ522名となっている。

活動は研修会を含めて毎年12回程度（一回当たり40名程度）実施しているが，希望者が多く人数の調整に苦慮している。

作業活動については,かなり熟練してきたが，本事業を円滑に実施していくためには，地域での実践者を中心とした組織化（グループ化）を早急に進める必要があり，将来的には各グループの自主的な活動に期待したい。

みどりのボランティア活動ー下草刈り

●東京都

現況	名称	財団法人　東京都農林水産振興財団　東京緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒190-0022　立川市錦町２－６－５　立川三恵ビル３Ｆ				
	電話	042-529-5945	緑化強調期間	春 みどりの日(4月29日)を中心にした一週間	緑の募金期間	春3月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	ＦＡＸ	042-522-5397				
	役職員	会長	石原慎太郎 (東京都知事)	主要事業	1．森林の整備事業 2．緑化の推進事業 3．緑の国際協力 4．緑化普及啓発事業	
		理事長	浪越　勝海 (労働経済局長)			
		専務理事	小林　辰男			
		事務局長	(専務理事事務取扱)			
		常勤役職員数	計28人（内役員１名）			
	緑の少年団		八王子森林パトロール隊　100人	都担当事務局	労働経済局農林水産部林務課	

組織の沿革

昭和27年2月15日	首都緑化推進委員会設立
平成８年６月７日	㈶東京都森林整備公社を法５条１項の法人に指定
平成10年４月１日	㈶東京都農林水産振興財団に移行
平成11年４月１日	東京緑化推進委員会に名称変更

歴代会長	歴代事務局長
安井誠一郎（S 27.2～34.4）	井上　清（S 27.2～47.8）
東龍　太郎（34.4～42.4）	森脇　龍雄（47.8～48.3）
美濃部亮吉（42.4～54.4）	佐伯　操次（48.12～H元.2）
鈴木　俊一（54.4～H 7.4）	河合　昇（元.2～8.9）
青島　幸男（7.4～11.4）	安達　瞳子（9.2～現在）
石原慎太郎（11.4～現在）	

主要活動事項

◎森林の整備事業

・ボランティア団体の間伐など森林の整備活動，下草刈り，枝打ちなどの林業体験教室等の助成。

・指定事業募金による森づくり
　記念の森づくり等使途を指定した企業募金による「森づくり」事業

・下草刈り等森づくり体験，木工教室など親子で山里生活をする森隣生活体験キャンプの実施

◎緑化の推進事業

区市町村，私立学校，ボーイスカウト，ガールスカウト等の森林づくり活動，学校や公園等街の緑化活動，緑化まつりの開催など緑化の普及活動助成。

◎緑の国際協力

熱帯林の再生や砂漠化防止のための造林など㈳国土緑化推進機構を通じての国際協力。

◎緑化普及啓発事業

ポスター原画・標語の募集，ポスター原画展示会の開催，東京国際フラワーショウへの出展，新聞広告等緑化の普及啓発

緑化活動の特記事項

平成４年12月　本委員会設立40周年を記念して「緑―首都緑化40年の歩み」を発行し，各関係方面に配布。
　また，緑の募金活動の向上に協力願った，自治会・町会，学校並びに団体に対して感謝状を贈呈した。
平成11年10月　緑化ポスター原画募集で応募のあった作品のうち優秀作品240点を秋の緑化強調月間における緑化キャンペーン並びに応募生徒の創作の励みとするため展示会を都庁議会棟(都政ギャラリー)で開催。
平成11年　企業の森づくりとして，水源のかん養機能，豊かな生態系，里山の景観の保全，都市住民と山村住民とのふれあいの場や地域の活性化などの「森林づくり」を行った。
平成11年　農業協同組合並びに，森林木材関係団体の窓口に緑の募金箱を設置。
毎年４月29日　秋篠宮同妃両殿下みどりの感謝祭に御臨席（日比谷公園）

山の植樹祭

・第35回(S57．４．８)　青梅市二俣尾（都主催，青梅市，本会協賛）
・第36回(58．５．31)　八王子市恩方町（都主催，八王子市，本会協賛）
・第37回(59．４．19)　西多摩郡五日市町（都主催，五日市町，本会協賛）
・第38回(60．４．18)　西多摩郡奥多摩町（都主催，奥多摩町，本委員会協賛）
・第39回(61．４．24)　八王子恩方町（都主催，八王子市，本会協賛）
・第40回(62．５．20)　西多摩郡日の出町（都主催，日の出町，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，本会協賛）
・第41回(63．４．26)　西多摩郡檜原村（都主催，檜原村，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第42回(H元．５．８)　青梅市「永山総合グランド」(都主催，青梅市，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第43回(２．４．26)　西多摩郡五日市町「町営運動公園」(都主催，五日市町，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第44回(３．５．16)　西多摩郡奥多摩町「登計原山広場」(都主催，奥多摩町，東京都森林整備公社，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第45回(４．５．26)　八王子市「高尾山薬王院広場」(都主催，八王子市，東京都森林整備公社，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第46回(５．５．27)　西多摩郡日の出町「相沢沖町民グランド」(都主催，日の出町，東京都森林整備公社，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第47回(６．５．25)　西多摩郡檜原村「村営総合運動場」(都主催，檜原村，東京都森林整備公社，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本委員会協賛，檜原村立檜原中学校協力）
・第48回(７．５．30)　青梅市「永山公園総合グランド」(都主催，青梅市，東京都森林整備公社，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第48回(８．５．19)　第47回全国植樹祭開催のため休止
・第49回(９．５．28)　あきる野市「戸倉運動場」(都主催，あきる野市，東京都森林整備公社，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会，本会協賛）
・第50回(10．４．30)　西多摩郡奥多摩町「総合運動場」(都主催，奥多摩町，首都緑化推進委員会，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会）
・第51回(11．５．20)　八王子市(都主催，八王子市，㈶東京都農林水産振興財団，東京都木材団体連合会，東京都森林組合連合会，東京都治山林道協会）
・平成９年の第49回から「東京都山の植樹祭」を「東京都植樹祭」に名称変更

街の植樹祭

・第41回(Ｓ57．４．24)　目黒区「区立西郷山公園」(都，区，本会共催）
・第42回(58．５．18)　多摩市「私立鶴牧東公園」(都，区，本会共催）
・第43回(59．４．14)　荒川区荒川２丁目防災広場(都，区，本会共催）
・第44回(60．４．13)　府中市立公園(都，区，本会共催）
・第45回(61．４．19)　大田区「区立平和の森公園」(都，区，本会共催）
・第46回(62．５．31)　立川市「私立柴崎中央公園」(都，区，本会共催）
・第47回(63．４．16)　文京区「文京区教育の森公園」(都，区，本会共催）
・第48回(H元．４．24)　東大和市「上仲原公園」(都，区，本会共催）
・第49回(2．４．29)　葛飾区「区立新小岩公園」(都，区，本会共催）
・第50回(３．４．29)　調布市「多摩川緑地公園」(都，区，本会共催）
・第51回(４．４．29)　板橋区「区立城北公園」(都，区，本会共催，㈳東京都公園協会協賛）
・第52回(５．４．29)　府中市「市立すずかけ公園」(都，区，本会共催，㈳東京都公園協会協賛）
・第53回(６．４．29)　品川区「区立西大井広場公園」(都，区，本会共催，㈳東京都公園協会協賛）

●神奈川県

現況					
名称	財団法人　かながわトラストみどり財団		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒238-0006　神奈川県横須賀市日の出町1－4－7　神奈川県横須賀商工労働センター内				
電話	0468-28-4545	緑化強調期間	春4月1日～同30日	緑の募金期間	春3月1日～5月31日
FAX	0468-28-4600				
役職員	会長	――	主要事業	1．県植樹祭の開催（毎年4月1回） 2．感謝状（理事長名で多額緑の募金寄付者に） 3．緑化運動コンクールの実施（毎年9月） 4．相川賞基金の管理	
	理事長	上野　豊			
	専務理事	――			
	事務局長	本間　正幸			
	常勤役職員数	計5人（うち役員0人）			
緑の少年団	5団　19,916人		県担当部局	環境農政部緑政課緑政推進班	

組織の沿革

昭和35年2月10日　神奈川県緑化推進委員会設置
昭和50年7月16日　社団法人に組織替えする
平成7年4月1日　㈶みどりのまちかながわ県民会議と統合して「財団法人かながわトラストみどり財団」と名称変更

歴代委員長

（会長）
松岡　正二（S35.2～35.6）
甘利　正（35.6～36.6）
橋中千代蔵（36.6～38.4）
小川　要（38.6～39.6）
篠崎　隆（39.6～40.7）
石井若三郎（40.7～41.6）
青木豊三郎（41.6～42.4）
原　正一（42.5～42.9）
加藤　詮（42.9～46.5）
蔵原　年光（46.5～47.6）
池上　貞治（47.6～48.5）
山本十九三（48.5～49.5）
峯尾　恭人（49.5～50.4）
三谷　光雄（50.5～51.5）
嶋村　尚美（51.5～52.5）
杉元　恒雄（52.5～53.5）
三好　米男（53.5～54.4）
山田吉三郎（54.5～55.5）
岩本　直通（55.5～56.5）
斎藤　文夫（56.5～57.5）
小山田兵衛（57.5～58.5）
田島　信雄（58.5～59.5）
古家　安治（59.5～60.5）
石渡　清元（60.5～61.5）
小沢　金男（61.5～62.5）
相馬　元治（62.5～63.5）
竹内　清（63.5～H元.5）
梅沢　健治（元.5～2.5）
井口　隆時（2.5～3.5）
原　正巳（3.5～4.5）
横山　哲夫（4.5～5.5）
鈴木　一誠（5.5～6.5）
熊山喜三郎（6.5～7.3）
（合併によりかながわトラストみどり財団理事長）
上野　豊（7.4～現在）

歴代事務局長

古谷　幸三（S35.2～41.4）
高橋　和男（41.4～45.4）
関野　保夫（45.4～47.10）
山崎　良治（47.10～51.7）
仲安　俊雄（51.7～56.6）
石川　英文（56.7～61.3）
真壁　俊（61.4～H2.3）
原　仁悟（2.4～7.3）
中村　光（7.4～8.3）
秋元　実（8.4～9.3）
本間　正幸（9.4～現在）

主要活動事項

昭和35年	緑の羽根募金活動開始
昭和36年4月	指定校緑化事業始まる。16校指定
昭和37年	緑化運動ポスターコンクール始まる。
昭和39年4月	オリンピック協力緑化募金
昭和40年	緑化運動標語コンクール始まる。
昭和45年	緑の羽根募金のほか緑化バッジ等による募金始まる。
昭和52年	社会緑化積立事業始まる。
昭和52年8月	緑の募金額1,000万円突破
昭和52年8月	㈳国土緑化推進委員会の委託事業による「みんなの森」造成事業始まる。3か所
昭和52年11月	賛助会員の表彰事業はじまる。
昭和53年3月	天皇陛下御下賜金によるヤマボウシ丹沢湖周辺に植樹
昭和55年3月	緑化推進校479校
昭和59年9月	相川賞基金制度を設立，林業，緑化功労者表彰事業始まる。
昭和61年	社会緑化積立事業として公共施設の緑化事業を実施
平成元年5月	丹沢グリーンフェスティバルで知事，理事長等が天皇陛下御下賜金記念植樹（ヤマモミジ3本）
平成4年4月	「緑と水の森林基金」によるグリーキャンペーン事業始まる。
平成4年11月	第9回全国都市緑化かながわフェアに出展
平成5年10月	かながわ都市緑化小田原フェアに出展

活　動　の　特　色

神奈川県緑化推進委員会は，昭和35年２月に設立され，同時に「緑の羽根募金」活動を開始してきました。平成７年４月に(財)みどりのまちかながわ県民会議と統合して，現在の名称「かながわトラストみどり財団」になりました。

したがって，当財団は，県内の緑地保全のためのトラスト運動も重要な事業のひとつですが，ここでは，旧緑化推進委員会の事業分野について特色をまじえて述べてみたいと思います。

〔丹沢の緑を育む集い〕

丹沢の環境保全と植生を目的に神奈川県，秦野市等と共催で年２～３回開催しています。これは丹沢大山保全計画の県民参加による保全対策の一環として，ボランティアの参加によって植樹や鹿の食害から樹木を守る防護ネットの設置を行うものです。春（４月）は，「緑の募金」に毎年多大な寄付をいただいているトヨタウエインズグループ(平成11年12月に農林水産大臣の感謝状受章)と当財団等が募集したボランティアの参加を得て，県立秦野ビジターセンターから苗木を背負って約３時間の登山の後，植樹や種蒔きをします。植える苗木は，ブナ，ヤマボウシ，ケヤキなど約200本，またフジアザミ，フジウツギなどの種子を蒔きます。秋（９月と10月）には，ボランティアの協力を得てヤマハンノキ等の植樹を行ったり，ウラジロモミをニホンジカから守るため，防護ネットを幹の周囲に覆うようにして取り付けたりしています。

この事業は，平成10年度から開始されたものですが，今後も森林保全対策やゴミ対策，動植物の生息調査を実施するなど生物多様性な丹沢の保全に取り組んでいきます。

〔指定校緑化事業〕

当該年度の「緑の募金」に協力いただいた学校を対象に，県教育委員会及び県私学宗教課の推薦により，１校当たり12万円以内の助成金を交付し，小・中・高校の植樹活動を支援しています。

この事業は，児童・生徒が学ぶ校庭に多くの樹木を植えて，緑豊かな環境の中で勉学に励み，自然を大切にする心を養うことを目的に昭和36年度から始まりました。そして平成11年度までに実に延べ946校が指定され，緑化が進められてきました。

〔ふれあい緑化事業〕

公共的な場所に地域の人々が行う植樹活動や苗木の配布を支援しています。この事業も歴史が古く，まだ戦後の緑の復興が盛んな昭和35年度から始まりました。公園をはじめ，児童公園，公共広場，公的施設の敷地，堤防など県内を広く対象に植樹したり，苗木を配布してきました。樹種は桜，金木犀，コナラ，花水木，茶山花，もみじ，サルスベリなど数え切れない種類にわたっています。

〔神奈川県植樹祭〕

毎年４月29日の「みどりの日」にちなんで，当財団では県，秦野市，かながわ森林づくり公社と共催で，県民参加による植樹祭を実施しています。そして平成12年度で第51回を迎えます。多くの県民の方々をはじめ，知事，市長，関係機関・団体の皆様の出席のもとに盛大に行われます。植樹の場所は，箱根の湖尻地区や丹沢山麓といった植樹祭として適当な場所が選ばれます。

〔緑の少年団活動〕

本県の緑の少年団は，５団体，約２万人の構成員を擁しています。毎年９月に交流集会を日帰り又は１泊２日で箱根やそのほかの場所で開催しています。

日常は，森林や林業についての野外活動，市町村や県の行う植樹祭に積極的に参加しています。また，緑の募金活動，公園の清掃など幅広いボランティア活動に励んでいます。

「丹沢の緑を育む集い」植樹風景（平成11年４月25日）

●山梨県

現況						
名称	財団法人　山梨県緑化推進機構			会計年度	1月1日～12月31日	
所在地	〒400-0031　甲府市丸の内一丁目9番11号　山梨県県民会館内7階					
電話	055-226-6279	緑化強調期間	4月1日～5月31日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋10月1日～10月31日	
FAX	055-226-6279					
役職員	会長	天野　建 (兼職名　山梨県知事)	主要事業	1．県民緑化まつりの開催 2．交流の森整備事業 3．21万本植樹活動事業 4．国際交流事業（ミャンマー） 5．森林の啓発用冊子発刊事業（くらしと森林） 6．緑化ポスターコンクールの実施 7．環境緑化功労者の表彰 8．公募事業の実施(森林整備，緑化の推進等の事業) 9．親子緑の集いの開催 10．森林浴の集いの開催 11．緑の少年隊育成事業 12．みどりの基金管理		
	副会長	横内　公明 (兼職名　山梨県県議会議長)				
	理事長	志村　一馬 (兼職名　森林環境部長)				
	常務理事	有墨　忠敏				
	事務局長	小池　恒男 (兼職名　林業公社事務局長)				
	常勤役職員数	3人（内役員1人）				
緑の少年団	69団　3,348人		県担当部局	森林環境部みどり自然課景観緑化担当		

組織の沿革

昭和43年9月16日	山梨県緑化推進委員会設立総会
昭和44年3月31日	県内6地区に緑化推進会議設立完了
昭和45年12月31日	県内64市町村に緑化推進組織を設立完了
平成2年1月31日	財団法人山梨県みどりの基金を設立
平成2年2月13日	法人組織の許可をうける
平成2年4月1日	事務局を県庁内から山梨県県民会館に移転
平成4年2月19日	特定公益増進法人の認定を受ける
平成6年9月6日	第2回目の特定公益増進法人の認定を受ける
平成7年11月13日	山梨県緑化推進機構と名称を変更
平成7年11月30日	緑の募金の団体指定の許可を受ける
平成8年8月27日	第3回目の特定公益増進法人の認定を受ける
平成10年12月7日	第4回目の特定公益増進法人の認定を受ける
平成11年2月2日	交付金交付要綱，事業実施要領，庶務規程等の一部改正を行う

歴代会長

山梨県緑化推進会議
(歴代県議会議長が務める)
竹下　信夫（S43.9～44.7）
奥秋　保次（44.7～45.3）
石川　亘（45.3～45.10）
長谷部正順（45.10～46.4）
小林　昌治（46.5～47.10）
有泉　亨（47.10～48.10）
井出　佐重（48.10～50.4）
内藤　登（50.5～51.3）
田中猪一郎（51.3～51.12）
望月　金三（51.12～52.9）
代長　又雄（52.9～53.7）
山本菊五郎（53.7～54.4）
大森　末雄（54.5～55.3）
青沼　富秋（55.3～56.3）
西室　主計（56.3～57.3）
山田　健治（57.3～58.4）
島津　庄次（58.5～59.3）
雨宮　茂雄（59.3～59.12）
三森　祐昌（59.12～60.10）
高村権佐久（60.10～61.7）
八巻　恭介（61.7～62.4）
常磐　光雄（62.5～62.12）
堀内　一男（62.12～63.10）
深沢登志夫（63.10～H元.6）
保坂　司（元.6～2.1）

山梨県みどりの基金
(歴代知事が務める)
望月　幸明（H2.1～3.2）
天野　建（3.2～現在）
平成7年11月より
山梨県緑化推進機構

歴代事務局長

(歴代本庁課長が務める)
浅川　忠臣（S43.9～47.3）
岩下　勉（47.4～49.3）
原田　正之（49.4～51.3）
斎藤　義男（51.4～53.3）
相沢　清弘（53.4～56.3）
有井　金弥（56.4～59.3）
植松　光正（59.4～61.3）
海川　好友（61.4～62.3）
依田　和幸（62.4～63.3）
福本　健（63.4～H元.3）
熊谷　喜孝（元.4～2.3）
仙洞田　勇（2.4～7.3）
(常務理事兼事務局長)
森山　正彦（H7.4～10.3）
有墨　忠敏（10.4～11.7）

(事務局長)
小池　恒男（H11.7～現在）

主　要　活　動　事　項

昭和44年5月17日	第一回県土緑化推進大会開催	昭和62年10月18日	第一回山梨県育樹祭を開催
昭和45年5月	25市町村を対象に緑地帯造成事業を実施	昭和62年10月17日	東日本地区緑化推進シンポジュウムを開催
昭和46年5月	市町村の森を造成	昭和63年8月9日	グリーンスクールの開催
昭和47年5月17日	県土緑化置県百年記念植樹祭を開催	平成2年10月14日	第14回全国育樹祭の開催
昭和48年5月12日	県土緑化入学記念植樹祭を開催	平成3年3月	甲斐の森林をつくった人々の発刊
昭和49年5月	ふるさとのさくらを守る運動推進事業実施	平成3年3月	基金だよりの発刊始まる
昭和50年5月	県土緑化昭和50年記念植樹祭を実施	平成4年3月	森林浴コースガイドの発刊
昭和53年5月	みんなの森造成事業を実施	平成4年3月	みどりの基金シンボルマークの策定
昭和55年4月	県民緑化活動推進事業（小学校入学児童全員にカエデの苗木を配布）	平成5年3月	山梨県緑化運動標語の制定
		平成5年8月	青少年国際交流事業始まる
昭和58年5月15日	全国野鳥保護のつどいの開催	平成8年1月	緑の募金による公募事業の開始
昭和60年5月24日	国際緑のフォーラムを開催	平成9年12月	花の名所地ガイドブックの発刊

活　動　の　特　色

1　緑化キャンペーンと緑の募金活動

毎年4月1日に，うるおいと安らぎのある豊かな「環境首都・山梨」を創ることを目的に，緑化キャンペーンくを駅前等に於て実施している。

また，募金活動は，家庭募金は「1家庭1日1円募金」運動を，企業募金は「1企業1日100円募金」運動を展開している。

2　交流の森整備事業

県内6地区にボランティアによる交流の森の造成を緑の募金事業として実施している。

3　21万本植樹活動事業

2001年に本県で開催する「第52回全国植樹祭」を一つの目標に，平成11年度から3年間で21万本の苗木を植栽し，21世紀の森づくりのモデルとなる豊かな森林を私達の手で作り上げてゆこうとするもので，ボランティアを県民一般から募集して県の委託事業として実施している。すでに，2年間で2,515人が参加して，予定通りの苗木を植栽している。

4　県民緑化まつりの開催

当初は県土緑化植樹祭，昭和59年度から山梨県植樹祭として4月か5月に実施していたが，平成3年度から県民緑化まつりと名称を変更して，毎年4月29日のみどりの日に開催している。

5　国際交流事業の実施

次代を担う緑の少年隊の代表や林研グループ等を海外に派遣し，国際交流を通して緑に対する理解を深めるとともに，緑化推進の中核的な担い手の育成を図るた

めに，平成5年度から毎年実施している。10年度はラオスへ，11年度はミャンマーへ各10名づつ派遣している。

6　緑の少年隊交流集会の開催

昭和63年9月に緑の少年隊山梨県連盟を結成し，毎年7月26日・27日の2日間，緑豊かな八つ岳高原に於いて，各隊から5人づつ，約200人が参加して6地区代表による活動発表大会や植物学学習並びにナイト追跡ゲーム及びウォークラリーなどの交流活動を行い，少年隊活動の充実強化に努めている。

7　緑の募金公募事業の実施

平成2年みどりの基金設立時から実施している。平成11年度は，森林の整備事業に616万円，緑化の推進事業に1,634万円，国際緑化に51万円を交付している。

●新潟県

現況					
名称	社団法人　新潟県緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒951-8053　新潟市川端町2丁目9番地　新潟県林業会館内				
電話	025-225-3160	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	025-225-3160				

役職員	
会長	
理事長	磯部　春昭 (兼職名　新潟県副知事)
専務理事	佐藤　清
事務局長	田澤　昇
常勤役職員数	計2人（うち役員1人）

主要事業
1．緑の募金活動事業 2．緑化推進普及啓発事業 3．森林造成整備事業 4．緑の少年団育成活動事業 5．グリーンボランティア推進事業 6．緑と水の森林基金事業

緑の少年団	56団　3,487人	県担当部局	農林水産部治山課緑化係

組織の沿革

昭和24年1月22日	新潟県学校植林協議会(設立)
昭和25年4月21日	新潟県国土緑化推進委員会(設立)
平成7年12月19日	社団法人新潟県緑化推進委員会(設立) (平成7年12月25日登記)
平成8年4月1日	事務局を新潟県庁から新潟県林業会館に移転

歴代委員長

松井　敬	(S25.4～38.2)
吉田　巌	(38.2～53.2)
長谷川吉雄	(53.2～H元.6)
厚地　武	(元.6～6.4)
海老　忠彦	(6.4～7.12)
川村　仁弘	(7.12～10.7)
今井　康容	(10.8～11.5)
磯部　春昭	(11.6～現在)

歴代事務局長

大谷　鐘吾	(S25.4～33.7)
大谷　鐘吾	(33.12～36.3)
大道時辰栄	(36.4～41.12)
熊倉　安芳	(42.4～43.12)
大谷　鐘吾	(44.1～49.8)
駒林　広一	(49.9～52.3)
丸山　善夫	(52.4～57.3)
田宮　芳夫	(57.4～59.3)
加沢　貫二	(59.4～60.3)
船山　巌	(60.4～61.3)
高橋太一郎	(61.4～63.3)
清田　直昭	(63.4～H8.3)
田沢　昇	(8.4～現在)

主要活動事項

昭和25年4月	「緑の羽根」募金運動開始
昭和25年10月	学校植林のしおり刊行
昭和26年4月	県内各地で苗木即売市開催
昭和28年4月	生徒を対象にグリーンバスの実施
昭和31年	全国にさきがけ学校環境緑化コンクールを開催
昭和31年11月	新潟市大火の復興緑化記念植樹祭開催
昭和33年10月	学校林造成助成金交付制度開始
昭和39年11月	本会創立15周年記念大会（弥彦村）
昭和43年10月	第1回環境緑化講習会を開催
昭和45年12月	本会創立20周年記念式典(弥彦村)
昭和49年5月21日	第23回全国植樹祭開催（黒川村）
昭和53年7月	黒川村緑の少年団が県内第1号として結成される。
昭和55年7月	第1回緑の少年団交流集会開催(10団　736名参加)
昭和56年10月12日	第5回全国育樹祭（黒川村）
昭和63年3月	「緑と水の森林基金」設置
平成元年4月	「緑の羽根」家庭募金の開始
平成2年10月	「緑の羽根募金」40周年記念植樹実施（全市町村）
平成4年7月	緑に親しむ「新潟県森林浴の森100選」刊行
平成8年4月	「緑の羽根募金」から「緑の募金」に名称変更
平成11年6月	緑の文化財新潟県「巨樹の見どころ」刊行
平成11年6月	新潟県緑化推進委員会設立50周年記念誌の刊行

活　動　の　特　色

1．緑の募金推進事業

緑の募金運動の展開は，広く県民から森林・緑の重要性について理解と認識を深めていただき，この善意を結集することが大切であり，このため，新潟県では一人でも多くの県民に運動の趣旨を呼びかける方法として家庭募金を導入することとし，平成元年度から，全県的に家庭募金の取り組みを各市町村にお願いし，これに従来からの職場募金，学校募金及び街頭募金等を併せて実施し現在に至っている。

なお平成元年度からは，新しく賛助会員等の企業に対しても積極的な募金活動の取り組みを依頼し運動の拡大を図っている。

例年４月１日募金の初日には，県都新潟市の中心街で，県知事，県議会議長，新潟市長はじめ関係者，緑の少年団等の参加協力を得て，盛大に街頭募金を実施している。

４月１日，新潟日報朝刊の一頁全面に協賛団体の援助を得ながら，緑の募金協力のお願いを掲載。県及び市町村の庁舎に懸垂幕（横断幕）を設置，ポスター趣旨書（チラシ）等を活用し運動の展開を図っている。

2．緑化推進事業

(1)　県植樹祭及び地方植樹祭の開催

森林・緑の重要性を普及啓発し，林業の振興を図るため，県民参加による新潟県植樹祭及び地方植樹祭（７ヶ所）の開催に共催している。

なおこの席上，緑化功労者，募金功労者の表彰を行っている。

(2)　環境緑化講習会の開催

校庭，社会福祉施設及び公共施設等の緑化を推進するため，小，中，高等学校の教員，病院関係及び市町村の職員を対象に２日間の日程で，植栽から管理まで実技を含めた環境緑化講習会を開催しており，好評で例年80名程度の参加者を得ている。

(3)　緑化相談員活動事業

家庭や地域の広場（公園）等の樹木の手入れ等について誰もが気軽に相談できる緑化相談員（ボランティア）を県内各地に配置（50名）し，身近な緑づくりの推進を図っている。

(4)　「緑の募金」記念植樹事業

県内全市町村を対象に，市町村及び町内会（集落）等が実施主体となり，集会施設，公園，遊園地等を活用して住民参加の記念植樹を実施している。（記念植樹用苗木は無償配布）

(5)　緑化苗木市の開催

家庭緑化等の推進を図るため，市町村等の協力を得て，県内各地で春・秋に苗木市を開催している。（春・秋とも35～40市町村で実施）

3．森林整備等交付金事業

(1)　学校林造成事業

学校教育の一環として学校林の造成，保育を推進するため，小，中，高等学校に助成金を交付している。

(2)　シンボル並木造林

地域のシンボルとなる並木を造成し，地域の景観や歴史等にふさわしい，潤いと安らぎのある緑の空間を創出するため，市町村等の事業実施団体に助成している。

(3)　記念の森造成事業

住民が入学，卒業，就職，結婚及び出産などを記念して，誰もが自由に植樹できる記念の森を設け，自らが守り，育てることにより，記念すべき出来事を永く心にとどめるとともに，豊かな心を育むことを目的として実施している。

(4)　みんなの森造成事業

住民一人ひとりが緑化に参画し，自らが環境を改善していく運動を展開するという観点に立ち，地域住民で組織する団体等が自ら作成した緑化計画にしたがって植栽し，継続して維持管理を行うことにより，地域緑化の推進を図ることを目的とした団体に助成している。

(5)　支部緑化事業

ア　学校校庭緑化事業

緑豊かな教育環境を整備し，豊かな人間関係を養うことを目的として校庭緑化を図るため，小，中，高等学校に助成金を交付している。

イ　社会福祉施設緑化事業

施設利用者の健康保持増進に寄与することを目的として社会福祉施設の緑化を図るため，社会福祉団体等に対し助成金を交付している。

(6)　緑の少年団育成事業

自然に親しみ，緑を守り，緑を育てる自然愛護の思想を啓発し，自ら社会を愛する豊かな人間に育っていくことを目的に，次の事業に対し緑の少年団に助成金を交付している。

ア　育成活動事業

イ　団体装備事業

ウ　地区交流集会事業

(7)　野鳥愛護事業

野鳥の食餌木を植栽し，野鳥の繁殖，生育環境の保全を図るために造成する植栽事業を実施している。

(8)　グリーンボランティア推進事業

県民に対して森林整備等への呼びかけを進め，県民参加の森林づくりを持続的に展開できる体制を実現するため，ボランティア団体に対して技術指導及び作業用器具等の貸出し，傷害保険料の助成を行っている。

●富山県

現況	名称	社団法人　とやま緑化推進機構	会計年度	1月1日～12月31日	
	所在地	〒930-0096　富山市舟橋北町4番19号　富山県森林水産会館			
	電話	076-433-6100（直通）	緑化強調期間	4月～5月	緑の募金期間　春4月～5月　秋9月～10月
	FAX	076-433-6100			
	役職員	会長：中沖　豊（富山県知事）	主要事業	1．とやま森の祭典・地方育樹祭の開催 2．国民参加の森林づくり 3．緑の募金運動 4．花と緑の少年団の育成 5．緑化普及啓発活動 6．ポスター・標語・育樹活動コンクール等の実施	
		理事長：八嶋　健三（富山県商工会議所連合会会長）			
		専務理事：深澤　庄司			
		事務局長：〃			
		常勤役職員数：計2人（うち役員1人）			
	緑の少年団	35団　2,610人	県担当部局	農林水産部林政課森林育成緑花係	

組織の沿革

昭和25年3月10日	富山県緑化推進委員会設立
平成8年7月1日	社団法人とやま緑化推進機構設立総会
平成8年8月30日	社団法人設立許可（平成8年9月9日登記）
平成9年5月1日	富山県山林協会事務局から事務所独立

歴代委員長

高原　耕造	（S25.3～26.5）
須河　信一	（26.5～27.11）
湊　栄吉	（27.11～29.12）
蓑　憲作	（29.12～30.5）
岩川　毅	（30.5～31.10）
舟橋　順治	（31.10～32.3）
分家義八郎	（32.3～33.3）
粟田　吉郎	（33.3～33.11）
古市繁太郎	（33.1～34.5）
中嶋　粂次	（34.5～36.12）
金厚　伴二	（36.12～37.12）
桜井　与蔵	（37.12～38.5）
宇於崎章吉	（38.5～39.6）
柚木　栄吉	（39.6～40.12）
藤井　兼久	（40.12～41.7）
和田　泰三	（41.7～42.5）
高野　由郎	（42.12～43.12）
玉生　孝久	（43.12～44.12）
広井　文作	（44.12～45.9）
谷原　理一	（45.9～46.5）
山田　伊作	（46.5～47.3）
松沢　六郎	（47.3～48.3）
高平　公友	（48.3～49.3）
中橋　甚一	（49.3～50.5）
鹿熊　安正	（50.5～51.6）
大沼　勝二	（51.6～52.7）
伏脇松太郎	（52.7～53.3）
笹島　太一	（53.3～53.9）
上銘　政雄	（53.9～54.5）
石沢　義文	（54.5～55.7）
浅地　央	（55.7～56.3）
川田　謹治	（56.3～57.3）
黒田安之丞	（57.3～57.9）
島田　英治	（57.9～58.5）
松村　清年	（58.5～59.3）
炭谷外治郎	（59.3～60.3）
小倉　勇	（60.3～61.3）
西田　安正	（61.3～62.4）
酒井治七郎	（62.4～63.3）
吉田　清治	（63.3～H元.3）
宮本　弥生	（元.3～2.3）
渡辺　辰男	（2.3～3.4）
河合　常則	（3.4～4.3）
八倉巻忠夫	（4.3～5.3）
坂井　昭二	（5.3～6.3）
西島　栄作	（6.3～7.5）
千田　稔	（7.5～8.3）
向井　英二	（8.3～8.6）
久保田照雄	（8.7～11.7）
八嶋　健三	（11.9～現在）

歴代事務局長

藤田　一三	（S25.3～30.7）
中川　哲雄	（30.8～39.3）
川口　了	（39.4～46.9）
田中清之助	（46.10～59.3）
国分　和夫	（59.4～H3.7）
岡本　一郎	（3.8～5.1）
伊藤　勝保	（5.6～7.4）
串田　昭夫	（7.4～8.3）
荻野　憲治	（8.4～9.3）
深澤　庄司	（9.4～現在）

主要活動事項

昭和25年4月	第1回県植樹祭の開催（大山町）（以後毎年開催）
昭和27年4月	学校植林コンクール始まる
昭和28年4月	富山市呉羽山緑化運動・緑化苗木無償配付始まる
昭和29年1月	門松自粛運動始まる
昭和29年4月	富山大学構内で記念植樹祭開催
昭和30年4月	苗木即売会始まる
昭和34年4月	緑化運動10周年並びに皇太子御成婚記念行事（砺波市）
昭和36年4月	皇太子ご夫妻来県記念植樹苗木配布
昭和37年8月	小学校に対する山の現地教育始まる
昭和38年4月	市町村緑化推進委員会の設立(35市町村中33)
昭和43年4月11日	天皇陛下ご下賜金による県の木立山杉と桜配布（382小・中学校）
昭和44年5月26日	第20回全国植樹行事並びに国土緑化大会本県（砺波市頼成）にて開催
昭和45年7月～8月	草刈十字軍運動が始まる（大山町小原ほか3ヵ所）
昭和47年4月	知事出席による緑化木街頭配布始まる
昭和47年4月	市町村主催の地方植樹祭始まる(3市町村)
昭和48年5月	新規採用教員へ記念苗木贈呈始まる
昭和51年1月	善行中学生表彰で椿苗木贈呈始まる
昭和52年5月	みどりの少年団結成(5団)以後順次設立
昭和54年4月26日	緑化事業及び林業普及事業30周年記念式典開催（富山市）
昭和54年12月	県植樹祭30年の歩み「みどりの祭典」発行
昭和58年10月3日	第7回全国育樹祭本県(大山町)にて開催
昭和60年10月8日	第1回富山県育樹祭（砺波市頼成）
昭和63年4月	緑と水の森林基金の募金開始
平成3年3月	森林文化講演会始まる
平成8年7月1日	社団法人とやま緑化推進機構設立総会
平成9年1月	映画「草刈十字軍」完成公開
平成9年5月	事務局を山林協会から独立
平成10年3月	とやま森林づくりボランティアグループ誕生

活　動　の　特　色

本県の緑化推進委員会は，昭和25年３月10日に設立をみている。設立とともに第１回富山県植樹祭を開催し，平成11年５月で第50回となった。

また，富山県育樹祭は昭和60年10月８日の木の日に始まり，平成11年10月で第15回を迎えている。

設立の趣旨に基づき，森林・林業と緑化について県民の理解と協力を得るため，植樹運動や緑の羽根募金活動などを展開してきた。

特に，設立時から今回まで明日を担う青少年や学校緑化等について重点的に施策を実施してきているのが，大きな特色といえる。

昭和27年から学校植林コンクールが始まり昭和40年まで実施した。昭和31年から昭和38年まで学校植林運動と学校林造成事業が実施された。昭和36年からは校庭緑化として苗木の配布が始まり，現在も継続している。

加えて，昭和34年と昭和36年には皇太子のご成婚記念やご来県記念として，小・中・高校及び保育所等にサクラ・マツの苗木を配布している。

昭和37年から昭和46年までは，都市在住の小学生に対する山の現地教育を行うためグリーンバスによる森林体験教室を開催した。

昭和48年から児童・生徒の教育にたずさわる新規採用教員に緑化への関心を持ってもらうために，記念樹の贈呈を行い，現在も継続している。

また，昭和51年からは，学校において模範的な活動をしている善行中学生に対する表彰の折，当委員会から花木の苗木を贈り，その栄誉をたたえ今日まで至っている。

さて，昭和52年から国や国土緑化推進委員会の指導を得て「みどりの少年団」５団が結成された。

県下35市町村緑化推進委員会ごとに総て結成されるまでには12年間を要した。

また，昭和63年４月からは，「日本一の花と緑の県づくり」をめざす県の施策に呼応して「みどりの少年団」を「花とみどりの少年団」と名称を変更し，現在約2,600名の団員が登録されている。

設立時からの主な活動経過は次のとおりである。

昭和52年８月	みどりの少年団「夏の集い」(リーダー研修）始まる（継続中）
昭和53年８月	みどりの少年団連絡協議会発足
昭和54年10月８日	富山県みどりの少年団団歌制定(小学校６年生作詞)
昭和56年４月	中田みどりの基金による優良みどりの少年団表彰始まる(継続中)
昭和59年８月	みどりの少年団「体験学習」始まる(継続中)
昭和60年８月	富山県みどりの少年団活動発表大会始まる(継続中)
昭和63年４月	みどりの少年団を「花とみどりの少年団」に名称変更
平成２年８月	花とみどりの少年団の「花と緑の教室」始まる(継続中)

平成11年で23回を迎えた「リーダー研修」は，８月下旬に富山県呉羽少年自然の家で各市町村花とみどりの少年団代表４名と指導員の参加により開催している。リーダーとして資質の向上を図る研修と交流や自然学習の方法について現地研修を行っている。

同時に開催している「富山県花とみどりの少年団活動発表大会」は15回となり，発表方法もスライドやビデオ等を活用し，内容が充実してきている。

また，16回となった「花とみどりの少年団体験学習」は，例年８月上旬，「国立立山少年自然の家」において，約700人の少年団の参加を得て開催している。

１泊２日の２グループに分けて，３日間にわたって実施している。野外炊飯やキャンプファイヤーは定番であるが，立木の測定やミニ登山をかねた自然観察・ネイチャーゲームなどを実施している。

「花とみどりの少年団」体験学習(国立立山少年自然の家にて)

富山県緑化推進委員会は昭和25年に設立され委員長は歴代の県議会議長が就任してきた。事務局は富山県山林協会が担当された。

平成８年８月には，社団法人として発展的に組織の改組を行ったところである。

今後，県民各層の理解と協力を得ながら基盤の充実と発展を期しているところである。

●石川県

現況						
名称	財団法人 石川県緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日		
所在地	〒921-8025 金沢市増泉4丁目10番35号					
電話	076-242-5050	緑化強調期間	春4月1日～5月31日 秋10月1日～10月31日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋10月1日～10月31日	
FAX	076-245-4533					
役職員	理事長	澁谷 亮治 (金沢経済同友会代表幹事)	主要事業	1．緑の募金出発式、緑化苗木配布会並びに街頭募金 2．県民みどりの祭典及び緑の少年団全県の集い 3．県民森づくり大会 4．石川の農林漁業まつり 5．きのこの森づくりボランティア･キャンペーン		
	副理事長	谷光 一夫 (石川県森林組合連合会長)				
	副理事長	山出 保 (県市長会長)				
	副理事長	山岸十郎右エ門 (県山林協会会長代理)				
	副理事長	伊丹 光則 (県農林水産部長)				
	事務局長	中榮 義威				
	常勤役職員数	計1人(内役員0人)				
緑の少年団	48団 6,104人		県担当部局	農林水産部森林管理課		

組織の沿革	
昭和44年6月2日	石川県緑化推進委員会設立委員会
平成8年12月17日	財団法人 石川県緑化推進委員会設立認可 (12月18日登記)

歴代委員長(理事長)	歴代事務局長
矢田 富雄 (S44～45)	中田 喜夫 (S44～61)
今井 源三 (46)	上畠 保正 (62～H6)
吉田 長久 (47)	宮下 教雄 (7)
小間井与一 (48～54)	中榮 義威 (8～現在)
谷 又三郎 (55～59)	
矢田松太郎 (60)	
西森 金市 (61)	
金原 博 (62)	
宮下 正一 (62)	
小林 紀三 (63)	
山田 宗一 (H元)	
本吉 与浩 (元～2)	
中村 幸教 (2～3)	
米沢 利久 (3)	
福村 章 (4)	
大幸 甚 (5)	
北村 茂男 (6)	
河口 健吾 (7～8)	
澁谷 亮治 〈理事長〉(8年～現在)	

主要活動事項

平成11年4月1日
平成11年度緑の募金出発式，緑化苗木配布会並びに街頭募金活動

平成11年4月29日
第16回県民緑の祭典，並びに緑の少年団全県集い

平成11年6月21日及び12月8日
緑の少年団及びグリーンボランティア合同指導者研修会

平成11年8月29日，9月5日，11月13日～14日
きのこの森づくりボランティア・キャンペーン

平成11年10月16日～17日
第21回石川の農林漁業まつり

平成11年10月24日
第5回県民森づくり大会

活　動　の　特　色

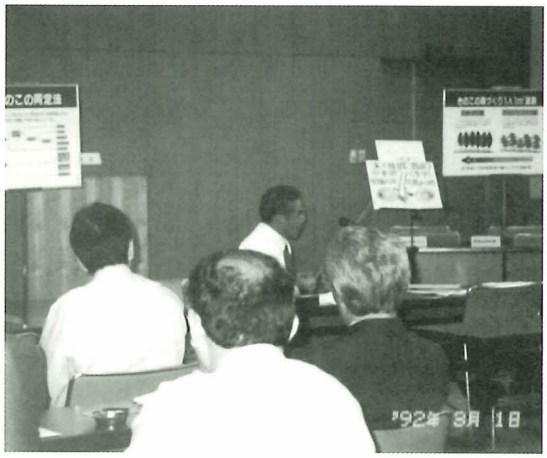
1．きのこの森づくりボランティア・キャンペーン

石川県における国民参加の森林づくりボランティア・ネットワークの登録は，参加者1,740名，5団体並びにフィールド提供者6人である。このボランティア・ネットワークの拡大と浸透定着を図るため，きのこの森づくりボランティア・キャンペーンを実施し，一般県民への森林づくりボランティアの普及啓発拡大に努めている。

昭和30年前後のわが国における燃料革命後，山村におけるアカマツ，コナラ等の二次林里山の放置が目立ち，マツタケ，ホンシメジ，コノミタケ等の菌根菌の絶滅が危惧されている。常緑広葉樹林への遷移が進む里山二次林において，繁茂するソヨゴ，ヒサカキ，ヒメアオキ，チマキザサ等の菌根林支障植生並びに，落葉腐植層を除去し，必要に応じてコナラの植栽，原菌接種等の菌根林育成作業を進めている。

きのこの森づくりボランティア1人1㎡運動と称し，山村と都市との交流，都市の皆様の森林・林業の理解を深め，野生きのこの生産拡大による山村地域の所得拡大と，森林機能強化に努めている。

きのこの森づくりボランティア



野生きのこの同定法などの講習

2．緑の少年団及びグリーンボランティア合同研修会

きのこの森づくりボランティア1人1㎡運動を定着・拡大させるためには，緑の少年団やグリーンボランティア指導者に野生のきのこの見分け方の普及が必要である。そこで年2回野生きのこの分類，生態，同定の仕方，料理の仕方等広い知識の研鑽研修を実施している。

●福井県

現況	名称	社団法人　福井県緑化推進委員会	会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒910-0336　福井県坂井郡丸岡町楽間15字27番地1			
	電話	0776-66-4447	緑化強調期間	4月23日～29日	緑の募金期間　春4月1日～5月31日　秋9月1日～10月31日
	FAX	0776-66-5950			

役職員		主要事業
委員長	美濃　美雄（兼職名　県議会議長）	1．県緑化大会の開催 2．緑の募金運動の展開 3．ふくいの森林づくり推進 4．グリーンボランティアの支援 5．緑の少年団活動に支援 6．学校林の整備 7．公共施設の緑化推進 8．「ふくい緑の基金」の造成
理事長	西村　由夫（〃　県山林協会会長）	
専務理事	三﨑　裕二	
事務局長	島田　昭男	
職員	安野　弘美	
常勤役職員数	計3名（うち役員1名）	

緑の少年団	47団　1,837名	県担当部局	農林水産部森林整備課公有林グループ

組織の沿革	
昭和25年3月	福井県緑化推進委員会設立
平成元年5月15日	社団法人に登記

歴代委員長

山本　文雄（11.5～12.6）
美濃　美雄（12.6～現在）

歴代事務局長

加藤清一郎（S25.3～26.3）
石井　岩三（26.4～41.11）
木下　　繁（41.12～51.6）
児島　忠雄（51.7～53.6）
小林　七郎（53.7～54.3）
土川　達朗（54.4～55.3）
牧野　公治（55.4～57.12）
土川　達朗（58.1～58.6）
柴田　真哉（58.7～63.4）
安藤　重男（63.4～H4.4）
内藤　几夫（4.4～7.6）
福永　直義（7.6～10.6）
三﨑　裕二（10.6～12.5）
島田　昭男（12.5～現在）

歴代委員長

勝見　　厚（S25.3.～25.6）
野村栄太郎（25.6～26.5）
杉山　孝二（26.5～27.5）
中橋勘左衛門（27.5～28.10）
長谷川　清（28.10～30.5）
寺田　常吉（30.5～31.12）
今沢　　東（31.12～33.4）
山崎　正一（33.4～34.5）
麻生伝兵衛（34.5～35.6）
笠羽清右衛門（35.6～36.12）
竹内　　武（36.12～37.11）
山本　　治（37.11～38.5）
揚原新十郎（38.5～39.5）
山本　宇平（39.5～40.7）
吉村　直之（40.7～41.6）
山本　　治（41.6～42.5）
笠羽清右衛門（42.5～46.5）
吉村　直之（46.5～47.5）
高木　孝一（47.5～48.6）
高木　正二（48.6～50.6）
別田　重雄（50.6～52.6）
桑森　邦夫（52.6～53.6）
北川　昭治（53.6～54.5）
山本　順一（54.5～55.6）
東郷　重三（55.6～56.7）
坪川　貞純（56.7～57.6）
関　　捨男（57.6～58.5）
池端　昭夫（58.5～60.6）
今村　重治（60.6～62.5）
吉田　慶三（62.5～63.7）
松田　幸彦（63.7～H元.6）
中井　石男（元.6～2.6）
吉田　正人（2.6～2.8）
岩崎　邦夫（2.8～3.5）
山崎　正昭（3.5～4.3）
小棹　　博（4.3～5.10）
宇野繁太郎（5.10～6.7）
池田　熊蔵（6.7～7.5）
中島　弥昌（7.5～8.6）
池田　俊男（8.6～9.6）
見城　一宣（9.6～10.9）
坂川　　優（10.9～11.5）

主　要　活　動　事　項

昭和25年４月	緑の羽根募金運動 学校植林コンクール実施
昭和33年４月	第１回県緑化大会開催（大野市） 以降毎年継続して開催
昭和35年	皇孫殿下ご誕生記念植樹（緑化大会） 春季緑化運動(緑の週間4月1日～7日) 夏季緑化運動(植栽樹手入運動要領を制定) 秋冬季緑化運動 　学校植林コンクール 　集落植林コンクール 　学校模範林設定 　緑の教室，苗木無償配布
昭和36年	各市町村に緑化推進委員会を設置 前年の各種緑化活動を，本年以降毎年継続して実施
昭和37年４月	第13回全国植樹祭開催（丸岡町）
昭和38年	緑化ポスター募集運動 苗木，庭園木の即売会
昭和39年	東京オリンピック開催を記念して月桂樹苗他を公共施設に無償交付
昭和43年	明治100年記念行事（緑化功労者表彰）
昭和47年	秋季緑化運動として，10万ha造林推進運動の展開
昭和50年９月	和泉村みどりの少年隊結成
昭和51年６月	名田庄みどりの少年隊結成
昭和52年	春季緑化運動 10万ha造林達成記念（第19回緑化大会）
昭和55年10月	第４回全国育樹祭開催（丸岡町） みどりの少年隊（８隊）結成
平成２年	福井県緑の少年団連盟の設立 各市町村に１団以上結成（県下46団）
平成４年	第３回緑の少年団全国大会開催
平成５年	緑の少年団交流県大会の開催 （平成５年～平成９年）
平成７年	緑の募金の指定団体の認可
平成８年	緑の募金運営協議会設立 「緑の募金」出発式（毎年継続） ふくいの森林づくり体験会の開催(〃) 学校林整備５ケ年計画樹立
平成９年	ふくいの森林づくり推進協議会の設置
平成10年	緑の少年団交流集会６支部で開催（毎年継続）
平成11年	交流体験活動推進事業の実施 「炭焼き、乗馬等、森の生活体験」 「緑の募金公募事業」の実施 緑の少年団による「千年の森」づくり

緑の少年団交流集会／毎年６支部で開催

ふくいの森林づくり体験会／毎年３回開催

「緑の募金」出発式／毎年４月開催（知事，18の協賛団体，緑の少年団，ボーイスカウト，ガールスカウトが参加して開催，参加者300名）

●長野県

現況					
名称	財団法人　長野県緑の基金		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒380-8570　長野市大字南長野字幅下692－2　長野県林務部森林保全課内				
電話	026-232-0111　内線4819	緑化強調期間	春4月1日～5月31日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日
FAX	026-234-0330				
役職員	理事長	吉村　午良（兼職名　長野県知事）	主要事業	1．森林・林業，環境緑化等の普及啓もう 2．県民の健全な森林づくりの実践参加の促進 3．健全な森林造成の助長 4．都市緑化等環境整備の助長 5．緑の募金法に関する業務	
	事務局長	小林　幹雄			
	常勤役職員数	計2人（うち職員2人）			
みどりの少年団	143団　18,000人		県担当部局	林務部森林保全課緑化係	

組織の沿革

昭和23年4月25日	長野県緑化連盟設立
昭和57年3月6日	長野県緑化推進委員会と名称変更
昭和58年11月2日	財団法人長野県緑の基金設立発起人会議
昭和58年12月28日	財団法人設立認可（昭和59年1月9日登記）

歴代委員長・理事長

林　虎雄（S23.4～34.4）
西沢権一郎（34.4～55.10）
吉村　午良（55.10～現在）
（注）委員長・理事長は知事

歴代事務局長

［長野県緑化連盟・長野県緑化推進委員会］
近藤鑅三郎（S23）
池田清次郎（24～26.9）
木下　皓策（26.9～35.4）
中田　幸吉（35.5～38.1）
高橋信太郎（38.1～39.8）
今井　太郎（39.8～42.10）
藤本　公雄（42.11～47.5）
戸谷　義雄（47.6～53.3）
大日方英雄（53.4～58.3）
小林　和夫（58.4～58.12）
（注）長野県林務部長兼務
［㈶長野県緑の基金］
古厩　元春（S58.12～H元.3）
猪瀬　改一（元.4～4.5）
関　貞徳（4.6～7.3）
高橋　克実（7.4～9.3）
松村　久（9.4～12.3）
小林　幹雄（12.4～現在）

主要活動事項

昭和26年	機関紙「信山緑化情報」発刊
昭和30年	緑の羽根募金開始
昭和33年	教職員林業研修開始
昭和39年5月13日	茅野市において第15回全国植樹祭を開催
昭和42年	上松中学校が国有林と契約し，県内初の学校部分林を設定
昭和43年	明治100年記念林業振興展を長野市で開催
昭和47年	県・営林局と共催で緑化苗木の頒布会を実施
昭和51年	県林業指導所と共催で「緑の教室」開講
昭和55年	県下初のみどりの少年団(2団)結成
昭和57年10月12日	北佐久郡立科町において第6回全国育樹祭を開催。全国緑の少年団活動発表大会では本県の奈川小・中学校が最優秀団体に選ばれた。
昭和58年2月18日	「緑の懇話会」が開催され，県民総参加による森林づくり運動の推進母体としての「基金」設立の方向付けがなされた。
昭和59年3月22日	「試験研究法人等」の認定を受ける。
昭和59年5月	県植樹祭併催行事として森林教室開始
昭和60年3月	機関誌「緑の基金」No.1創刊
昭和60年9月	信州グリーンフェスティバルを県等と共催で実施
昭和62年	森林浴適地調査を実施し，「森林浴ガイドブック」を発行
昭和63年12月20日	「特定公益増進法人」の認定を受ける。
平成2年4月29日	みどりに親しむ集いを開始
平成2年10月	木と緑のフェアを県等と共催で実施
平成3年4月	緑のコンサルタント活動実施
平成4年5月	国民森林会議シンポジウム「森林は友だち」を開催
平成5年2月24日	長野県みどりの少年団連盟発足
平成5年8月3日	松本市において第4回緑の少年団全国大会を開催
平成6年8月18日	丸子町において森林文化教育フォーラムを開催
平成6年	緑の街づくり事業開始
平成7年4月29日	木と緑のふれあいフェスティバル開始
平成8年4月1日	緑の募金法制定に伴う緑の募金活動開始
平成9年	森林づくり作業体験事業の実施
平成9年	樹のホームステイ事業の実施
平成10年10月	森林整備合宿の集いを開催
平成11年	上下流森林整備調査事業の実施 森の校庭整備促進事業開始

活　動　の　特　色

1．設立の趣旨

長野県の県土の約78％を占める森林は，様々な公益的機能の発揮により，広く国民生活に密接にかかわってきた。

折しも昭和57，58年と２年連続の台風災害や松くい虫被害の拡大などを受け，県下の森林は危機に瀕していた。

この森林破壊の危機を脱し，急速に高まりつつあった森林保全への県民の要請に応えるためには，県民一人ひとりが何らかの形で森林づくりと緑豊かな環境づくりに参加する必要が生じてきた。

そこで，基金の果実等による県民総参加での永続的な森林づくり，環境づくりを推進するため，緑の基金制度を創設した。

2．基本財産の概要

(1)　基本財産積立額（平成11年３月末現在）
　５億8,259万円

(2)　主な出捐者
　長野県，市町村，企業・団体，家庭募金，篤志家等

3．緑の募金実績（平成10年度）

本県では昭和30年に緑の羽根募金としてスタートして以来，家庭募金を中心に常に全国でもトップクラスの募金実績を上げている。

平成10年度実績　8,900万円（全国第２位）

4．主な事業

(1)　緑の基金事業

①　情報誌等の発行による広報・宣伝
- 緑化運動の普及啓発
- 新聞紙上でのグリーンキャンペーンの展開
- 機関誌「緑の基金」の発行

②　県植樹祭・森林教室
- 関係機関との共催による県植樹祭の開催
- 併催行事としての森林教室の開催

③　みどりの日記念行事
- みどりに親しむ集いの開催

④　野鳥愛護思想啓発事業
- 小・中学校の野鳥愛護指定校を対象とした野鳥愛護活動の実施

⑤　林業関係コンクール
- 森林・林業の健全な発展に資するため，県及び林業関係団体との共催による林業関係コンクールの開催

⑥　教職員林業研修会
- 小・中学校の教職員を対象とした林業研修会をみどりの少年団指導者研修会と合同で実施

⑦　森林整備ボランティア合宿の集い
- 森林整備ボランティアの育成を図るため，体験学習の森等を活用した１泊２日にわたる合宿の集いの開催

⑧　多様な森林づくりモデル団地推進事業
- 県内５流域に設置したモデル団地の森林づくりの事例の検討と，他地域への施業の展開

⑨　ゴルファーの緑化促進協力会受託事業
- 協力会加盟ゴルフ場からの協力金による公共施設等の緑化事業の実施

⑩　緑のコンサルタント事業
- 県民の緑化に関する様々な相談窓口として開設し，カウンセラーによる現地診断等を実施

(2)　緑の募金事業

①　森林の整備
- ボランティアによる森林整備の推進
- 間伐総合キャンペーンの展開

②　緑化の推進
- 学校，公園等公共施設の緑化

③　苗木の配布
- 地域緑化推進のための緑化木頒布会の実施

④　地区植樹祭・育樹祭
- 森林・林業の普及啓発及び緑化運動の促進のための地区植樹祭・育樹祭の開催

⑤　みどりの少年団の育成
- 県みどりの少年団連盟を通じ，未来を担う子供たちに森林・林業の重要性を理解してもらうための少年団活動への助成，交流集会・研修会の開催等

5．今後の課題等

(1)　緑の基金

平成９年４月に策定された「2010年長野県森林・林業長期構想」で示された緑の基金造成目標の10億円を目指し，緑の基金や緑の募金事業の展開を通じて，森林・林業に対する理解を深めるとともに，森林づくりへの県民の参加を促進していく。

(2)　緑の募金

当面の目標である１億円を目指し，家庭募金，企業・団体募金等を主体とした緑の募金運動の展開を図る。

●岐阜県

現況	名称	社団法人　岐阜県緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒500-8356　岐阜市六条江東2丁目5番6号　ぎふ森林文化センター内				
	電話	058-273-7577	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	058-273-7547				
	役職員	会長	田口　淳二 (岐阜県議会議長)	主要事業	1．岐阜県みどりの祭り・育林のつどい・林材振興大会・植木祭り等の開催 2．グリーンボランティアによる森づくり 3．みどりの少年団の育成 4．岐阜県緑の基金造成及び管理	
		理事長	塚本　保夫 (岐阜県山林協会長)			
		専務理事	宮地　省一 (岐阜県山林協会副会長)			
		事務局長	柴垣　博一			
		常勤役職員数	計3人（内役員1人）			
	緑の少年団	70団　6,076人		県担当部局	農林商工部農林水産局森林課緑化推進係	

組織の沿革

昭和25年4月1日	国土緑化岐阜県推進委員会設立
平成2年1月18日	社団法人岐阜県緑化推進委員会設立総会
平成2年3月12日	社団法人設立認可(3月29日登記) 事務局住所 岐阜県岐阜市江川町27番地
平成5年6月30日	事務局住所変更認可　(7月21日登記) 岐阜県岐阜市茜部菱野4丁目59番地
平成6年12月20日	事務局住所変更認可　(平成7年1月10日登記) 岐阜県岐阜市六条江東2丁目5番6号

歴代委員長・会長

［委員長］

上野　文一（S25.4～25.5）
遠藤　英夫（25.5～26.5）
上野　文一（26.5～28.3）
松野　幸泰（28.3～33.10）
加藤　鐐一（33.10～34.5）
鷲見　浩平（34.5～35.2）
古田　好（35.3～36.2）
土本　栄吉（36.3～37.2）
古田　好（37.3～37.12）
棚橋　憲吾（37.12～38.5）
鷲見　浩平（38.5～39.3）
西脇　弘康（39.4～40.3）
鷲見　浩平（40.4～41.2）
古田　好（41.3～42.5）
松浦　傳（42.5～43.4）
後藤　益夫（43.5～44.4）
伊藤　薫（44.4～45.4）
坂井　義平（45.4～46.4）
加藤　耕二（46.4～47.4）
毛利　三郎（47.5～48.4）
米野　義久（48.4～49.4）
松永　清藏（49.4～50.5）
久保田完三（50.5～51.4）
浅野　拡（51.4～52.4）
光岡　慶直（52.4～53.5）
吉田　三郎（53.5～54.5）
今井　国男（54.5～55.5）
森　勇（55.5～56.5）
田中　礼一（56.5～57.5）
松原　喜七（57.5～58.5）

［会長］

本田　秋広（58.5～59.5）
木村　建（59.5～60.5）
古庄　三六（60.5～61.5）
青山　正吾（61.5～62.5）
猫田　孝（62.5～63.5）
船戸　行雄（63.5～平元.5）
酒井　公雄（平元.5～2.3）
酒井　公雄（2.3～2.5）
河村　成勝（2.5～3.5）
浅野　庄一（3.5～4.5）
今井田　清（4.5～5.5）
古川　利雄（5.5～6.5）
新藤　秀逸（6.5～7.5）
坂　志郎（7.5～8.5）
松野　幸昭（8.5～9.5）
中本　貞実（9.5～10.5）
加藤　利徳（10.5～11.5）
殿地　昇（11.5～12.5）
田口　淳二（12.5～現在）

歴代理事長

丹羽　太郎（H2.3～2.12）
谷口　長七（2.12～5.4）
河尻　義隆（5.4～7.5）
塚本　保夫（7.5～現在）

歴代事務局長

山本　正一（S25.4～27.3）
岩村　佐一（27.4～29.3）
小川　功（29.4～31.3）
堀田　竹一（31.4～32.3）
江崎　富治（32.4～39.3）
鬼頭　慶男（39.4～42.3）
石原　静一（42.4～48.3）
篠田　直市（48.5～53.4）
和田　武（53.7～55.3）
桂川　市松（55.4～60.3）
可児　峯夫（60.4～H元.3）
永田　巌（元.4～3.3）
原　徳三郎（3.4～6.3）
井森　一郎（6.4～7.9）
原　徳三郎（7.10～9.1）
柴垣　博一（9.5～現在）

主　要　活　動　事　項

昭和25年	国土緑化岐阜県推進委員会発足
昭和25年	岐阜県植樹祭を美濃市で開催
昭和29年	門松･クリスマスツリーの自粛運動推進(門松カードを各戸に配布)
昭和32年	第８回全国緑化大会及び植樹行事を揖斐郡谷汲村で開催
昭和34年	皇太子ご結婚記念植樹運動を展開
昭和39年	オリンピック記念植樹・岐阜国体協力緑化運動
昭和44年	緑化少年団発足
昭和45年	第１回岐阜県みどりの祭りを不破郡関ヶ原町・垂井町で開催
昭和48年	第１回植木まつり開催
昭和50年	第１回岐阜県育林祭を恵那市で開催
昭和51年	皇太子・同妃両殿下を第８回全国植樹祭記念林にお迎えして、全国育樹祭岐阜大会を谷汲村で開催（全国育樹祭の発端となる）
昭和51年	第１回東海地区みどりの少年団サマージャンボリーに参加
平成２年	㈳岐阜県緑化推進委員会設立
平成２年	岐阜県緑の基金創設
平成５年	中国江西省友好提携５周年記念「青少年の森」造成
平成７年	「花フェスタ'95ぎふ」を可児市開催に協賛
平成８年	第１回育林のつどいを吉城郡国府町で開催
平成９年	第29回岐阜県林材振興大会「森と木とのふれあいフェア」岐阜市で共催
平成10年	中国江西省友好提携10周年記念「青少年の森」造成

活　動　の　特　色

岐阜県の国土緑化運動

戦後の荒廃した県土を復興するため昭和25年国土緑化岐阜県推進委員会を設立。緑の羽根募金運動を展開し，県民に国土緑化を普及啓発して50周年を迎えた。

平成の「緑のボランティア文化社会」になって（社）岐阜県緑化推進委員会は，みどりの大切さを知ってもらうため，県民のボランティア活動を主とする緑の募金公募事業にウェイトを置いて活動している。

「岐阜県育林のつどい」公募に県内外より参加したボランティアの枝打ち作業（中津川市）

緑の募金公募事業（県緑推）による管理不十分な里山林の整備と植栽（関市）

緑の少年団活動で親子による植林作業（吉城郡宮川村・しらかば少年団）

岐阜まつりの歩行者天国において岐阜県知事・県議会議長・岐阜市長等による街頭募金

●静岡県

現況					
名称	社団法人　静岡県緑化推進協会		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒420-8601　静岡市追手町9番6号　静岡県庁西館内				
電話	054-273-6987	緑化強調期間	春4月1日～5月31日 秋10月1日～11月30日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	054-254-8916				

役職員		主要事業
会長	遠藤　榮（県議会議長）	1．静岡森づくりの祭典の開催 2．緑の少年団の育成 3．緑化作品コンクール等の開催 4．森づくりグループ活動への支援 5．緑の募金運動，募金の管理
理事長	平野　孝雄	
専務理事	服部　重之	
事務局長	同上	
常勤役職員数	計2人（うち役員1人）	
緑の少年団	69団　5,339人	県担当部局　環境部森づくり室

組織の沿革	
昭和25年4月	静岡県緑化推進委員会
平成2年3月27日	社団法人設立認可（平成2年4月7日登記） 静岡県緑化推進協会と名称変更

歴代委員長

松野勝太郎（S26.3～36.4）	和田淳一郎（元.6～2.6）
内山　信一（36.5～42.12）	松永　清一（2.6～3.5）
和久田好造（43.1～43.6）	石井　茂（3.5～4.6）
佐野　嘉吉（43.7～44.6）	河畑　房次（4.6～5.8）
佐藤　一郎（44.6～45.6）	橋本喜久男（5.8～6.6）
河合　多三（45.6～46.5）	佐塚　重義（6.6～7.5）
内野伊勢吉（46.5～47.6）	宗　彦九郎（7.5～8.6）
小池政太郎（47.6～48.6）	渡辺　新作（8.6～9.7）
大石　節（48.6～49.7）	川口　久一（9.7～10.6）
増田　延男（49.7～50.4）	佐原　徹郎（10.6～11.5）
服部　毅一（50.5～50.8）	宮田　行正（11.5～12.5）
稲名　嘉男（50.9～51.6）	遠藤　榮（12.6～現在）
柳原　清治（51.6～52.7）	
松岡　義平（52.7～53.6）	
堀江　静雄（53.6～54.5）	
岡本　弘之（54.5～55.6）	
杉山　憲夫（55.6～56.6）	
伊藤　武（56.6～57.7）	
井原　一夫（57.7～58.5）	
高木　和夫（58.5～59.6）	
市川　重雄（59.6～60.6）	
長谷川孝之（60.6～61.6）	
山崎　勝二（61.6～62.5）	
河合　猛（62.5～63.6）	
白松　三省（63.6～H元.6）	

歴代理事長

内山　信一（H2.4～8.7）
平野　孝雄（8.7～現在）

歴代事務局長

県担当課長（事務局長兼務）（　～H2.3）
赤沢　貞一（2.4～6.6）
本田　千秋（6.7～11.6）
服部　重之（11.7～現在）

主要活動事項

昭和25年	静岡県緑化推進委員会設立
昭和25年	第1回静岡県中央植樹祭開催
昭和26年	緑の羽根募金運動開始
昭和27年	第3回全国植樹祭開催
昭和29年	草薙運動場の緑化推進
昭和33年	学校林造成推進
昭和38年	植樹祭で苗木配布開始
昭和41年	工場緑化運動展開
昭和43年	「県民の森」建設始まる
昭和48年	社会福祉施設の環境緑化運動の推進
昭和50年	「山と街を緑で結ぶ」運動の推進
昭和51年	県政100年記念都市緑化推進
昭和52年	緑の少年団結成（2団）
昭和54年	静岡県植樹祭30周年記念誌発行
昭和58年	緑の少年団交流集会を開催
昭和62年	学校教育の指導者養成を推進（グリーンセミナーの開催）
平成元年	「みどりの日」制定記念 緑のふれあいキャンペーン開催 全国緑の少年団交流集会開催 第1回静岡県中央育樹祭開催 ふるさと育林隊活動を展開 ホリデーフォレターズの育成
平成9年	県民参加の森づくり運動を展開

活　動　の　特　色

◎県民参加の森づくりを推進

(社)静岡県緑化推進協会では豊かな森林を次の世代に継承していくため，森の恵みの受益者である県民すべてが森づくりに参画する「県民参加の森づくり」運動を行政と一体となって推進している。

■「森の感謝祭」で“森の恵み”をまず肌で感じてもらい，「緑の募金」の活用による豊かな森づくりをＰＲ

県立森林公園において，“森で遊ぶ秋の一日”をキャッチフレーズに，子供から大人まで，森林レクリエーションや森のパネル展などを楽しんでもらいながら，森林・緑・水に対する認識を深めてもらうとともに，「緑の募金法」による森づくりのＰＲなどを行い，県民への緑の募金啓発運動の具体的な実践の場としている。

“森の感謝祭"みどりの募金コーナー

■「森林整備運動促進事業」により，県民各層に森づくり参画機会の提供

森林保育作業など，県民が自由に参加できるふれあい体験を促進し，森林・林業への理解と認識の浸透を図るとともに，森林整備の新たな担い手としてのボランティア活動導入の礎としている。

参加を希望する人は，県下４流域に組織されている流域林業活性化センターに名前を登録し，野外活動（きのこ栽培・木工作・自然観察等）や森林保育作業（植樹・下刈・間伐等）の体験活動を行っている。

“水源の森づくり"子供から大人まで参画

■「森づくりグループ活動支援推進事業」で自発的な森づくりグループの輪を拡充

森林や緑を守り育てるためのボランティアグループに資材費等森林保育作業に必要な経費を助成し，自発的な森づくり活動を助長している。

ボランティアによる体験活動

■“静岡森づくり情報”で県民が自由に森づくり活動へ参加できる情報の提供

情報誌を定期的に森づくりボランティア団体等に配布し，県民の森づくりへの参加機会の拡大を図っている。

その他，水源の森づくりのための植樹活動や「ボランティアの森づくり」及び「静岡森づくりフォーラム」への支援などを通じ，県民参加の森づくりを推進している。

●愛知県

現況					
名称	社団法人　愛知県緑化推進委員会		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒461-0011　名古屋市東区白壁一丁目50番地　愛知県白壁庁舎内				
電話	052-963-8045	緑化強調期間	春4月1日～5月31日 秋10月1日～11月10日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	052-963-8491				

役職員	
会長	神戸　昭治 (兼職名　愛知県議会議長)
副会長	柴田　紘一 (兼職名　愛知県議会副議長)
〃	久野　弘 (兼職名　愛知県市長会会長)
〃	神尾　俊治 (兼職名　愛知県町村会会長)
理事長	河内　弘明 (兼職名　愛知県副知事)
副理事長	本多　進 (兼職名　愛知県森林協会会長)
〃	石川　和紀 (兼職名　愛知県農地林務部部長)
事務局長	宮村　達朗
事務職員	仲井　智代
常勤役職員	計2人（うち役員0人）

主要事業

1．緑化運動の総合的企画及び実施
2．緑の募金(緑の募金による森林整備等の推進に関する法律）及び緑の募金による寄付金の管理
3．森林の整備，緑化の推進及び森林の整備又は緑化の推進に係る国際協力（以下「森林整備等」という。）を行う者又は森林整備等を行う者に対する交付金の交付
4．森林整備等の事業実施並びに森林整備等に関する調査及び研究
5．森林整備等に関する情報又は資料の収集及び提供
6．緑化関係行事の開催及び協賛
7．緑化思想の普及及び啓発
8．緑化功労者の表彰
9．森林愛護及び環境緑化に関する事業に補てんすることを目的とする「みどりふれあい基金」の造成及び管理に関すること

緑の少年団	64団　4,090人	県担当部局	農地林務部自然緑化課 (平成12年4月から農林水産部森林保全課)

組織の沿革

昭和26年10月1日	愛知県国土緑化推進委員会設立
昭和48年4月1日	愛知県緑化推進委員会に改称
昭和51年4月1日	規約改正「会員制」とする
平成8年2月14日	解散及び設立総会
平成8年4月1日	社団法人愛知県緑化推進委員会設立認可

歴代会長

高橋アキラ（S57.5～58.5）
松川　明敬（58.5～59.5）
岡本　辰巳（59.5～60.5）
浅野　一郎（60.5～61.5）
松井　治之（61.5～62.5）
倉知　俊彦（62.5～63.5）
長木　一（63.5～H元.5）
児島　貢（元.5～2.5）
野々山　啓（2.5～3.5）
古橋　利夫（3.5～3.12）
横井　保（3.12～4.5）
小田　悦雄（4.5～6.5）
本多　進（6.5～7.5）
H8.4.1社団法人
山本　和明（7.5～8.5）
河村　滉（8.5～9.5）
大見　志朗（9.5～10.5）
高橋　則行（10.5～11.5）
神戸　昭治（11.5～現在）

歴代理事長

青山　英次（H8.4～10.7）
河内　弘明（10.7～現在）

歴代事務局長

大久保明彦（S56.4～59.3）
木暮　信夫（59.4～60.3）
永田与志光（60.4～H元.3）
久留宮泰啓（元.4～3.3）
伊藤　芳夫（3.4～4.3）
梅村　昭治（4.4～6.3）
田島　峯生（6.4～8.3）
H8.4.1　社団法人
白井　伸明（8.4～9.3）
杉山　元保（9.4～10.3）
宮村　達朗（10.4～現在）

主要活動事項

昭和54年度	国際児童年記念サマージャンボリー開催
昭和57年度	緑の羽根募金3千万円達成
昭和60年度	国際森林年記念みどりのパレード
平成元年度	みどりの日制定記念行事開催
平成4年度	緑の羽根募金5千万円達成
平成10年度	緑の募金8千万円達成
平成10年度	英国祭'98協賛みどりふれあい事業実施
平成11年度	県民人口700万人突破記念苗木配布

活　動　の　特　色

本委員会は，緑化推進運動の目標を，

1．多様な緑に育まれる豊かな愛知を築こう

2．緑とふれあう心豊かな子供たちを育てよう

3．豊かな森林の育成を図ろう

として，各種の事業を展開してきている。

これらの目標の達成のために実施している主な事業の一つとして「緑化木配布事業」について紹介する。

この事業は，1980年（昭和55年）に，当時任意団体であった本委員会が県等の助成を受けて開始されたもので，今日まで20年の歳月を刻んでいる。

事業の目的は，県民の緑化に対する認識を高めるとともに一般家庭の緑化を推進し，快適な生活環境の形成に役立てようとするものであり，まさに本委員会の緑化推進運動の目標の1に合致するもので，これまでに県民各層及び関係者の方々から高い評価をいただいている。

また，愛知県は全国有数の植木生産地であり，植木生産の振興にも寄与している。事業の内容は，毎年総配布数量25,000本で，樹種は一般に親しみがあり，比較的維持管理が容易なものとし，本委員会が策定した配布計画に基づき，市町村は地域の風土に合った樹種を選定し，緑化木配布事業計画書を作成し，本委員会の承認を受ける。

これらの手続きを経て，本委員会が配分する緑化木を市町村は一般住民に無償で配布する。

配布する時期は，緑化木の植栽適期を考慮して愛知県が定めている春（4月1日～5月31日）又は秋（10月1日～11月10日）の緑化強調期間を原則とし，既存の市町村行事と併せて行なう場合等のほか，出来るかぎり4月29日の「みどりの日」に配布することとしている。

配布する場所は，当該市町村が設定し，多くが地元の産業祭り，記念式典等のイベント会場である。

なお，この緑化木無償配布の実施にあたっては殆どの市町村が緑の募金，自己財源等による緑化木も合わせることによりイベント等も盛り上がり，緑化思想の高揚にもつながり，併せて実施される「緑の募金」運動の成果にも大きな効果をもたらしている。

この事業が始まって，これまでに50万本余の緑化木が配布され，各家庭に植栽されたことになり，最高齢は20年生の庭木等に育ち，県民の生活環境に潤いを与えている。

最近5ヵ年の状況を見ると，県下88市町村のうち，おおよそ64市町村で53種類の緑化木が活用されている。

年度	市町村	配布箇所	樹種	備　考
7	62	69	56	
8	63	70	50	
9	64	71	51	
10	64	71	53	
11	64	71	52	

また，活用される樹種は最近花木が好まれる傾向がうかがえられる。

上位3種類は次のとおりである。

年度	1位	2位	3位
7	ハナミズキ	サザンカ	アジサイ
8	サザンカ	キンモクセイ	ツツジ
9	ハナミズキ	サザンカ	クチナシ
10	サザンカ	ハナミズキ	キンモクセイ
11	サザンカ	ハナミズキ	アベリア

本事業は，今後も継続が求められているところであり，市町村とともに県土緑化の推進のために新なる展開を図ってまいりたい。

緑化木配布会風景（祖父江町総合センター，平成11年10月9日，サザンカ）

●三重県

現況	名称	社団法人　三重県緑化推進協会			会計年度	7月1日～6月30日
	所在地	〒514-0003　三重県津市桜橋1丁目104番地　林業会館内				
	電話	059-224-9100	緑化強調期間	春4月1日～4月30日	緑の募金期間	春2月～5月 秋9月～10月
	FAX	059-224-9118				
	役職員	会長	北川　正恭 (兼職名三重県知事)	主要事業	・緑化ボランティア育成（緑の少年隊、グリーンボランティア） ・県民植樹デー等緑化イベントの開催 ・緑化基金事業・環境緑化の推進 ・県民参加の森林づくりの推進 ・春、秋の緑化運動の展開 ・エコウォーク等緑化普及啓発 ・緑の募金交付金交付事業	
		専務理事	加藤　五雄 (兼事務局長)			
		管理部長	久米　懿 (兼森林公園管理事務所長)			
		常勤役職員数計	10人（うち役員1人）			
	緑の少年隊	41隊　1,099人		県担当部局	環境部自然環境課	

組織の沿革

昭和46年10月30日　三重県緑化推進協会設立
昭和47年8月23日　三重県緑化推進協会第1回通常総会開催，以下毎年通常総会を開催
昭和60年8月20日　社団法人三重県緑化推進協会設立総会
昭和60年10月1日　社団法人設立許可（10月2日登記完了）
平成2年8月28日　事務所を津市広明町13から桜橋1－31に移す
平成2年3月15日　「特定公益増進法人」認可，以下2年毎に更新
平成7年8月24日　事務所を津市桜橋1－31から桜橋1－104に移す

歴代会長	歴代事務局長<専務理事>
田川　亮三（S47～H6） 北川　正恭（7～現在）	柏原　勉<事務局長>（S60～H元） 萩野　尉介<専務理事>（2～7） 花井　正行<専務理事>（8） 加藤　五雄<専務理事>（9～現在）

主要活動事項

①三重県緑化推進県民大会の開催
第1回大会（昭和49年4月26日）　上野市運動公園
第2回大会（昭和50年5月30日）　松阪市中部台公園
第3回大会（昭和51年4月26日）　三重県文化会館・津市民プールで県政100年記念大会として開催
第4回大会（昭和52年4月27日）　関町観音山公園
第5回大会（昭和53年4月28日）　名張市中央公園
第6回大会（昭和54年4月25日）　海山町船津町有林
第7回大会（昭和56年4月24日）　熊野市大峰近隣公園
第8回大会（昭和57年4月23日）　伊勢市三郷山保全林
第9回大会（昭和58年4月27日）　四日市市日永丘陵公園
第10回大会（昭和59年4月23日）　河芸町町民の森
第11回大会（昭和60年4月24日）　磯部町木場公園
第12回大会（昭和61年10月31日）　大宮町森林公園
第13回大会（昭和62年5月22日）　伊賀町余野公園
第14回大会（昭和63年4月30日）　白山町中央公園
第15回大会（平成元年4月22日）　松阪市森林公園
第16回大会（平成2年4月22日）　紀伊長島町赤羽公園
第17回大会（平成3年4月29日）　紀勢町大平つつじ山
第18回大会（平成4年4月29日）　鈴鹿市体育館
第19回大会（平成5年4月29日）　青山町体育館
第20回大会（平成6年4月29日）　阿児町・阿児アリーナ
第21回大会（平成7年4月29日）　久居市体育館
第22回大会（平成8年4月29日）　上野市文化会館(96緑化フェスチバルIN上野)
第23回大会（平成9年4月29日）　四日市市中央緑地(97グリーンフェスタIN四日市)
第24回大会（平成10年4月29日）　熊野市山崎運動公園(98熊野グリーンフェスタ)
第25回大会（平成11年4月29日）　尾鷲市矢浜・市営グランド（グリーンフェスタ99INおわせ）

②全国植樹祭の開催
第31回全国植樹祭の開催，昭和55年5月24日～25日三重県林業技術センター及び三重県民の森（菰野町）で昭和天皇・同皇后陛下ご臨席のもと「緑と太陽豊かなくらし」をテーマに開催された。

③全国育樹祭の開催
第17回全国育樹祭開催，平成5年10月31日三重県民の森で皇太子同妃両殿下ご臨席のもと「うるおいとやさしさ伝える豊かな緑」をテーマに開催された。

活　動　の　特　色

三重県緑化推進協会は，緑あふれる豊かな住みよい県土づくりをめざす運動を県民各層の参加によって展開するため，その推進母体として昭和46年に設立されました。

昭和60年10月には，社団法人として組織を充実させ今日に至っております。

その間，協会は昭和60年に創設された「三重緑化基金」の造成とそれを運用する法人として活動を展開し，平成11年度末には3億4千4百万円にのぼる基金を造成しました。

また，平成2年には「特定公益増進法人」（所得税法第217条第1項第3号及び法人税法施行令第77条第1項第3号）の指定を受け，緑の募金など当協会への寄付金について税制上の優遇措置が受けられるようになりました。

さらに，平成7年5月に公布された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」（緑の募金法）第5条にもとづく「緑の募金」事業団体に指定され，緑の募金の管理をはじめ県民が豊かな緑と水に恵まれた生活が維持できるよう森林の整備や緑化の推進を積極的に展開いたしております。

当協会の正会員は，三重県をはじめ289団体・個人(平成12年1月現在)です。その内訳は，県内で経済活動等を展開する企業142，農林商工等の団体62，個人15そして県・市町村70となっています。以下，当協会の主な活動事項を紹介します。

(1)　三重緑化基金

昭和60年に緑豊かな森林づくりと健全な生活のための環境づくりに資するため，基金総額3億円を目標に「三重緑化基金」を創設しました。県や市町村の出えんをはじめこの基金の趣旨に賛同いただきました多くの県民各層のご協力のお蔭をもって平成2年には目標の3億円に達することが出来ました。

その後も，県民各位の善意が寄せられており，その運用益をもって，森林に親しみ森林づくりに参加していただくための緑化普及啓発や緑地造成のための事業に活用されています。

(2)　緑の少年隊

次代を担う子供たちが，緑とのふれあいを通じて緑を愛し，守り，育てる心を養うことを目的に発足した「緑の少年隊」は現在「緑の少年隊三重県連盟」（昭和59年設立）の下に41隊1,099名が県下各地で活躍しています。

連盟はこれらの活動を助長するため少年隊相互の交流を図る交流集会，活動発表大会や指導者の育成研修会をはじめ東海地区サマージャンボリーにも多くの隊員が参加しています。

(3)　グリーンボランティア活動

「県民参加の森林づくり」は，県民のかけがえのない財産である森林を，県民一人ひとりのこととして考え，それぞれの立場や可能な方法で労力や知恵・資金を出し合いながら守り育てていこうというボランティア精神によって支えられています。

三重県が平成7年に「グリーンボランティア」を募集したところ今日までに120名（家族会員を含めると176名）及び5団体（構成人員338名）の多数が登録（平成12年2月現在）されました。

このため，当協会ではグリーンボランティア・リーダーの研修，現地での森林作業体験を通じて技術の向上，ボランティア相互のふれあい交流や情報の交換等を容易にできるような様々な活動を支援しています。

緑化キャンペーン活動／活況を呈す，どんぐりの森林づくりＰＲコーナー（平成9年11月23日）

'98熊野グリーンフェスタで緑の功労賞を手渡す北川知事（会長）<壇上左側>

（平成10年4月29日）

●滋賀県

現況	名称	財団法人　滋賀県緑化推進会		会計年度	4月1日～3月31日
	所在地	〒520-0044　滋賀県大津市京町三丁目4番22号　滋賀会館北館1階			
	電話	077-522-7828	緑化強調期間	月間春4月1日～4月30日 秋10月1日～10月31日 週間春4月23日～4月29日 秋10月1日～10月7日	緑の募金期間　春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	077-522-7828			

役職員	会長	
	理事長	今井　芳男
	専務理事	地村　信一 (兼琵琶湖環境部林務緑政課長)
	事務局長	三ヶ島正悟
	常勤役職員数	計3人（うち役員1人）
緑の少年団		79団　3,899人

主要事業	「緑の募金」運動，植樹の集いの開催，緑の少年団育成，湖国のホームステイ21事業，森林の整備推進，ボランティア育成および活動促進，生活環境の緑化推進，緑の国際協力等
県担当部局	

組織の沿革

昭和25年	滋賀県緑化推進委員会発足
昭和52年3月23日	財団法人滋賀県緑化推進会設立許可
昭和52年4月	同上設立登記完了

歴代理事長

堀江　喜一	(S24.11～26.5)
上田　嘉蔵	(29.4～33.3)
丹羽　重蔵	(33.4～34.3)
古川　俊一	(34.4～35.3)
奥村　悦造	(35.4～37.3)
辻村喜三郎	(37.4～38.3)
北川　弥助	(38.4～39.3)
岸本久一郎	(39.4～40.3)
西堀　武	(40.4～41.3)
福谷三郎兵衛	(41.4～42.3)
文室定次郎	(42.4～43.3)
中村　敏一	(43.4～44.3)
辻村喜三郎	(44.4～45.3)
北川　弥助	(45.4～46.3)
大橋孫二郎	(46.4～47.3)
田中　久蔵	(47.4～48.3)
脇坂　栄二	(48.4～49.3)
文室定次郎	(49.4～50.3)
福谷三郎兵衛	(50.4～51.3)
小林　隆	(51.4～52.3)
田中　久蔵	(52.4～53.3)
松尾与一郎	(53.4～54.3)
大谷元太郎	(54.4～55.3)
小島　幸雄	(55.4～56.3)
北川　弥助	(56.4～57.3)
西澤正三郎	(57.4～58.5)
望月　長司	(58.5～59.3)
有村　国宏	(59.4～60.2)
窪田　常信	(60.3～H4.2)
今井　芳男	(4.3～現在)

歴代事務局長

小島軍之助	(S21.4～29.3)
島林　理英	(29.4～33.3)
金井　清吾	(33.4～38.3)
高野　尚次	(38.4～40.3)
八田　清氏	(40.4～44.3)
小泉　信三	(44.4～50.3)
黒澤　持宜	(50.4～52.3)
下畑伝之助	(52.4～54.3)
樋口　正雄	(54.4～55.3)
金森亮太郎	(55.4～57.3)
宮尾　吉治	(57.4～58.3)
龍口　寛	(58.4～59.)
小野十司蔵	(59.～H5.3)
土屋　要	(5.4～8.1)
三ヶ島正悟	(8.4～現在)

主要活動事項

昭和44年度	「みどりの日曜教室」開設
昭和47年度	県内初の緑の少年団結成（八日市グリーンパトロール隊）
昭和49年度	緑の少年団7団体結成(八日市，栗東町，野洲町，信楽町，山東町，彦根夏原，朽木村)
昭和50年度	第26回全国植樹祭本県開催，「市町村の木」設定提唱
昭和52年度	「緑と花でつつもうびわ湖のほとり運動」の推進
昭和58年度	湖国緑化基金（2億円）の創設
昭和59年度	機関誌「湖国緑化」創刊号発行，近江路の並木づくり事業発足
昭和63年度	湖国緑化基金の増資（2億円）グリーンバンク事業発足，森林基金運動開始
平成元年度	シンボル緑化推進事業発足，緑の国際協力会発足
平成6年度	緑の少年団滋賀県連盟発足(発足時30団体1,567名)，第1回グリーンジャンボリー開催
平成7年度	「緑の募金」運動開始，第19回全国育樹祭開催，緑の少年団活動発表大会開催
平成8年度	「緑の募金」の本格的な取り組みと森林整備事業及び森林ボランティア活動促進事業の開始，第1回森林ボランティ大会開催
平成10年度	国際森林ボランティア団体「ヒマラヤン・グリーン・クラブ」と県内森林ボランティア団体との交流会開催，湖国の樹のホームステイ・21推進事業の取り組み

活　動　の　特　色

本県は，現在21世紀を目前に，成熟社会への移行期にあって，「新しい淡海文化の創造」を基本理念とした長期構想「新・湖国ストーリー2010」のもとに基本テーマ：人・くらし・自然～滋賀らしくを掲げて県勢発展を目差し各分野での取り組みがなされております。

特に，本県は県民をはじめ京阪神1,400万人の重要な水源である琵琶湖があることから，県政策のあらゆる分野に，環境との調和の視点が求められており，この構想の基本計画では「みどりの湖国づくり」として緑の質を高め，面的な拡充に努め，森林・緑の多面的な機能の向上を図り，自然と人との調和したみずみずしさあふれる緑空間の創出に努めることがうたわれています。

また，その方法として緑のまちづくりや環境保全機能の増進のための多様な森林づくり等充実した森林資源の持続的な創造を図ることがもられ，「緑の募金」や山の日の設定等によって廣く県民等に森林・緑づくりや森林整備への参画を呼びかけ，県民総参加による森林・緑づくりとともに森林文化・木の文化の普及啓発を図ること，また琵琶湖の水質保全と安定的な水量の確保のために淀川流域の住民が一体となった森林整備の推進等を図ることとされています。

当会の業務は，このような県政策発展計画の基本の理念および方向等とに合致したものとして重要視されており，当然これらの県政策に沿って県当局と連携を保ちながら次のような事業を実施しております。

概括的には，21世紀に相応しい健全な森林の整備と緑豊かな湖国づくりをめざして，森林の大切さの理解や緑化思想の啓発・普及に努め，「緑の募金」により森林ボランティアの育成および活動等県民および淀川水系住民の参加をも促しながら，琵琶湖の水源としての森林の機能を高める水源林整備等の森林整備の推進と林業の普及啓発・振興を図るとともに，県下の学校，公園，街路などの公共施設を中心に生活環境緑化を進めています。また，海外研修生との交流会，国際協力団体の支援等を行い国際緑化の促進に努めています。

(1)　森林・緑の愛護思想の高揚を図る普及啓発

ア．「緑の募金」運動

目標額80,000千円を掲げて，家庭募金，企業・団体募金，募金箱コンクールの実施，常設募金箱設置などに重点を置きながら「緑の募金」運動を展開。

イ．植樹の集いの開催（平成11年・第48回）

ウ．樹のホームステイによる啓発活動

ドングリ拾いなどの交流会を開催し，その種子を「樹のホームステイ」として家庭や学校等で育成し，森林の育成や地域の緑化等に活かすことを通して森林愛護，緑化思想の啓発および情操教育に努めることとしている。

(2)　森林・緑教育の推進と団体の育成

森林・緑に親しみ，愛し育てることを通じて健全な心身を養うことを目的として緑の少年団（現在79団3,899名）および「緑の募金」活動を県域的に実施する緑化活動団体の育成指導，支援を行っているほか緑の日曜教室開講および「緑化相談所」の開設等を実施している。

(3)　森林整備の推進

ア．琵琶湖の水源として重要な役割を果たしている森林を住民参加等により育成することにより，水源かん養機能等の発揮と休養の場を提供する水源林整備事業のほか「語らいの森整備事業」，「記念の森整備事業」，「学校林整備事業」等を実施している。

イ．森林ボランティア育成事業

ボランティアの育成強化として情報，参加機会の提供等の実施。現在460名。

大津市なぎさ公園から水源の森百選「比叡山の森林」を望む

(4)　さわやかな生活環境の創造

生活環境の緑化のための緑化樹木の配布，不用木の再活用の情報の提供等を行うグリーンバンク事業，まちの象徴的な樹木を植樹するシンボル緑化推進事業および企業からの寄贈による桜等の並木・森の造成促進等を行っている。

(5)　国際緑化の協力

海外研修生との緑の交流会開催や国際的ボランティア団体の「ヒマラヤン・グリーン・クラブ」への苗木の配布等の支援と交流会開催。

●京都府

現況	名称	社団法人　京都府森と緑の公社	会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒602-8054　京都市上京区出水通油小路東入丁字風呂町104－2			
	電話	075-451-8338	緑化強調期間	春4月23日～29日	緑の募金期間　春3月20日～5月31日　秋9月1日～10月31日
	FAX	075-451-8361			
	役職員	会長	―	主要事項	1．緑化運動と緑の募金活動 2．緑化運動ポスターの募集 3．学校・公共施設等地域緑化の推進 4．青少年の緑化活動推進 5．都市と農山村の交流
		理事長	栗山　正隆		
		常務理事	森田　俊孝		
		事務局長	中尾　嘉治		
		常勤役職員	18人（うち役員2人）		
	緑の少年団	55団　1,754人		担当部局	農林水産部森林保全課緑化推進係

組織の沿革

昭和28年4月1日　京都府緑化推進協議会設立
平成8年7月30日　府緑化推進委員会指定（社団法人　京都府森と緑の公社）京都府緑化推進協議会より事務を引継ぎ緑の募金，緑化事業開始

歴代理事長

（会長）
蜷川　虎三（S28.4～53.4）
林田悠紀夫（53.4～61.4）
荒巻　禎一（61.4～H8.7）
（理事長）
加藤　裕之（8.7～9.3）
藤原　敏之（9.6～10.5）
渡辺　二朗（10.6～12.3）
栗山　正隆（12.4～現在）

歴代事務局長

（幹事長）
荒木　正重
岡田　啓
岩岡　正喜
森尾　洋一
浜田　正
矢野　正治
山内　淳
宮川　郁男
梶浦栄三郎
上田　昭三
小北　恵二
朝隈　康夫
辻　信夫
西崎　吉宏
安井　禎
谷垣　俊輔
森田　俊孝
（事務局長）
安藤　征彦
鈴木　顯雄
鐘ヶ江　裕
中尾　嘉治

主要活動事項

昭和31年　緑化運動ポスター募集開始
昭和41年　京都府の木（北山杉）選定
昭和42年　学校環境緑化努力校の指定
昭和43年　京都府開庁100年記念植樹
昭和45年　市町村の木選定開始
昭和48年　都市と農村を結ぶ緑化運動発足（老人クラブへの緑化樹養成委託）
昭和50年　学校緑化推進事業発足，さくら苗木配布事業発足
昭和52年　森林と木材の良さ啓発事業発足
昭和53年　「ここに緑を」の事業発足，山と街の育樹活動の推進事業発足，冊子「みどりの手引き」発行
昭和54年　みどりの婦人バス運行
昭和60年　みどりの少年団結成（府下で最初）
平成元年　京都府緑の少年団連絡会結成
平成2年　京都府緑の構想策定
平成3年　第42回全国植樹祭（宇治市）
平成4年　緑への思いやりキャンペーン事業発足
平成5年　第47回全国野鳥保護のつどい（丹波町）
平成6年　府民みどりのつどい（宇治市）
平成9年　「地球温暖化防止京都会議」開催，「地球環境京都宣言」がなされる
・地球温暖化防止と森林を考えるシンポジウムの開催
・地球温暖化防止を考え森林作業を体験する会の開催
平成10年　京都森林インストラクター会結成
平成11年　第8回森林文化教育フォーラム京都大会開催（綾部市他）

活　動　の　特　色

（活動目標）

平成９年12月に開催された「地球温暖化防止京都会議」及び会議を契機に発信された「地球環境京都宣言」の趣旨を踏まえ，緑の募金運動を通じた緑化の推進・森林整備等に対する啓発強化を図り，「緑豊かな住み良い地域づくり」を目標とした活動を進めている。

○緑化運動の推進

・緑化運動強調期間を定め，関係機関等と協調し緑化思想の啓発や地域植樹祭等の植樹行為の実施

○緑の募金活動

・家庭募金，街頭募金，職場募金を中心に関係団体の協力を得ながら府内全域での募金活動の実施

○緑化運動ポスターの募集

・小・中・高等学校の児童生徒を対象に，京都府・京都府緑化推進協議会と共催でポスターの募集を行い，作画を通じて，緑化・森林愛護に対する意識を高めるために実施

○学校・公共施設等地域緑化の推進

・小・中学校を対象に，緑を愛し育てる心を育むための学校緑化や公共施設等への植樹に対する助成の実施

生徒による学校緑化植樹

○青少年の森林愛護活動支援

・次代を担う青少年を人間性豊かな社会人に育てるため，緑にふれあい学ぶ緑の少年団等の活動支援や，自然の中での共同生活と学習活動を通じて緑の大切さを学ぶとともに団員相互の連携を深める取組として交流集会の実施

緑の少年団交流集会での交歓

○都市と農山村の交流

・都市住民による山村での森林・林業体験や地元住民との交流等をとおして森林・林業とそれを支える農山村への理解を深めている。また，相互理解による農山村の活性化を図るため，府下の老人クラブに緑化推進用の苗木の養成を委託し，養成後の苗木は無償で公共施設等の植樹に配布している。

老人クラブのメンバーによる緑化樹養成

●大阪府

現況					
名称	財団法人　大阪みどりのトラスト協会		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒541-0053　大阪市中央区本町1丁目4番8号　ひし富ビル3階				
電話	06-6260-3580	緑化強調期間	4月	緑の募金期間	春4月～5月 秋9月～10月
FAX	06-6260-3581				
役職員	会長	宮崎　勇 (兼職名 関西電力㈱相談役)	主要事業	1．自然環境の保全（貴重な自然の保全，里山の保全） 2．緑化の推進 3．人材育成（緑の少年団，ボランティア） 4．普及啓発 5．基金の造成	
	理事長				
	常務理事	大林　正			
	事務局長	津田　二郎			
	常勤役職員数	計10人（うち役員1名）			
緑の少年団	17団　574人		府担当部局	環境農林水産部緑整備室緑化・自然環境グループ	

組織の沿革

平成元年11月1日	㈶大阪みどりのトラスト協会設立
平成2年9月	自然環境の保全と緑化を推進する特定公益増進法人となる
平成3年2月	大阪府緑化推進委員会を協会に統合し，緑化推進委員会を設置
平成8年2月	緑の募金法に基づく大阪府緑化推進委員会に指定され緑化推進運営協議会を設置
平成11年5月	事務局を現在地に移設

歴代会長

中塚　昌胤（H元.11.1～8.6.19）
秋山　喜久（8.6.20～11.3.31）
宮崎　　勇（11.4.1～現在）

歴代事務局長

藤崎　　功（H元.11.1～5.6.7）
谷原　長武（5.6.8～9.3.31）
山根　　茂（9.4.1～11.4.30）
大久保　勇（11.5.1～12.4.12）
津田　二郎（12.4.13～現在）

主要活動事項

平成4年4月	「三草山ゼフィルスの森のトラスト運動」に着手
平成4年12月	「和泉葛城山ブナの森のトラスト運動」に着手
平成8年4月	「緑の募金の森整備事業」に着手
平成8年4月	「花いっぱい運動推進事業」に着手
平成10年11月	「いずみの森里山保全事業」に着手
平成12年4月	「みどりづくりの輪推進活動支援事業」に着手

活　動　の　特　色

・自然環境保全と緑化推進の特増法人である全国唯一の団体である。
・府，市，企業，市民により設立され，ブナの森基金とゼフィルスの森基金のふたつの基金により，それぞれの保全活動を行っている。
・市民，行政，企業，他の活動団体とパートナーシップを組んで活動している。
・貴重な自然の保全を行うため大学等の研究機関と連携して，必要な調査を行い，保全計画を作成し活動している。

ゼフィルスの森

募金の森づくり（平成10年）

いずみの森

●兵庫県

現況	名称	社団法人　兵庫県緑化推進協会		会計年度	1月1日～12月31日
	所在地	〒650-0012　神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号　兵庫県林業会館内			
	電話	078-341-4070	緑化強週期間	春4月23日～29日	緑の募金期間　春3月～5月　秋9月～10月
	FAX	078-341-4071			
	役職員	会長	貝原　俊民（兼職名　兵庫県知事）	主要事業	1．緑の募金事業 2．森林整備等助成事業 3．ひょうご森の祭典の開催 4．緑化作品コンクールの実施 5．緑の少年団活動助成事業
		理事長	安部　優吉（兼職名　兵庫県農林水産部長）		
		常務理事	渡部　寛一		
		事務局長	渡部　寛一		
		常勤役職員数	計2人（うち役員1人）		
	緑の少年団	236団　7,223人		県担当部局	農林水産部農林水産局林務課造林係

組織の沿革

昭和28年12月5日	兵庫県緑化推進委員会設立
平成8年5月28日	兵庫県緑化推進委員会解散総会（平成8年6月25日解散）
平成8年5月28日	㈳兵庫県緑化推進協会創立総会
平成8年6月25日	㈳兵庫県緑化推進協会設立許可（平成8年7月2日登記）

歴代会長・理事長

（会長）
岸田　幸雄（S28.12～29.11）
阪本　　勝（29.12～37.10）
金井　元彦（37.11～45.11）
坂井　時忠（45.11～61.10）
貝原　俊民（61.10～現在）

（理事長）
藤原　久嗣（H8.6～9.5）
吉野　生壮（9.5～11.5）
安部　優吉（11.5～現在）

歴代事務局長

堀内　勇作（S28.12～40.3）
上野　好文（40.4～41.3）
徳本　義淳（41.4～45.3）
塚本　秀五（45.4～47.3）
前田　豪一（47.4～52.3）
榊　　努（52.4～57.3）
三好啓二郎（57.4～60.3）
豆田　　實（60.4～63.3）
板垣　富泰（63.4～H2.3）
小椋　　孝（2.4～7.3）
鈴木　孝幸（7.4～8.5）
坂口　博美（8.6～9.3）
渡部　寛一（9.4～現在）

主要活動事項

昭和29年～現在	緑化募金活動（緑の羽根，バッジー平成7年まで，昭和46年から花の種子），機関紙「兵庫の林業」の緑化特集号発行ー平成7年まで，平成8年から「みどりの風」発行，門松自粛運動（代用カード作成）平成7年まで
昭和29年4月6日	第5回全国植樹祭（神戸市）
平成6年5月22日	第45回全国植樹祭（村岡町）
昭和31年～平成6年	県緑化大会
平成7年～現在	ひょうご森の祭典
平成元年	ひょうご育樹ふれあい大会（千種町）
平成5年	ひょうご育樹ふれあい大会（村岡町）
昭和46年～49年	郷土（市町）の木選定記念植樹
昭和55年～平成7年	修景植栽事業
平成8年～現在	森林整備等助成事業
昭和56年～現在	緑の少年団育成活動助成事業
昭和44年～平成元年	森林愛護運動推進事業
平成2年～平成7年	緑化啓蒙普及事業
平成8年～現在	緑化思想高揚事業
昭和29年～現在	緑化作品コンクール（ポスター，バッジ図案ー平成7年まで，標語作文ー昭和60年まで）
昭和48年～平成9年	工場等環境緑化コンクール
昭和31年～33年	精英樹発見コンクール
昭和33年～49年	学校植林・環境緑化コンクール
昭和38年～平成7年	林業経営コンクール

活　動　の　特　色

1．兵庫県の取り組み

兵庫県では，平成６年５月の第45回全国植樹祭の開催を契機に,「ひょうご豊かな森づくり構想」を策定し，森林の整備・保全を森林所有者のみに委ねるのではなく，森林は県民共通の財産であるとの認識のもと，森林の持つ公益的機能を高度に発揮させ，県民が森林とのかかわりを実践・実感できる森づくりを県民と行政が一体となって進めている。

【推進体制の整備】

森づくり構想の推進について，各界各層の意見を反映するため，学識経験者，住民，農林水産業，行政の代表者による「ひょうご豊かな森づくり推進委員会」を設置し，森林整備の方針・手法，県民の森づくりへの参加方法など，構想の推進方策を具体化するとともに，先導的な森づくりのための調査研究を行っている。

【森づくりの推進】

①人と森との共生をめざす森づくり（里山林の整備），②くらしを支える森づくり（県営分収育林による要保育森林の整備），③環境にやさしい森づくり（補助事業等の支援による要保育森林の整備）を柱に里山林整備のモデルとして先駆的な役割を実践するとともに，放置された要保育森林の公益的機能の回復や向上を図っている。

【森づくり活動の活発化】

①人材の養成，②参加機会の提供，③広く県民への普及を柱として，「ひょうご森の祭典」などのイベントの開催や緑の少年団活動への支援などを体系的に進めている。特に森林ボランティア講座修了者を中心に結成された「ひょうご森の倶楽部」は会員が1,000人を越え，県下18箇所で活発に活動を行っている。平成12年の５月には，間伐を専門に取組む「間伐隊」が発足する予定である。

ひょうご森の倶楽部の活動状況

2．社団法人兵庫県緑化推進協会の取り組み

当協会は，兵庫県緑化推進委員会が昭和28年以降取り組んできた緑化の基本理念と各種緑化事業を継承していくとともに，緑の募金活動を，県民と一体となり展開していくことを基本に発足した協会である。

緑豊かな県土づくりと県民参加による緑化を強力にすすめるため，各市町緑化推進委員会及び地域緑化推進連絡協議会と連携を密にし，各種緑化事業及び緑化思想の高揚を図ると共に，募金運動を主体に積極的に取り組んでいるところである。

【募金活動の展開】

県民の理解と協力を得ながら募金活動を推進してきた結果，平成11年度の実績は5,816万円余の協力を得られた。その大半は家庭募金で支えられ，全体の62％を占めている。

【森林整備等各種緑化事業】

森林の整備や都市の緑化等を積極的に推進していくため，みんなの森造成，ふるさとの巨樹の保存，森林浴場の整備及び学校林等環境緑化の整備など，各種緑化事業を推進している。

特に地域における古木巨樹に対し，樹木医による診断及び治療を行うふるさとの巨樹保存事業は好評である。

また，地域緑化を促進するために，各市町緑化推進委員会に対し，募金額の50％を交付金として地域の活動に助成を行い，地域での特色ある緑化をすすめるとともに，緑の大切さを住民に理解浸透するよう努めている。

【緑化の啓発】

県民一人ひとりが緑豊かな自然の恩恵に感謝し，森を守り，育て，活動を広げる場として「ひょうご森の祭典」を毎年開催するなど，都市住民と農山村住民との交流の輪が幅広く県民運動として定着していくとともに，森づくり活動や緑化の推進が活発に行われることを目的に緑化啓発を行っている。

また，緑化推進運動の一環としてポスター原画，標語の部門について小・中・高校の生徒から緑化作品を募集し，コンクールを実施することにより，森林の役割の重要性等，緑化の啓発を行っている。

●奈良県

現況	名称	財団法人　奈良県緑化推進協会		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒630-8253　奈良市内侍原町8　ソメカワビル内				
	電話	0742-24-0200	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春4月～5月 秋9月～10月
	FAX	0742-24-2110				
	役職員	理事長	柿本　善也 (兼職名 奈良県知事)	主要事業	1．緑化普及啓発（コンクールの実施等） 2．緑化推進（みんなの森造成等） 3．みどりの少年団育成	
		常務理事	疋田　雅之			
		事務局長	疋田　雅之			
		常勤役職員数	4人（内役員1人）			
	緑の少年団	66団　5,950人		県担当部局	農林部森林保全課緑化保護係	

組織の沿革	昭和25年　奈良県緑化推進協議会設立 昭和43年　奈良県緑化推進委員会に名称変更 平成6年4月1日　㈶奈良県緑化推進協会設立 平成7年4月1日　事務局を治山課から現住所に移転

歴代委員長

委員長
- 野村　萬作（S25）
- 奥田　良三（26～55）
- 上田　繁潔（56～H3）
- 柿本　善也（4～6）

理事長
- 柿本　善也（6～現在）

歴代事務局長

幹事長
- 山崎　孝雄
- 森西　繁正
- 檜垣　輝男
- 清水　重秀
- 森野　巌（S53～58）
- 山東　龍児（59～60）

事務局長
- 高貝　有（61～H元）
- 松田　良（元～2）
- 吉岡　洋介（4～11）
- 疋田　雅之（12～現在）

主要活動事項

昭和44年4月1日	奈良県の木(杉)選定
昭和43年9月12日	明治百年記念緑化展示会
昭和56年	全国植樹祭(奈良市佐紀町「平城宮跡」)
昭和60年	奈良県緑化推進委員会「シンボルマーク」決定
昭和62年	奈良県100年記念植樹
平成元年	「みどりの日」制定記念事業
平成10年3月	グリーンボランティアならクラブ設立
平成11年4月1日	奈良県みどりの少年団連盟設立
年間事業	県植樹祭 みどりの少年団交流集会 緑化樹配布会 緑化講習会 イベント助成 事業助成

活　動　の　特　色

●事業実施方針

平成12年度は，「緑の募金」実施50周年を迎え，緑化推進運動の拡大，発展という大きな課題をもっている。

昨年度は県内6市にわたる自治会連合会において，緑の募金の家庭募金に取り組んでいただいたように，環境緑化の重要性に対する県民の理解は非常に高まってきている。

本協会では，環境緑化に対する県民の要望に応えるべく，県の緑化推進行政との連携をはかりながら，“地球環境の保全”や“健康で緑豊かなやすらぎのある県民生活”の実践をめざし，啓発普及活動を展開し，あわせて県民参加による緑環境の整備，県土の保全等を推進し，また“環境を守るのは自分自身だ”という意識のもと，県民参加の森づくりボランティアの輪を広げる活動を推進する。

●緑化普及啓発

(1) “2000なら森を育てる祭典”の共催

日　　時：6月4日
場　　所：野迫川村北今西
スローガン：「はぐくもう豊かな森と豊かな郷土」
内　　容：森林ボランティア活動・木工クラフト体験・郷土芸能の紹介・物産展・苗木配布会・緑化コンクール賞及び緑化功労者の表彰等
全　　国：植樹祭（大分県），育樹祭（福島県）への参加。

(2) 緑化啓発イベントの実施及び助成

県農業祭，県商工祭等の場を通じ環境緑化啓発を行う。

各種団体の普及啓発イベント事業に対し，助成を行う。

(3) 県民参加の森林づくりの推進

森林ボランティア団体等との連携をはかりながら育成を図る。

(4) 緑化広報宣伝活動

国土緑化運動ポスター・育樹運動ポスターの掲示

広報誌「緑化だより」の発行

インターネット・ホームページの維持管理

(5) 緑化コンクールの実施

① 学校環境緑化コンクール
② 緑化作品（ポスター・標語・写真）コンクール

(6) 緑と花の一日塾

日　　時：2月中旬（2日間）
内　　容：緑化技術講習会

●環境緑化事業

(1) みんなの森造成事業への助成

地域住民による緑化計画に基づき実施する植樹事業に対し助成する。
（ゴルファー緑化協力金含む）

(2) 緑化樹配布

県民の緑に対する理解と関心を高め，生活に潤いと安らぎを与える緑づくりを推進するため，苗木の配布を行う。

(3) 自然公園等整備事業

森林，緑に関する啓発用看板，標識，案内板，簡易施設歩道等の設置及び補修整備。

●みどりの少年団育成

(1) 育成指導

対　　象：県内の小・中学校，ボーイスカウト，ガールスカウト
目　　的：次代を担う子供達の緑に対する知識と理解を深め，心豊かな人間性を養うこと。
団 体 数：6団（新規），72団（既設）

(2) 交流集会

時期及び会場：7月8日　県立青年の家（吉野町）
　　7月20日　大和郡山市少年自然の家
内　　容：県内各団の活動発表，野外活動を通じて団員相互の交流をはかるとともに情報交換等を行う。
全　　国：みどりの少年団大会（秋田県）への派遣

●和歌山県

現況	名称	財団法人　和歌山県緑化推進会		会計年度	7月1日～6月30日
	所在地	〒640-8585　和歌山市小松原通1－1　和歌山県庁森林整備課内			
	電話	073-441-2973	緑化強調期間	春3月～5月	緑の募金期間　春4月～5月 秋9月～10月
	FAX	073-432-5850			
	役職員 理事長	島本　隆生 (和歌山県農林水産部長)	主要事業	1．緑化の啓発普及事業 2．造林及び森林整備事業 3．地域緑化推進事業 4．緑の募金運動及び募金による緑化事業 5．緑の少年団育成指導及び活動助成	
	副理事長	山﨑　繁雄 (和歌山県町村会長)			
	常務理事	毛呂　　眞 (和歌山県林務長)			
	事務局長	松本　蒸治 (和歌山県森林整備課長)			
	常勤役職員数	なし			
	緑の少年団	36団　2,263人	県担当部局	農林水産部森林整備課緑化造林班	

組織の沿革

平成4年3月3日	民法34条による設立許可
3月4日	設立登記
平成8年3月14日	緑の募金法第5条の指定
平成9年3月7日	寄付行為の変更(緑の募金)
平成9年5月28日	緑の募金運営協議会認可
平成11年10月現在	基本財産66,000,000円

歴代委員長

仮谷　志良	(H4.3.3～9.7.8)
平松　俊次	(9.8.31～11.3.31)
尾﨑　武久	(10.4.17～11.3.31)
島本　隆生	(11.4.16～　)

(平成12年9月末現在)

歴代事務局長

栗須　克己	(H4.3.3～5.3.31)
宮石　寧文	(5.4.1～7.3.31)
龍田　伸崇	(7.4.1～9.3.31)
鈴木　宏昌	(9.4.1～10.3.31)
毛呂　　眞	(10.4.1～11.3.31)
山口　彰久	(11.4.1～12.3.31)
松本　蒸治	(12.4.1～現在)

主要活動事項

毎年	定例事業 みどりの感謝祭（4月） 緑の募金運動（春・秋） 緑の少年団交流集会（8月） かしの木バンク（10月） みんなの森造成事業（1～3月）
平成4年8月	森と湖に親しむバス教室
平成4年10月1日	森林緑の信託に関する覚書
平成5年3月	木の国文化推進事業(森林基金事業)
平成5年10月	護摩壇山森林公園フェスティバル
平成6年5月	森林緑の信託事業
平成7年10月	森林公園バス教室･シャクナゲ植栽事業
平成8年3月	臨時理事会(緑の募金運動の実施)
平成8年11月	「紀州山の日」参加，緑化啓発
平成9年4月～	市町村緑化推進会設立推進
平成10年6月～	「体験と学習の森整備」(森林基金)
平成10年8月23日～29日	緑の少年団海外研修（カナダ・アルバータ州）3名参加
平成11年3月13日，20日，27日	かしの木バンクの森づくり，台風災害林復旧(3箇所)
平成11年7月27日～29日	第30回緑の少年団全国大会（田辺市，本宮町）
平成11年8月15日～21日	緑の少年団海外研修（カナダ・アルバータ州）3名参加
平成11年10月16日，17日	近畿地区森林整備合宿
平成11年11月8日～9日	近畿地区都道府県緑化推進会連絡協議会開催（高野町高野山）
平成11年11月13日	緑の交流体験活動（黒沢牧場）

活　動　の　特　色

1．緑化の啓発普及

緑の感謝祭
　県内6箇所でその地方の特色を活かして開催
　緑化功労者表彰，緑化ポスター原画コンクール，ウォークラリー，クイズ大会等の緑化イベント
実のなる木植栽事業
　鳥獣保護連絡協議会への助成により実施。子ども達が，ヤマモモ，モチノキ，ピラカンサ等を植樹する。
県民参加のシャクナゲ植栽
　「緑と水の森林基金」による植樹イベント
　護摩壇山森林公園（龍神村）

緑の感謝祭

2．森林整備

森林緑の信託（コミュニティ・トラスト）
　住友信託銀行と預金者の寄付(信託利息)により，森林組合中核作業班に作業具の贈呈等
かしの木バンクの森づくり事業
　台風による被災林を地域住民や緑の少年団の協力を得て復旧

かしの木バンクの森づくり

3．地域緑化推進事業

みんなの森造成事業
　地域住民による公園や公共施設の緑化事業
かしの木バンクによる苗木配布
　県内の子ども達が集めたドングリに対し，緑化木を配布
桜の苗木配布

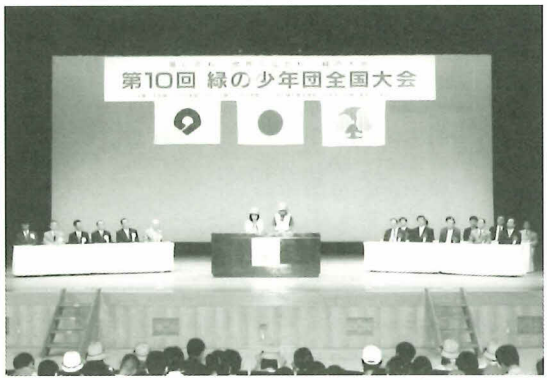
4．緑の募金

街頭啓発（県内各地）
イベント参加
　「農林水産業祭」，「紀州山の日」
市町村緑化推進会の設立・拡充
学校募金・企業募金・職場募金

緑の募金事業

5．緑の少年団育成

緑の少年団活動助成
基盤整備（団旗，ユニフォーム等の整備）
新団の結成促進
県内少年団との交流集会（毎年1回）
県外少年団との交流
　（大阪府・滋賀県緑の少年団）
第10回緑の少年団全国大会開催
　大会テーマ
　　風にのれ　世界に広がれ　緑の大地
　開催期間　平成11年7月27日～29日
　開催場所
　　記念式典　田辺市「紀南文化会館」
　　交流集会　本宮町「請川中学校」，「本宮中学校」，「熊野川ドーム」ほか
　参加人員　記念式典1,300人，交流集会500人



緑の少年団全国大会

●鳥取県

現況	名称	社団法人　鳥取県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日	
	所在地	〒680-8570　鳥取県鳥取市東町一丁目二二〇番地　鳥取県庁森林保全課内				
	電話	0857-26-7307	緑化強化期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春3月27日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	0857-26-7308				
	役職員	理事長	廣江　弌(鳥取県議会議長)	主要事業	1．緑の募金事業 2．森林の整備及び緑化の推進事業 3．県植樹祭の開催 4．結婚記念樹のプレゼント 5．一株植樹運動 6．森林のめぐみ感謝祭 7．樹名板設置 8．緑の少年団育成費	
		事務局長	吉次　信策			
		非常勤役員数	計　16人			
	緑の少年団	61団　5,571人		県担当部局	農林水産部森林保全課緑化推進係	

組織の沿革	昭和25年　鳥取県緑化推進委員会設立 平成8年　社団法人設立認可（4月12日）

歴代理事長	歴代事務局長
中田　吉雄（S25.3～25.5） 浜口虎太郎（25.5～26.5） 沢住　辰蔵（26.5～27.6） 木島　公之（27.6～28.9） 土谷　栄一（28.9～31.6） 木島　公之（31.6～33.3） 小林　正隆（33.3～34.5） 森本　繁蔵（34.5～35.7） 井上　安栄（35.7～36.7） 藤井　政雄（36.7～37.7） 竹中　栄（37.7～38.5） 木島　公之（38.5～39.9） 島田　安夫（39.9～40.12） 太田実太郎（40.12～42.5） 土谷　栄一（42.5～43.9） 上根　政幸（43.10～44.12） 藤井　政雄（44.12～46.5） 角田　勇一（46.5～48.6） 林原　嘉武（48.6～50.5） 土谷　栄一（50.5～52.3） 浜崎　芳宏（52.3～54.5） 松原　一男（54.5～56.6） 広田　藤衛（56.6～58.5） 伊藤　武夫（58.5～60.6） 野津　英顕（60.6～61.7） 山本　昇造（61.7～62.5） 山口　享（62.5～H2.9） 原田　一雄（2.9～3.5） 花本　美雄（3.5～5.6） 長谷川和夫（5.6～7.5） 井上万吉男（7.5～9.6） 藤井　省三（9.6～11.5） 廣江　弌（11.5～現在）	横山　幹（S39.4～44.3） 岸本　達雄（44.4～52.3） 富本　賢（52.4～57.3） 森脇源八郎（57.4～62.3） 盛田　可男（62.4～H3.3） 安木　哲（3.4～5.3） 新見　盛也（5.4～7.3） 沖　修司（7.4～9.3） 高橋　宏明（9.4～11.7） 島津　義史（11.7～12.3） 吉次　信策（12.4～現在）

主要活動事項
昭和25年　鳥取県緑化推進委員会設立 緑の羽根募金開始 昭和29年　第1回鳥取県植樹祭 昭和40年　第16回全国植樹祭（大山町） 昭和49年　緑の少年団結成 昭和53年　「みんなの森」造成事業実施 平成7年　結婚記念樹実施 平成8年　森林づくり事業、地区緑化イベント事業実施 平成9年　ボランティア活動支援事業の実施 平成10年　第22回全国育樹祭鳥取県（出合いの森） 平成11年　第1回森林のめぐみ感謝祭実施

活　動　の　特　色

募金活動の推進

昭和25年以来，県民の理解と協力を得る中で募金活動を展開してきたが，平成８年「社団法人」に改組し，支部活動の体制強化により家庭募金への浸透を積極的に進め平成11年度は2,800万円の協力が得られた。人口の少ない鳥取県では一戸当たり145円，一人当たり46円となっている。

緑の少年団による街頭募金（平成11年度）

鳥取県の植樹祭

昭和29年第一回を「鳥取市大火災復興記念植樹」をテーマとして鳥取市で開催された。以後，県内各地の公園，学校等で毎年度開催されてきたが，現在では４月の「みどりの日」の一大イベントとして県民に定着している。

植樹祭

全国植樹祭並びに育樹祭

昭和40年第16回全国植樹祭が天皇，皇后両陛下御臨席のもと，国立公園大山山麓で挙行された。平成10年には，第22回全国育樹祭が皇太子，同妃両殿下の御臨席のもと，鳥取市の「とっとり出合いの森」で開催されたが，大山での「お手入れ行事」では，植樹祭で両陛下がお手植えされたアカマツに肥料を施され，緑化に取り組む県民意識に大きな励みとなった。

全国育樹祭

森林のめぐみ感謝祭

全国育樹祭の開催を契機として平成11年度に「森林のめぐみ感謝祭」を新設し，植樹際と並ぶ県の大きなイベントとして定着しつつある。

森のめぐみ感謝祭

緑の少年団活動

健全な少年，少女の育成に寄与するため次代を担う緑の少年団の育成に努めてきたが，現在61団5,500人の団員を有し，街頭募金を始め，交流活動，緑の学習会並びに野外での緑化イベント等盛んに活動を行っている。

団体ボランティアの活動

平成８年緑を愛し，森林の整備にいそしむボランティア「森っ子倶楽部」が誕生し，会員260余人が登録し県内各地で下刈りや枝打，間伐作業など実践活動に参加し活躍している。

このほか女性グループや，地域の緑化を守る団体等が各地に誕生し森林づくりに積極的な参加がみられその活動が期待されている。

森っ子倶楽部の活動

農山村，都市の交流活動

県民参加の森づくりが進められる中で，上，下流の市町村相互の交流が行われ，日野川流域では，米子市や境港市が日南町で水源林の造成を行うなどされているが，下流市民の参加や，交流学習会等への親子での参加などが盛んになっている。

●島根県

現況						
名称	社団法人　島根県緑化推進委員会			会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒690-0886　島根県松江市母衣町55　島根県林業会館内					
電話	0852-21-8049	緑化強調期間	春4月23日～4月30日	緑の募金期間	春4月～5月 秋9月～10月	
FAX	0852-21-8231					
役職員	会長	手銭　長光	主要事業	森林の整備，緑化の推進の総合企画 緑の募金の推進，寄附金の管理 森林整備等の事業実施，国際協力事業並びに事業実施者に交付金交付 森林整備に関する情報収集及び提供 法人の目的を達成するための事業		
	理事長	―				
	常務理事	武田　幸夫				
	事務局長	武田　幸夫				
	常勤役職員数	計2人（うち役員1人）				
緑の少年団	71団　8,142人		県担当部局	農林水産部森林整備課森とのふれあい係		

組織の沿革

昭和25年4月1日	島根県緑化推進委員会設立 松江市殿町，島根県森林組合連合会内に事務所置く
昭和59年度	一年間島根県庁内一時事務所置く
昭和60年4月	松江市母衣町55島根県森林組合連合会に事務所移転，現在に至る。
平成8年4月1日	社団法人島根県緑化推進委員会設立 松江市母衣町55番地島根県林業会館4Fに事務所移転

歴代委員長

中島　龍一（S25.4～29.12）
田部長右衛門（30.1～34.4）
田部長右衛門（35.2～54.9）
青山　善平（55.2～55.4）
桐田　晴喜（55.4～56.4）
島田　芳雄（56.4～57.3）
名越　隆正（57.4～59.3）
石田　浩造（59.4～60.3）
森山　金一（60.4～61.3）
浅野　俊雄（61.4～62.3）
細田　重雄（62.4～63.3）
恒松　志良（63.4～H元.3）
大島　武敏（元.4～2.3）
景山俊太郎（2.4～3.3）
宇津　徹男（3.4～5.3）
土田　好治（5.4～7.3）
松前　　勇（7.4～8.3）
H8.4　社団法人・会長
石橋　大造（8.4～9.3）
佐々木雄三（9.4～10.3）
漆谷　秀樹（10.4～11.3）
飯塚　普彬（11.4～12.6）
手銭　長光（12.7～現在）

歴代事務局長

高尾僕次郎（S25.2～30.1）
佐々木進一（30.12～33.5）
土井　幸夫（33.6～40.9）
片寄　武美（41.1～42.7）
森脇　茂暢（42.8～51.3）
前田　高明（51.4～55.3）
小松　幹夫（55.4～59.4）
吉儀　義興（59.5～60.4）
島村　喜隆（60.5～63.4）
梶谷　滋郎（63.5～H2.3）
籾山　　潤（2.4～6.3）
H8.4社団法人
岩井　弘行（6.4～11.5）
H8兼常務理事
武田　幸夫（11.6～現在）
兼常務理事

主要活動事項

昭和25年4月	緑の羽根募金(街頭を主体)開始
昭和25年～46年	学校植林コンクール開催
昭和25年～34年	学校植林造成奨励金交付
昭和26年	緑化大会（4月）
昭和28年	老樹名木保存 全国苗畑コンクールにおいて，益田市の畑重吾農林大臣賞
昭和29年	門松改善運動
昭和39年	オリンピック記念植樹
昭和43年	明治100年記念学校造林事業（31校31ha 92,000本）
昭和44年12月	中国・四国地区緑化推進協議会
昭和46年	第22回全国植樹祭(太田市三瓶山)，ハンカチ募金(目標750万円ハンカチ75,000袋)
昭和48年	日産グリーンキャンペーン事業(日産より緑化寄附金130万円)松江市，浜田市
昭和50年	日産グリーンキャンペーン（太田市1,000本植樹）
昭和51年	日産グリーンキャンペーン（安来市300本植栽）
昭和55年	緑化運動30周年記念行事，国土緑化推進委託事業（みんなの森造成）始まる
昭和58年	事業年度が4月～3月になる
平成3年4月28日	第15回全国育樹前奏フェスティバル助成
平成3年	募金目標額19,500千円になる。
平成4年4月24日	宍道小学校25名種まき式初参加
平成5年4月26日	来待小学校児童により種まき式
平成5年4月29日	ふるさと森林公園オープニング
平成8年3月25日	島根県緑化推進委員会解散
平成8年4月1日	社団法人島根県緑化推進委員会設立，募金目標額42,000千円

活　動　の　特　色

昭和26年　講和記念植樹
　　第１回島根県緑化大会開催
昭和28年４月１日　天皇陛下御下賜播種式（松江市楽山，島根県林業試験場，昭和43年まで続く）
昭和28年４月２日　義宮殿下に記念植樹をお願いする（松江市城山公園）
昭和28年　老樹名木調査
昭和29年１月１日　緑の友（第７号）島根県緑化推進委員会広報誌発行
昭和29年４月　島根県緑化大会大田市開催
昭和34年より　すぎ挿木採穂園県下森組設置
昭和34年～38年　合計223森組44,851本
　　すぎ挿木実験林見本林設定
　　県８ヶ所９品目15,300本5.20ha
昭和34年10月29日　緑化運動10周年記念及び第９回緑化大会開催
昭和34年～35年　市街地緑化用苗木配布15市16町村，1,442本
　　学校環境緑化苗木配布
昭和35年～36年　３ヶ年計画県下小・中学校
昭和35年　第１次　小学校106校中学校60校に苗木1,305本
昭和36年　第２次　小学校74校中学校16校に苗木872本
　　映画宣伝会県下８地区で延38日間実施
昭和35年11月　中国・四国地区緑化協議会開催
昭和36年４月　緑化募金活動及び推進について座談会を松江放送局よりラジオ放送する。
昭和37年４月２日　緑化推進委員会，松江市，八雲中担当者緑化座談会を放送し，緑化意欲の高揚に努める。
昭和38年　豪雪で年始
昭和40年　緑化運動15周年記念大会（浜田市）
昭和42年　学校造林推進(30.51ha 31校，92,000本)
昭和43年４月　東出雲町野呂苗畑種まき式
昭和44年11月６日　緑化運動20周年記念行事(松江市)
昭和47年４月10日　県林業試験場(宍道町)御下賜種まき式
昭和49年～55年　松江市森林組合苗圃，御下賜種子種まき式
昭和50年～54年　環境緑化苗木，社会福祉施設1,580本配布
昭和56年～現在　緑化センター(宍道町)，御下賜種子種まき式
昭和58年　事業年が４月～３月になる。

島根県緑化推進委員会主催記念植樹

昭和34年４月１日　皇太子御成婚記念植樹（県庁構内，梅桜15本）
昭和35年４月１日　皇孫殿下ご誕生記念植樹（松江市楽山公園）
昭和34～36年　親子造林（松江市忌部町他２ヵ所，ヒノキ等2,360本）
昭和37年４月２日　松江市青年の家構内
昭和38年４月３日　松江市末次公園
昭和39年４月10日　太田市三瓶町，田部知事，伊達副知事参列（ヤマザクラ300本）
昭和39年　オリンピック記念白潟公園（クロマツ庭園木20本）
昭和40年４月５日　15周年記念（浜田城山他３ヵ所，820本）
昭和41年４月６日　八雲村岩坂2.7ha造林記念植樹
昭和42年４月５日　大田市三瓶町，記念造林
昭和43年４月17日　明治百年記念植樹及び造林記念
昭和46年４月18日　第22回全国植樹祭（大田市三瓶山）

島根県主催

昭和45年４月　県植樹祭（大社町）
昭和47年４月　〃（頓原町）
昭和48年４月　〃（西郷町）
昭和49年４月　〃（日原町）
昭和50年10月　〃（松江市）
昭和51年４月　〃（仁多町）
昭和52年４月　〃（三隅町）
昭和53年４月　〃（掛合町）
昭和54年４月　〃（大田市）
昭和55年４月　〃（瑞穂町）
昭和56年４月　〃（玉湯町）
昭和57年４月　〃（匹見町）
昭和58年11月　〃（金城町）
昭和59年11月　〃（佐田町）
昭和60年４月　〃（大東町）
昭和61年４月　〃（桜江町）
昭和62年10月　〃（益田市）
昭和63年11月　〃（三刀屋町）
平成元年４月　〃（川本町）
平成２年４月　〃（伯太町）
平成３年４月　〃（津和野町）

県緑化センター(宍道町)での御下賜種子播種式(昭62.4.17)

●岡山県

現況	名称	社団法人　岡山県緑化推進協会	会計年度	1月1日～12月31日	
	所在地	〒700-0902　岡山市錦町1－8　岡山県木材会館5F－D			
	電話	086-221-9511	緑化強調期間	春4月～5月	緑の募金期間　春4月～5月 秋10月
	FAX	086-221-9511			

役職員		主要事業
会長	石井　正弘 (岡山県知事)	1．緑の募金運動 2．緑化ポスターコンクール 3．ふれあい森林浴 4．緑化推進大会 5．ボランティア団体の育成 6．地域及び環境緑化事業
理事長	－	
専務理事	－	
事務局長	可兒　義朗	
常勤役職員数	計2人（うち役員0人）	県担当部局：生活環境部自然保護課緑化鳥獣係 (昭和46年4月，農林部林政課から環境部自然保護課へ移管)

組織の沿革

昭和24年3月29日	岡山県国土緑化連盟設立
昭和37年3月12日	岡山県緑化推進委員会に改称
平成8年4月1日	社団法人　岡山県緑化推進協会に改組
平成10年4月1日	専任事務職員を置き，独立事務所となる(岡山県自然保護課内から現在地へ移転)

歴代委員長

西岡　広吉（S24.3～26.3）
三木　行治（26.4～39.9）
加藤　武徳（39.11～47.11）
長野　士郎（47.11～H8.12）
石井　正弘（9.1～現在）

歴代事務局長

中村　千壽（S24.3～24.9）
蜂谷　堅（24.9～27.3）
青井小太郎（27.4～29.4）
岩藤　保夫（29.5～31.1）
浅野　孝男（33.4～36.5）
御船剛吉郎（36.6～38.4）
桐山　涵一（38.5～40.10）
則武　俊男（40.11～42.4）
平井　達海（42.5～43.3）
内田　廉（43.4～44.3）
浅野　浩三（44.4～45.6）
萩原猪三夫（47.4～48.3）
樋上　久士（48.4～50.3）
相沢　八郎（50.4～52.3）
物部　善男（52.4～54.3）
木村　正一（54.4～56.3）
山本　利幸（56.4～57.3）
小西　毅（57.4～59.3）
須田　健児（59.4～62.3）
十菱　龍（62.4～H元.3）
長光　国明（H元.4～4.3）
貞国　明（4.4～6.3）
中西　美子（6.4～8.3）
大嶋　正成（8.4～9.3）
高橋　俊之（9.4～10.3）
可兒　義朗（10.4～現在）

主要活動事項

昭和37年4月～55年11月　県植樹祭の開催
・岡山市（S37.4・S39.3・S41.3・S44.3 S45.3・S46.3）
・北房町（S38.3）
・倉敷市（S43.3・S52.10）
・高梁市（S47.10）
・玉野市（S48.10）
・津山市（S49.10）
・早島町（S50. 10）
・笠岡市（S51.10）
・備前市（S53. 10）
・邑久町（S54.10）
・総社市（S55.11）

昭和41年3月	学校緑化研究校指定
昭和41年9月	県の木(アカマツ)指定
昭和42年4月9日	第18回全国植樹祭(岡山市)
昭和42年11月	植樹祭・お手播記念碑除幕式
昭和43年10月	明治100年記念緑化運動の実施
昭和45年2月～3月	緑化運動20周年記念植樹
昭和45年11月～12月	日本万国博覧会記念植樹
昭和47年7月	「岡山の巨樹・老樹・名木」の発刊(昭和62年5月改訂)
昭和49年4月～5月	「老人に緑と花」講座開設
昭和52年8月	第1回みどりの少年隊研修会の開催
昭和57年10月	第1回岡山県緑化推進大会開催(以後毎年)
昭和60年11月10日	国際森林年記念植樹祭(加茂川町)
昭和63年3月	「緑と水の森林基金」募金開始
平成元年11月2日	みどりの日制定記念植樹祭(美甘村)
平成3年	巨樹・老樹・名木保存事業開始(以後毎年3～4本)

活　動　の　特　色

（総括）

（社）岡山県緑化推進協会は，平成８年４月に法人化，平成10年４月から専任職員２名をおき，事務所も県庁（自然保護課内）から現在地に独立した。組織は本部の下に９支部を県の出先機関内の森林課におき，その課の林業技術職員（幹事，書記）が林業行政の一環として事務を担当している。平成12年初の正会員は県および市町村79，団体・企業84，賛助会員３から成っている。

平成11年の募金額は約2,000万円で，全国的にも低位にある。募金別では職場48％，団体・企業21％，学校15％，家庭10％，街頭他６％で，家庭募金の割合は全国の48％に比して低く，この割合を増加させることが今後の課題である。

平成11年の事業交付金は，約1,600万円，森林の整備（５件）19％，緑化の推進（10件）28％，支部緑化（66市町村）50％の配分となっている。

（岡山県緑化推進大会の開催）

緑化思想の普及啓発に資するため，昭和57年から毎年，秋の緑の月間に「岡山県緑化推進大会」を県と共催で開催し，記念植樹や記念講演および各種緑化コンクールの表彰等を行っている。

（巨樹・老樹・名木保存事業）

本会では県政百年を記念して，地域で古くから親しまれている天然記念物等の調査結果をまとめ「岡山の巨樹老樹名木」として昭和47年７月に発刊した。さらに57年から，その後の環境の変化や自然枯死等による生育現況の見直しを行い，昭和62年５月に改訂した。

巨樹・老樹・名木保存事業はこのような文化的，歴史的な郷土の資産の活力回復を図り，大切に保存するために，平成３年から市町村と協力して毎年３～４本実施して好評を得ている。

▲岡山県緑化推進大会
平成11年11月７日　勝山美しい森（勝山町）
日本桜の会から桜の苗木1,000本の寄贈を受け，
桜の女王はじめ県民1,300人が参加した。
（上）ポスターコンクール表彰式
（下）参加者1,300人

▶巨樹・老樹・名木保存事業
半田のケヤキ（700年）
美甘村鉄山字半田
腐朽部処理，土壌改良，棚設置等

●広島県

現況					
名　称	社団法人　広島県みどり推進機構		会計年度	1月1日～12月31日	
所在地	〒730-8511　広島市中区基町10-52　広島県農林水産部林務政策課内				
電　話	082-228-2111　内線　3859	緑化強調期間	春4月23日～29日	緑の募金期間	春3月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
ＦＡＸ	082-223-3583				

役職員	
会長理事	檜山　俊宏 (県議会議長)
副会長理事	中尾　昭弘 (県農林水産部長)
副会長理事	平末　富彦 (県樹苗農業協同組合長)
副会長理事	児玉更太郎 (県町村会長)
常務理事	後藤　亮
事務局長	常務理事が兼務
常勤役職員数	計２人（うち役員１人）

主要事業

1．県植樹祭の開催
2．みどりの集いの実施
3．緑化ポスターコンクールの実施
4．緑化推進校の指導
5．公募による「みどりづくり活動支援事業」の実施
6．みどりの少年団活動推進
7．会報「ひろしまの緑」の発行

緑の少年団	46団　2,859人	県担当部局	農林水産部林務政策課みどり景観係

組織の沿革

昭和27年12月24日	広島県緑化推進委員会設立
28年1月1日	17支部を設置
平成５年８月11日	広島県緑化推進委員会解散 社団法人広島県みどり推進機構設立 (認可登記８月11日) 22支部を設置

歴代委員長

小谷　傳一	(S27.12～43.12)
檜山袖四郎	(44.1～54.6)
児玉　秀一	(54.6～55.7)
大山　広司	(55.7～57.6)
木曽　初行	(57.6～58.5)
吉川　清士	(58.5～59.5)
木山　徳郎	(59.5～62.5)
安井　耕造	(62.5～63.7)
末田　隆	(63.7～H元.12)
奥原　信也	(元.12～3.5)
檜山　俊宏	(3.5～現在)

歴代事務局長

尾谷　昌一	(S27.12～43.3)
吉岡　真一	(43.3～45.3)
石丸　仙	(45.4～46.4)
津川　憲照	(47.4～50.3)
木原　一博	(50.4～52.3)
松田　覓	(52.4～53.3)
佐藤　文雄	(53.4～57.3)
黒木　富生	(57.4～60.3)
富澤　哲郎	(60.4～61.3)
友川　勝人	(61.4～63.3)
平井　孝司	(63.4～H3.3)
牧　正流	(3.4～4.3)
長友　昌浩	(4.4～5.8)
今田　茂夫	(5.8～10.2)
後藤　亮	(10.3～現在)

主要活動事項

昭和28年～現在	「緑の羽根」募金,平成8年から「緑の募金」
昭和28年～現在	緑化ポスターコンクール
昭和28年～昭和53年	学校植林コンクール
昭和29年～現在	緑化活動校の指定
昭和29年～昭和37年	展示林の設置
昭和29年～昭和46年	巣箱コンクール
昭和32年～昭和44年	育林コンクール
昭和33年～現在	学校環境緑化コンクール
昭和34年３月	皇太子ご結婚記念造林
昭和35年４月	皇孫殿下ご誕生記念造林
昭和36年４月	治山事業50周年記念植樹
昭和36年～昭和49年	愛鳥ポスターコンクール
昭和39年３月	「町民の山」造成
昭和40年4月～昭和41年	「市民の森」造成
昭和45年～現在	緑の週間に苗木の無料配布
昭和46年４月17日	第22回全国植樹祭お手播き行事(三次市),県緑化推進委員会旗作成
昭和48年12月～平成6年	「市民の憩いの場」造成
昭和50年～現在	緑の少年団の結成
昭和52年～平成6年	「みんなの森」の造成
昭和54年～現在	緑の少年団交流集会
昭和61年～現在	林業・環境緑化写真コンクール(共催)
平成４年～現在	みどりまつり開催
平成７年５月21日	第46回全国植樹祭（本郷町）
平成７年７月12日	広島県緑の少年団連盟設立
平成8年7月30日～8月1日	第７回緑の少年団全国大会開催
平成10年～現在	公募による「みどりづくり活動支援事業」実施
平成11年３月24日	ひろしま緑づくりインフォメーションセンター(GIC)設立
平成11年7月1日～現在	会報「ひろしまの緑」創刊号発行

活　動　の　特　色

公募事業「みどりづくり活動支援事業」

緑の募金事業の一つとして，平成10年度から緑化普及啓発活動や，森林整備活動を森林ボランティアグループや，地域の町内会，緑の少年団等が企画して実行することによって，緑の募金の使途の明確化をはかり，住民参加による緑づくりを推進する目的で，事業の公募を開始した。予算は600万円，1事業の助成上限額は50万円として，国土緑化推進機構で実施している緑の募金公募事業及び森林基金公募事業に準じた採択条件である。

初年度は27件を採択し，平成11年度は26件を採択している。地域ぐるみで，広場や公園を緑化しようとするもの，学校の裏山を森林体験の場所や自然観察，遊びの場としようとするもの，上下流の住民との交流会を行うものなど，バラエティに富んだ内容となっている。

この事業を通して，緑の募金の趣旨の理解がすすみ，緑化の推進が図れるものと期待している。

ネイチャーゲーム，同じ物探し

森林教室での枝打ち体験

森林ボランティアグループの連絡会議「ひろしま緑づくりインフォメーションセンター」

平成11年3月24日，県内の森林ボランティアグループの連絡協議会（略称GIC）が設立された。

現在，県内の15グループがメンバーとなり，各グループの活動の情報交換と団体間の連携協力をすすめ，多くの県民に気軽に森林にかかわる活動への参加を呼びかけている。当面，年に1回の交流会を行い，参加団体の親睦と相互理解を深めている。

また，県みどり推進機構の会報「ひろしまの緑」の編集を行い，緑の募金情報，ボランティア情報の発信に寄与している。

遊歩道の整備に汗を流した交流会

みどりの集いの開催

春の緑化強調週間の事業の一つとして，4月29日の「みどりの日」に県民緑化の集いを開催している。グリーンアドベンチャー，みどりのスケッチ大会，緑化相談，緑の講習会など，多くの県民の参加を得てみどりの大切さを学ぶ1日となっている。

緑の中で，家族連れでみどりの日を楽しむ

●山口県

現況				
名称	財団法人　やまぐち森と緑の公社		会計年度	4月1日～3月31日
所在地	〒753-0083　山口市後河原150－1			
電話	083-924-5716	緑化強調期間	春3月1日～4月31日	緑の募金期間 春3月1日～4月30日 秋9月1日～10月31日
FAX	083-924-5719			

役職員	
会長	－
理事長	秋本　博之
専務理事	河村　一人
事務局長	藤原　俊廣
常勤役職員数	計27人（うち役員3人）

主要事業

1．豊かな森づくり県民の集いの開催
2．山口県緑の基金事業（公共･公益施設へ緑化木の無償提供）
3．学校関係緑化コンクールの実施
4．国土緑化･育樹運動ポスター原画コンクールの実施
5．学校林等活動促進事業(緑の少年隊の育成を含む)
6．緑･体感ゼミナールの開催
7．地域緑化ボランティア団体支援事業
8．いきいき松林再生運動の実施
9．緑の黄河友好林造成事業

緑の少年団	77団　2,814人	県担当部局	農林部林政課緑化推進係

組織の沿革

昭和25年10月1日	山口県林業振興推進委員会発足
昭和33年1月1日	山口県緑化推進委員会と名称変更
平成元年6月1日	財団法人山口県緑化推進財団と名称変更
平成元年6月1日	財団設立認可(6月14日登記)
平成11年4月1日	財団法人やまぐち森と緑の公社と名称変更(統合)
平成11年4月1日	財団設立認可(4月1日登記)

歴代委員長・理事長

小澤　太郎（S25.10～28.9）
橋本　正之（28.10～32.12）
小澤　太郎（33.1～35.8）
橋本　正之（35.9～51.8）
平井　龍（51.8～H元.5）
村岡　満（元.6～8.9）
小河　啓祐（8.10～11.3）
秋本　博之（11.4～現在）

歴代事務局長

岡本　守（S25.10～26.8）
石井　勇（26.9～30.8）
斎藤　基夫（30.8～32.12）
佐竹　修（33.1～39.12）
久幸　虎雄（40.1～45.7）
松永　常一（45.8～49.3）
中村　恒易（49.4～52.3）
船本　功（52.4～54.3）
中村　源三（54.4～57.3）
藤本　裕夫（57.4～60.3）
粟屋　芳信（60.4～63.3）
高浜　哲（64.4～H元.5）
佐賀　昭悟（元.6～9.3）
池田　幸夫（9.4～10.3）
相川　敏朗（10.4～11.4）
藤原　俊廣（11. 4～現在）

主要活動事項

昭和26年	日米平和条約調印記念　講和記念植樹祭の開催
昭和29年	第8回全国山林復興大会の開催
昭和30年	第7回国土緑化大会の開催
昭和32年	夏山手入れ運動の開始
昭和37年	山口県植樹祭「緑の羽根記念造林」の開催
昭和41年	県木アカマツの選定
昭和45年	山口県緑化大会の開催
昭和46年	県政百年記念造林植樹祭の開催
昭和47年	第1回山口県植樹祭･県土緑化1・2本運動の展開
昭和51年	林業公社発足10周年を記念して山口県植樹祭の開催
昭和54年	第1回山口県緑の少年隊交歓大会の開催
昭和60年	国際森林年記念の森造成
昭和61年	山口県緑化基本計画「グリーンプラン山口」の策定
昭和61年	緑の相談所の開設
平成元年	山口県緑化推進財団の設立･みどりの日制定記念植樹
平成2年	「県土緑化40年のあゆみ」の発刊
平成2年	「みどりの日」記念事業 記念樹の贈呈
平成4年	巨樹･古木の実態調査
平成4年	山口県緑の基金･緑と水の森林基金の募金達成
平成8年	グリーンプラン山口(山口県緑化基本計画)改訂
平成9年	豊かな森林づくり県民のつどいの開催
平成10年	「緑の黄河友好林」造成事業の開始
平成11年	「緑化推進財団」改組･やまぐち森と緑の公社発足

活　動　の　特　色

戦争によって荒廃した国土に再び緑を回復させることを目的として，国土緑化推進委員会が設立されたのに呼応して，山口県においても昭和25年10月山口県林業振興委員会が結成され，緑化推進運動が始められた。

以来，この緑化推進運動は，山口県緑化推進委員会，財団法人山口県緑化推進財団，財団法人やまぐち森と緑の公社へと引き継がれ，2000年と云う記念すべき年に50周年の節目を迎えた。

この間，緑の羽根募金運動を積極的に展開し，県民総参加による植樹祭の開催等による県土緑化の推進と普及啓発に取り組んできた結果，18万ヘクタール余の人工林の造成や学校緑化の推進，緑の少年隊の育成，緑の基金による公共・公益施設への緑化木の無償提供のほか，学校緑化コンクール，国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール等各種事業を展開してきた。

以下，やまぐち森と緑の公社が取り組んでいる主要な事業についてご紹介することとしたい。

本県の県土緑化の推進に当たっては，「山口県緑化基本計画(グリーンプランやまぐち)」に基づき，“緑豊かで住みたくなるふるさとづくり”をめざし，次の４つを柱に事業を展開している。

第１点は，「県民参加のみどりのしくみづくり」である。

３月１日から４月30日までの春期の間と，９月１日から10月31日までの秋期の間に，県民参加の緑化推進行事を展開し，緑の教室や緑の募金運動等の普及啓発及び森林ボランティア等の活動助成を行っている。

第２点は，「みどりとのふれあい」である。

４月の緑の週間の間の１日に，「豊かな森林づくり県民のつどい」を開催し森林とのふれあい促進を行っている。

第３点は，「緑の暮らしづくり」の促進である。

生活緑化の促進を図るため，「山口県緑の基金」により，緑化木を公共・公益施設等に無償提供を行っている。

第４点は，「緑化の国際協力」である。

平成10年度から始めた事業で中国山東省黄河流域の緑化を進めるために，「緑の黄河友好林」を造成するものである。

この「緑の黄河友好林」造成事業は，山口県と山東省との合意に基づき，平成10年から14年度までの５カ年間に，黄河流域において，相互協力による地球環境保全のモデル林を500ヘクタール造成するもので，平成11年度は11月３日から５日間，山東省長清県黄河流域を訪れ，黒楊400本を植樹した。

以上述べてきた事業の他に，みどりの日記念事業として，平成２年４月29日以来，毎年この日に結婚された新婚さんに，「みどりの日」記念結婚記念樹として，キンモクセイ・ギンモクセイをセットで，下記のメッセージを添えて贈呈している。

祝　御　結　婚

御結婚おめでとうございます

「みどりの日」は　　自然に親しみ豊かな心をはぐくむために制定された祝日です。
この佳き日に　　山口県で結婚されるお二人が
末永くお幸せで　　快適な生活環境に恵まれます
ようお祈りし　　「みどりの日」結婚記念樹一対を
夫婦木として　　お贈りします。

「緑の黄河友好林」植林ボランティアの旅

学　校　緑　化

●徳島県

現況					
名称	社団法人　とくしま森とみどりの会		会計年度	4月1日～翌年3月31日	
所在地	〒770-0939　徳島市かちどき橋1丁目41番地　徳島県林業センター5階				
電話	088-652-5406	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間	春期3月1日～5月31日 秋期9月1日～10月31日
FAX	088-652-5406				

役職員	
会長	近藤　政雄 (徳島県議会議長)
理事長	坂本　松雄 (徳島県副知事)
常務理事	武知　功
事務局長	武知　功
職員	森林づくり 相談員　横山　利治 主事　東口　公宏 書記　安福　和美
常勤役職員数	計4名（うち役員1名）

主要事業

1．緑の募金運動
2．徳島県植樹祭の開催
3．みんなの森造成事業
4．徳島県緑化ポスター原画標語コンクール及び表彰
5．緑の少年隊育成事業
6．緑と水の森林基金事業
7．緑の健康相談事業
8．緑のキャラバン隊活動
9．県民参加の森林づくりボランティア活動事業

県担当部局　徳島県農林水産部林業振興課

組織の沿革

昭和25年から，徳島県治山治水協会が実施していた緑の羽根募金及び緑化運動を昭和27年に設立した徳島県緑化推進連盟が実施し，その業務を社団法人徳島県林業振興会が引き受ける。

昭和27年4月1日　徳島県緑化推進連盟　設立
昭和32年4月1日　徳島県緑化推進委員会に名称変更
平成8年1月16日　徳島県緑化推進委員会の業務を社団法人徳島県林業振興会が実施していた関係から，融合する形で，社団法人徳島県林業振興会の定款を変更し，社団法人とくしま森とみどりの会に名称を変更する。
平成8年1月25日　社団法人徳島県林業振興会定款変更認可
平成8年2月1日　社団法人とくしま森とみどりの会指定認可
平成8年5月8日　徳島県緑化推進委員会　解散

歴代委員長

川真田　邦夫（S27.4～28.5）	七条　広文（44.3～46.5）
森口　幸夫（28.5～30.5）	藤川　忠義（46.5～48.2）
岡本　正一郎（30.5～32.7）	佐藤　章一（48.2～49.7）
森本　鉄三（32.7～32.12）	来代　芳亀（49.7～50.5）
久次米健太郎（32.12～34.5）	鈴木　利市（50.5～52.3）
内藤茂右衛門（34.5～36.7）	島谷　敏男（52.3～54.3）
伊東　薫（36.7～38.5）	北島　一（54.3～56.3）
唐渡　昌二（38.5～40.3）	窪田　富（56.4～57.8）
原田　武夫（40.3～42.5）	福田　圭助（57.8～60.8）
阿部　豊（42.5～44.3）	近藤　通弘（60.8～H元.12）

歴代委員長

佐野　一郎（元.12～3.3）
田中　誠（3.4～5.7）
安丸　徳広（5.7～7.3）
石島　一郎（7.4～8.1）
杉本　直樹（8.2～8.5）
瀧澤　忠徳（8.6～10.3）
理事長職務代理
野田　浩一郎（10.4～10.5）
猪野　積（10.6～11.7）
理事長職務代理
高柳　充宏（11.7～12.3）
理事長職務代理
杉本　直樹（12.4～12.5）
坂本　松雄（12.6～現在）

歴代事務局長

吉本　義雄（S27.4～29.3）
酒井　市次（29.4～55.6）
和田　善行（55.7～56.5）
岩崎　孝一（56.6～59.5）
西村　宣昭（59.6～63.5）
中野　子（63.6～H2.5）
谷口　春一（2.6～5.5）
武知　功（5.6～現在）

主要活動事項

昭和25年～平成7年	緑の羽根募金運動（募金資材，緑の羽根・バッジ）
平成8年～現在	緑の募金運動（募金資材，緑の羽根・花の種子等）
昭和26年～現在	徳島県植樹祭，徳島県と共催で開催
平成元年	第40回全国植樹祭を神山町で開催
昭和53年～現在	みんなの森造成事業実施
昭和56年～現在	徳島県緑化ポスター原画・標語コンクール及び表彰
平成3年～現在	緑の少年隊交流集会開催（体験発表・活動報告及び交流活動）
平成10年	第9回緑の少年団全国大会を海南町で開催
平成6年～現在	緑と水の森林基金事業実施（山と木と緑のフェア・緑の少年隊育成活動等）
平成7年～現在	緑の健康相談事業実施
平成8年～現在	緑のキャラバン隊活動実施
平成9年～現在	県民参加の森林づくりボランティア活動事業実施

活　動　の　特　色

●社団法人とくしま森とみどりの会の取り組み

徳島県と林業関係団体などの構成員による徳島県緑化推進委員会業務の羽根募金運動及び各種の緑化事業並びに社団法人徳島県林業振興会業務の森林・林業の振興を継承していくことで平成７年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき，徳島県緑化推進委員会と社団法人徳島県林業振興会が融合する形で，平成８年に改組された社団法人とくしま森とみどりの会である。

目的としては，森林の整備及び緑化の推進並びにこれらに係る国際協力と林業の振興を図り，県土の保全，水源のかん養等，森林の持つ公益的機能を高度に発揮させることにより，県民の福祉向上及び国際貢献に寄与することを目的に次の活動等事業を実施している。

１．緑の募金運動

県民の自主的な協力のもとに，徳島県，市町村等と連携を密にし，募金活動を県民運動として展開しているが，特に，家庭募金としては，市町村に当会の支部を設置し推進している。

また，平成８年から緑のキャラバン隊を編成し，広く県民に緑化の重要性や緑の募金運動を知って頂くため，緑化強調期間に県内各地を訪問し，緑の募金運動の普及啓発に努めている。平成11年度の募金総実績は，28,018千円で，この内家庭募金は，10,786千円（全体の39％）と大きく進展した。

緑のキャラバン隊「緑化と緑の募金への協力要請」

２．徳島県植樹祭の開催

昭和25年に国土緑化運動が国民運動として展開されたことを契機として，昭和26年に第１回徳島県植樹祭が開催されており，毎年，緑化運動期間の初日の３月１日に開催していたが，平成元年５月に，第40回全国植樹祭が開催されたことを記念して，平成６年までは，５月に開催し，平成７年からは４月29日のみどりの日に開催している。

３．みんなの森造成事業

緑の羽根募金等により，昭和53年より，地域の史跡公園，身近な山などにおいて，住民の森に親しむ憩いの場として，サクラ，ケヤキなどの苗木を住民のボランティアによる植栽により，みんなの森として造成し，平成８年から，緑の募金事業として毎年６か所程度を実施している。

４．緑の少年隊交流集会の開催

平成２年に緑の少年隊徳島県連盟を結成し，毎年夏に，緑の少年隊が一堂に会し，緑あふれる豊かな自然の中で，緑の少年団全国大会参加者の体験発表や，緑の少年隊活動報告並びに木工工作などによる交流活動を行い，少年隊活動の一層の充実強化に努めている。

なお，本県では，緑の少年隊が最初に結成されてから20年目の節目にあたる平成10年には，第９回緑の少年団全国大会が開催された。

５．県民参加の森林づくりボランティア活動

平成９年より，緑の募金事業として，森林づくりボランティアを県民一般から募集し，植林・下刈り・間伐等森林作業を体験して頂き，森林・林業の重要性を一層深めてもらうとともに，緑の募金の趣旨の理解をして頂くことを目的に，毎年７か所程度で実施している。

緑の募金による「森林ボランティア活動」

６．緑の健康相談事業

平成７年度より，森づくり相談員(日本樹木医)を配置し，地域の貴重な巨樹，古木の保護をはじめ，一般庭園木の診断，治療，樹勢回復など樹木の保護・保全の相談事業を実施している。

相談件数は，毎年，約1,000件

●香川県

現況	名称	香川県緑化推進委員会	会計年度	6月1日～5月31日	
	所在地	〒760-8570　香川県高松市番町4－1－10			
	電話	087-831-1111　（内　2932）	緑化強調期間	3月1日～5月31日	緑の募金期間　3月1日～5月31日
	FAX	087-834-9605			
	役職員	委員長：真鍋　武紀（香川県知事）	主要事業	1．県植樹祭の開催 2．各種コンクールの実施 3．緑化用樹木の無償配布 4．緑の少年団活動	
		副委員長：横井　聰（環境局長）			
		幹事：脇　鐐一（環境局次長）			
		事務局長：宝田　守夫（環境・土地政策課長）			
		事務局次長：三村　起一（自然保護室長）			
		常勤役職員数：0人			
	緑の少年団	58団　4,355人	県担当部局	香川県生活環境部環境局 環境・土地政策課自然保護室 自然環境保全・緑化担当	

組織の沿革

昭和30年2月1日	香川県緑化推進委員会設立
昭和49年4月	事務局を林務課から環境公害対策室に移設
昭和50年4月	事務局を環境公害対策室から自然保護課に移設
昭和57年4月	組織改正により自然保護課が環境自然保護課となる
平成8年4月	組織改正により環境自然保護課が環境局環境・土地政策課となる

歴代委員長

伊田通次郎（S30.2～31.2）
大野　乾（32.7～39.11）
金子　正則（40.5～49.9）
前川　忠夫（49.9～61.9）
平井　城一（61.9～H10.9）
真鍋　武紀（10.9～現在）

（注）委員長は副知事が就任して発足したが，昭和40年5月19日に緑化推進委員会要綱を改正して，委員長を知事とした。

歴代事務局長

坂東　長士（S40.5～41.5）
武政　健亮（41.6～44.3）
小笠原歳雄（44.4～47.3）
磯野　英則（47.4～49.5）
星野　宏一（49.6～51.11）
筒井　秀夫（51.12～54.3）
加治　隆（54.4～56.3）
松浦　清士（56.4～57.3）
旭　安秀（57.4～58.3）
川田　健三（58.4～61.3）
秋山　康郎（61.4～63.3）
山下　賢一（63.4～H2.3）
大久保　厚（2.4～4.3）
桑名　芳昭（4.4～6.3）
菅納　俊彰（6.4～7.3）
谷本　義隆（7.4～8.3）
佐藤　克己（8.4～9.3）
酒井　郁（9.4～11.3）
宝田　守夫（11.4～現在）

主要活動事項

昭和30年	学校林・環境緑化コンクール 緑の羽根募金運動 香川県植樹祭
昭和31年7月	緑化ポスターコンクール実施
昭和32年3月	香川県緑化功労者表彰
昭和38年2月	緑の作文コンクール実施
昭和39年9月	植栽樹保護手入れコンクール実施
昭和41年7月	緑化書写コンクール実施
昭和47年3月	森林愛護団体への活動装備品配布 学校・社会福祉施設へ苗木無償配布
昭和50年8月	県下で初めての緑の少年団結成(塩江町)
昭和51年3月	緑化技術講習会開催
昭和53年1月	「香川の保存木」指定・標石設置開始
昭和61年7月	緑の少年団交流集会開催
昭和63年5月	第39回全国植樹祭開催
平成元年4月	緑の県民まつり開催 緑の少年団活動発表大会開催 わがかがわ緑化キャンペーン開始
平成2年3月	情報誌『緑のわが町　わがかがわ』発行
平成5年6月	わがかがわ緑化キャンペーンに「県花・県木及び市町木苗木配布事業」を追加

活　動　の　特　色

1．県民緑の週間事業の実施

昭和63年５月に，第39回全国植樹祭が開催されたことを契機とし，平成元年度から「緑の県民まつり」を実施している。これは，21世紀に向けて，美しい田園と緑豊かな香川の形成を目指し，県民に広く緑化思想の普及を図るため実施しているもので，今年で11回を数える。

2．森林保護運動の実施

(1)　香川県植樹祭の実施

緑化の推進を図るとともに，緑化に対する県民の理解を深めるため，昭和30年度から実施している。県内各地で開催され，開催地の市町木等の植樹や，各種コンクールの表彰等を行っている。

(2)　緑の少年団の育成強化事業の実施

本県で緑の少年団が最初に結成されたのは昭和50年８月のことであり，現在に至るまで58団が結成され，団員数は4,355人となっている。

そして，緑の少年団が一堂に会し，自然の中での共同生活と学習活動を通じて緑の大切さを学ぶとともに，相互の親睦を図るため，昭和61年度から「緑の少年団交流集会」を開催しており，今年度で14回を数える。

また，緑の少年団の育成強化，森林保護及び緑化思想の高揚を図るため，平成元年度から緑の少年団活動発表大会を開催しており，今年度で11回を数える。

3．広報活動推進事業の実施

(1)　学校林等活動･学校環境緑化コンクールの実施

青少年の緑化活動及び学校における緑化教育の一層の推進を図るため，昭和30年度から行われている。

そして，優秀な学校については全国応募を行い，高い評価を受けている。

(2)　緑化ポスター原画・書道コンクールの実施

緑化の重要性について，県下の児童・生徒の理解を深めるとともに，県民の緑化思想の高揚を図るために実施している事業である。緑化ポスター原画の部については昭和31年度から，書道の部については昭和41年度から実施している。

毎年，数多くの作品が応募されており，優秀な作品については全国応募を行い，数多くの賞に輝いている。

(3)　植栽樹保護手入れコンクールの実施

植栽樹保護手入れ技術の向上と山林所有者の保護手入れ意欲の高揚を図るため，民有造林地を対象に下刈り・枝打ちの技術について，昭和39年度から実施している。

(4)　情報誌「緑のわが町　わがかがわ」の発行

緑化思想の普及を図るため，情報誌「緑のわが町わがかがわ」を，平成元年度から発行している。平成10年度においては，3,000部発行し，県内の市町及び小学校・中学校・高等学校等に配布した。

4．わがかがわ緑化キャンペーン事業の実施

(1)　県民緑の週間記念植樹

県民緑の週間（４月23日～29日）を中心に，記念植樹事業を行った団体に助成する事業であり，平成元年度から実施している。

(2)　緑化推進行事への協力

各地で開催される緑化イベントに協力し，緑化思想普及のための資材（苗木等）を提供する事業であり，これも平成元年度から実施している。

(3)　県花･県木及び市町木の苗木配布事業への助成

県花・県木及び市町木に対する住民の意識を高めるために，市町が行う県花・県木及び市町木の苗木配布事業に助成する事業であり，これは平成５年度から始めた事業である。

5．各種出版物

・『さぬきの木』（昭和48年８月）
・『香川の保存木』（昭和56年３月）
・情報誌『緑のわが町　わがかがわ』（平成２年３月～現在）
・『香川の巨木』（平成７年11月）
・香川の自然ガイドブックシリーズ
『かがわの自然保護マップ』（平成元年3月）
『身近な自然ウォッチング』（平成10年３月）
『かがわの自然』（平成10年11月）『自然との共生を考える』（平成11年３月）

●愛媛県

現況	名称	財団法人　愛媛の森林基金	会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒790-0001　愛媛県松山市一番町4丁目4－2（愛媛県庁農林水産部内）			
	電話	089-941-2111　(内) 3361	緑化強調期間	春4月23日～5月31日	緑の募金期間　春4月1日～5月31日　秋9月1日～10月31日
	FAX	089-947-1041			
	役職員	理事長	石川　昭司（兼　愛媛県農林水産部長）	主要事業	森林・林業普及啓発活動 森林・林業の利活用の促進 森林造成整備の促進 森林・林業に関する調査研究 緑の募金事業 森林ボランティア活動の促進
		副理事長	越智　實一（愛媛県森林組合連合会会長）		
		参事	上田　勲（兼　愛媛県農林水産部森林整備課長）		
		常勤役職員数	計6人（うち役員2人）		
	緑の少年団	111団　7,515人		県担当部局	農林水産部森林整備課水源林整備係

組織の沿革

昭和61年5月8日	財団法人愛媛の森林基金設立許可
昭和61年5月10日	財団法人愛媛の森林基金設立
平成8年3月14日	緑の募金による森林整備等の推進に関する法律第5条に規定する法人に指定
平成8年4月1日	緑の募金による森林整備等の推進に関する法律第6条に規定する緑の募金業務の開始

歴代理事長

白石　春樹 (S61.5.10～62.5.27)
伊賀　貞雪 (62.5.28～H11.1.27)
武智　忠彦 (11.4.13～12.3.31)
石川　昭司 (12.4.1～現在)

歴代参事

頼本　豊 (S61.5.10～62.3.31)
清水　誠也 (62.4.1～63.3.31)
武智　勇 (63.4.1～H3.3.31)
久保田善信 (3.4.1～6.3.31)
岡田　得多 (6.4.1～7.3.31)
武村　義治 (7.4.1～9.3.31)
石川　爺弘 (9.4.1～11.3.31)
上田　勲 (11.4.1～現在)

主要活動事項

昭和61年度～現在	森林友の会の育成と現地研修(毎年度)
平成元年度～3年度	シンポジウムの開催
平成元年度～5年度	親子森林浴の集い
平成3年度～5年度	トーキングシアター1～3の開催
平成4年度～6年度	えひめの森林・林業写真コンクール(毎年度)
平成10年度～現在	えひめの森林・林業写真コンクール（毎年度）
平成8年度，10年度	講演会の開催（隔年開催）
平成8年度～現在	県植樹祭の開催（毎年度）
平成7年度～現在	森林づくりボランティア活動(毎年度)

活　動　の　特　色

財団法人愛媛の森林基金は，21世紀に向けて緑豊かな郷土をつくり，健康で快適な生活を営むため，山村地域と都市地域が，相互に理解と協力のもとに適正な森林づくりを進め，これを利・活用していくことが大切であるとの認識から，森林の重要性についての意識啓発等を推進するため，昭和61年５月に設立した。

このようなことから，都市住民に対し多くの啓発活動ができる方法として，設立時に，森林友の会を結成し，会員の募集に努めてきた。友の会会員は，平成11年３月末で約3,900人登録されており，毎年度，３回から４回，県内の特色のある森林地域で，森林教室や森林浴などの現地研修会を開催し，森林，緑化に関する理解の醸成を図っている。

次いで，森林の利・活用を推進するうえから，親子で木にふれあい，木に親しむ機会をつくるため，木とのふれあい教室を開催し，木材工作やネイチャーゲームなどで次代を担う青少年の森林に関する情操教育を推進している。

また，２年に１回の隔年開催ではあるが，森林や緑化に関心の深い著名人を招へいし，基調講演やトークを主体とする講演会を開催し，一般県民に対し，森林の大切さを啓発している。

一方，森林や樹木に関する図書を出版し，広く県民の方々に関心を持ってもらうため，市販しているが，これまでに出版した図書の中には，地元新聞社が主催する出版文化賞を受賞するなど，隠れた人気が出ているものもある。

ちなみに，出版した図書を紹介すると，「ふるさとの森」,「木を生かす」,「えひめの巨樹・名木」,「えひめの森林と木の生活誌」,「木の恵み」,「えひめの木の名の由来」などがある。

平成４年度からは，都市住民の方々に森林に入り込み，写真を通じて森林や自然を楽しむとともに，山村の生活についても親しみを持ってもらおうと森林・林業写真コンクールを実施している。厳冬の森林風景や新緑の樹木，炭焼きや木材搬出，きのこ栽培風景など多くのジャンルの応募があり，回を重ねるたびに撮影技術もプロ並みの作品もあり，審査するプロの写真家も絶賛する作品にも遭遇することがある。

平成７年度に緑の募金による森林整備等の推進に関する法律が施行されたことに伴い，これまで県内で実施してきた緑の羽根募金運動を強化・拡充するため，（財）愛媛の森林基金が業務を拡充して緑の募金運動に取り組むこととなった。

それまで，地域での活動が手薄であったため，県内市町村単位で，森林と緑の推進協議会を設置し，各市町村内の森林及び緑化の推進や緑の募金運動の地域での活動組織として，強化を図ってきたところである。

また，森林が持つ公益的機能に対する都市部からの期待が高まる中，森林浴やレクリエーションの場としての活用のみでなく，森林作業に対しても認識を持ってもらうため，県民参加の森林づくりを推進してきたところであるが，この一環で，森林ボランティア活動組織の育成に取り組んでいる。

平成８年度から，ボランティア活動者を募集し，木っと根っとワーク会員として登録しており，平成11年３月末で，約470人の会員となっている。（財）愛媛の森林基金では，これら会員を対象とし，緑の募金を活動財源として，年５回～６回のボランティア活動を実施しており，今後とも，会員の拡充や交流の促進，技術の向上を図ることとしている。

緑の募金を活用した事業では，緑の募金が県民からの温かい寄附金であるため，極力，地域へ還元することを目的に，市町村森林と緑の推進協議会が活用する交付事業を多く設けている。

交付事業は，森林整備関係では，みんなの森整備，水源の森整備，体験の森整備など，緑化関係では，コミュニティ広場整備，巨樹名木保全など，地域の特色を生かした森林整備等を実施している。

緑の募金運動については，法律が制定されて以来，期間が短く，まだまだ，県民各層に普及が行き渡っていない面も見受けられるため，今後においては，その趣旨の啓発と使途を明確にし，一層，県民の理解を得て拡充していくことが重要と考えられる。

●高知県

現況						
名称	社団法人　高知県森と緑の会			会計年度	1月1日～12月31日	
所在地	〒782-0078　高知県香美郡土佐山田町大平80番地　森林総合センター情報交流館内					
電話	0887-52-0072	緑化強調期間	春4月23日～29日	緑の募金期間	春3～5月末 秋9～10月末	
FAX	0887-52-4177					
役職員	会長	―	主要事業	1．会直営による県内の緑化推進・森林整備 2．森林ボランティア情報ネットワーク 3．木の文化県構想の推進 4．緑の募金活動の推進と，募金を原資にした公募事業の実施 5．総合学習に対応した森林・林業学習の普及啓発		
	理事長	元木　益樹 (県議会議長)				
	専務理事	安岡　健 (県森林局長)				
	事務局長	坂本　耕平				
	常勤役職員数	計3人（うち役員一人）				
緑の少年団	599団　16,834人		県担当部局	農林水産部森林局森林政策課木の文化県推進班		

組織の改革	
昭和28年	高知県緑化推進委員会設立
平成8年3月29日	社団法人設立認可（4月22日登記）
平成11年4月1日	事務局を高知市本町高知県森林組合連合会ビルから，香美郡土佐山田町大平森林総合センター情報交流館内に移転

歴代委員長	歴代事務局長
県緑推委員会時代 歴代県議会議長が1年毎に交代し，就任	同左 県林業課関係者が就任
社団法人設立以降	社団法人設立以降
中平　和夫（H8～9） 西森　潮三（9） 土森　正典（9～10） 西尾　一雄（10～11） 依光　隆夫（11～12） 元木　益樹（12.4～現在）	武市　瑞穂（H8～10） 村山　昌平（10～11） 坂本　耕平（11.4～現在）

主要活動事項	
昭和53年5月21日	第29回全国植樹祭の開催
平成4年11月1日～2日	第16回全国育樹祭の開催
毎年3月～5月	春の緑の募金活動
毎年4月第四週の土日	緑化週間行事（街頭募金活動）
毎年4月29日	県民みどりのつどい(平成7年～／平成元～6年みどりの日行事）共同開催
毎年9月～10月	秋の緑の募金活動
毎年10月	木と緑のフェア共同開催（街頭募金活動）
平成11年4月～現在	木の文化県構想普及啓発特別会計事業を高知県から受託し，情報交流館及び甫喜ケ峰森林公園の管理，木の文化セミナー，木の一日先生派遣事業等の普及啓発に関する事業を実施

活　動　の　特　色

高知県では，県土面積の約84％を占める森林を守り育てるとともに，次代に引き継いでいくための「木の文化県構想」（平成７年３月策定）を推進しています。私たち（社）高知県森と緑の会は，従来の緑化推進・森林整備や緑の募金活動に加えて，平成11年４月に場所を移転（高知県森林総合センター情報交流館内／香美郡土佐山田町大平）したことに伴い，高知県から「木の文化県構想普及啓発事業」の委託を受け，木と緑の情報発信基地である「情報交流館」を起点に大いなる事業の飛躍を目指しています。

平成12年６月現在「木の文化県構想普及啓発事業」のメニューは，多様化する県民のニーズに答えるべく，以下のような事業内容となっています。森林ボランティア間のネットワーク構築，人材養成のための森林ボランティア大学の開校，木造建築の良さの再発見と，木材需要拡大のための建築セミナーの開催，2002年から本格的にスタートする総合的な学習の時間に対応した森林学習の側面支援を図る木の一日先生派遣事業及び里山での体験学習を支援し環境整備を図る森林総合センター里山づくり事業などを今後数年をかけて，県内で幅広く実施していくこととしています。

例えば，学校へ出向いて森林学習を行う木の一日先生派遣事業は，県内全域の小中学校を対象に，100件以上の派遣実績（平成11年）があります。また，地域や学校へ出向いて，会所有のトンカチ号（乗用車）でインストラクターが，西は足摺岬から東は室戸岬まで木工教室や森林教室の出前を行っています。

また，高知県は「牧野富太郎記念館」（内藤廣設計），「高知県立中芸高等学校格技場」（日本建築学会賞受賞），「株式会社相愛社屋」（優良木造施設表彰）など杉の土佐材を利用した全国に誇る木造建築が数多くあります。伝統的な風土に根ざした高知の木造住宅のコンセプトを生かした，「土佐派の家」を広く全国に知ってもらい，あわせて高知の木材需要の拡大を図るため，毎年「建築セミナー～木造の伝統と前衛～」も開催しています。

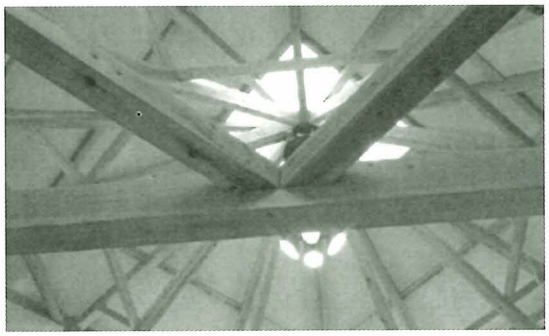
こうした「木の文化」は，土佐の伝統と風土に根ざした高知県民全体のアイデンティティーを体現するのにふさわしい言葉といえるでしょう。

高知県森と緑の会は，伝統のみの旧来に回帰するのではなく，環境と自然の調和を図りながら，21世紀の新たな時代を見据えた緑化推進活動に積極的に取り組んでいきます。

森林総合センター里山林での野外体験
（ハンモックで遊ぶ香美郡物部村立大栃小学校の児童）

木の一日先生派遣　樹木の鼓動を聞く
（高知市旭東小での樹木観察）

土佐の伝統を生かした情報交流館（上下共）



●福岡県

現況						
名称	財団法人　福岡県緑化推進機構			会計年度	10月1日～9月30日	
所在地	〒810-0001　福岡市中央区天神三丁目10－25　森連ビル805号					
電話	092-733-8877	緑化強化週間	3月1日～4月30日	緑の募金期間	春3月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日	
FAX	092-733-8872					
役職員	会長	藤田　茂令 （兼職名　福岡県議会議長）	主要事業	1．県植樹祭 2．森林づくりボランティア活動 3．緑の少年団活動 4．地域の緑づくり事業 5．地域緑化事業 6．GGG緑化促進協力金による事業 7．普及啓発外		
	理事長	宮島　寛				
	常務理事	三浦東洋明				
	事務局長	久芳　寛己				
	常勤役職員数	計　2人（うち役員1人）				
緑の少年団	45団　4,985人		県担当部局	水産林務部緑化推進課樹芸係		

組織の沿革

昭和25年3月20日	「国土緑化福岡県推進委員会」設立
昭和44年10月1日	「福岡県緑化推進委員会」に名称変更
平成2年10月1日	「財団法人福岡県緑化推進機構」に変更

歴代会長

稲員　稔（S25.3～26.4）
田中　保蔵（26.5～30.4）
小林　喜利（30.5～33.6）
松熊又五郎（33.6～35.6）
野見山清造（35.6～38.4）
永露　政男（38.5～42.4）
森田　欽二（42.5～44.12）
三苫　鉄英（44.12～46.4）
横田初次郎（46.5～49.4）
井上吉左衛門（49.4～50.4）
花村　樹昌（50.5～50.12）
後藤　保（50.12～52.12）
早麻　清蔵（52.12～54.4）
浜中　茂足（54.5～55.7）
吉村　範真（55.7～56.7）
山本　義隆（56.7.20～58.2）
樋口　正道（58.5～59.5）
岡本　忠男（59.5～60.5）
田中　久也（60.5～61.5）
篠田栄太郎（61.5～62.5）
中村　忠和（62.5～63.5）
高山　久生（63.5～H元.5）
三木　清（元.5～3.5）
井上　雅美（3.5～4.5）
井手　宗夫（4.5～5.5）
吉村　元秀（5.5～6.5）
新宮松比古（6.5～7.5）
横田　進太（7.5～8.5）
水戸　栄樹（8.5～9.5）
小山　達生（9.5～10.5）
板橋　元昭（10.5～11.5）
吉原　太郎（11.5～12.5）
藤田　茂令（12.5～現在）

歴代事務局長

三島　利美（S25.3.20～26.3.31）
箱田　大助（26.4.1～39.3.31）
松熊　俊人（39.4.1～45.3.31）
中村多喜男（45.4.1～46.3.31）
牧野　昴（46.4.1～51.3.31）
鵙　卓（51.4.10～54.3.31）
松重清代巳（54.4.1～57.3.31）
辛川　信紀（57.4.1～60.3.31）
長　忠喜（60.4.1～63.3.31）
森　和彦（63.4.1～H2.3.31）
久保　勲（2.4.1～5.3.31）
阿部　良明（5.4.1～8.3.31）
秋田　望（8.4.1～11.3.31）
久芳　寛己（11.4.1～現在）

主要な活動事項

昭和25年4月7日	第1回福岡県植樹祭を筑紫郡岩戸村で開催。以後県内各地で毎年植樹祭を開催。
昭和54年11月5日	福岡県四王寺県民の森において第3回全国育樹祭を開催。
平成4年3月20日	田川郡香春町，八女郡星野村において台風被害地で第1回森林づくりボランティア活動を実施。以後県内各地で森林づくりボランティア活動を実施。
平成4年2月4日	福岡県緑の少年団連盟を結成。
平成4年5月10日	朝倉郡夜須町において第43回全国植樹祭を開催。
平成8年3月1日	春・秋に緑の募金キャンペーンを県内全域において実施。
平成9年7月29日～30日	久留米市、八女郡黒木町において第8回全国緑の少年団大会を開催。

活動の特色

本県では，平成7年の「緑の募金による森林の整備等の推進に関する法律」の制定にともない，「緑と水の豊かな郷土づくりのため1家庭，1日1円，365円の愛を贈ろう。」をキャチフレーズとして，3月1日から4月30日を募金強化月間として募金を推進することとしました。具体的には，緑の羽根募金は職場募金，学校募金が中心でしたが，緑の募金は，家庭募金を中心に推進していくこととし，募金及び募金による緑化の中心的母体として，各市町村に「緑づくり推進協議会」の設立と家庭募金をお願いしました。その結果，平成10年9月末現在で，「協議会」の設置状況は，58市町村（全市町村の60％），家庭募金は，56市町村（同58％）となっています。これにともない募金額も緑の羽根募金の最後の年の平成6年度は，36百万円でしたが，緑の募金となってからは，平成7年度は63百万円，平成10年年度は95百万円と確実に伸びています。これはひとえに，行政の指導とともに，県民の方々のご理解のたまものと考え厚くお礼を申し上げます。

次に，当機構が行っている主要な事業について述べます。

1．緑の募金キャンペーン

3月1日から4月30日を募金強化月間として募金運動を推進しておりますが，特に，3月1日に「緑の募金キャンペーン」としてJR博多駅，JR小倉駅で知事を始め，会長（福岡県議会議長），市代表等多数の参加を得て，九州旅客鉄道株式会社，株式会社日本エアシステム，九州朝日放送株式会社等の協力を受けて実施しております。この他，県下各地で地区緑化推進委員会が市町村との共催で緑の募金キャンペーンを行っています。

2．県植樹祭

当機構の前身である「国土緑化福岡県推進委員会」が昭和26年に設立されましたが，同年戦後の荒廃した県土に豊かな緑を取り戻す運動の中心行事として第1回県植樹祭を開催して以来，平成11年で51回を数えることとなりました。毎年市町村と共催で開催しているが，近年では開催市町村の特徴をだした植樹祭になるように努めています。

3．緑の少年団活動

平成4年に発足した「福岡県緑の少年団連盟」（37団体，2,674団員）は，現在45団体，4,985団員と発足当時に比べ団体及び団員数とも大幅に増加しています。

緑の少年団活動を通じて時代を担う少年少女が健康で，心豊かな社会人に育って行くことを願い，当機構の最重点事業として考えており，毎年緑の少年団交流集会の開催を始め，各少年団が行うボランティア活動等に助成を行っています。

4．森林づくりボランティア活動

このボランティア活動は，平成3年度の台風で大きな森林被害を受けたことを契機に，ボランティアによる森林災害復旧が実施されたのを始まりとして，その後広く県民の皆様や，協力団体のご協力を得て毎年県内3ケ所で関係市町村と共催で実施してきました。

年毎に参加者も増えこれまでの実績（平成10年度末）は，植栽面積，19ha，枝落し面積，9ha，参加延人員，5,349人となっています。

5．地域の緑づくり事業

県民の皆様からいただいた貴重な募金は，「市町村緑づくり推進協議会」等が行う学校，公民館，公園等の緑化や各種団体が行う緑化活動に対して助成を行っている。

6．地域緑化事業

「市町村緑づくり推進協議会」が集めた募金の一部は，「市町村緑づくり推進協議会」独自の地域の公民館，公園，ボランチィア活動等の緑化運動に使われています。

7．普及啓発

緑の募金がどのように使われているかを県民の皆様にご理解いただくことが，緑の募金やボランティア活動等の推進にもっともたいせつなことと考え，毎年「ふくおか緑の募金だより」の発刊，家庭配布のための緑の募金パンフレットの作成，その他各種イベント等機会があるごとに緑の募金の普及啓発に努めています

おわりに

福岡県は，昭和53年に北部九州が記録的な大渇水に見舞われ，287日にも及ぶ給水制限を余儀なくされました。さらに近年の小雨傾向や人口集中による水需要の増加など水事情は，厳しいものとなっています。

また，平成3年には台風による未曾有の森林被害を受けました。さらに昨今の森林，山村を取り巻く環境が非常に厳しく，水の源となる森林を自らが守り育てることの大切さの気運が県民の方々に徐々に高まってきています。

これからも本機構といたしましても緑の募金運動を中心に緑と水の豊かな郷土を21世紀に引き継ぐため，決意を新たに力強い緑化運動を推進していきたいと考えています。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜るようにお願いいたします。

●佐賀県

現況					
名　称	財団法人　さが緑の基金		会計年度	4月1日～3月31日	
所在地	〒840-8570　佐賀市城内1丁目1－59　佐賀県庁森林整備課内				
電　話	0952-25-7136	緑化強調期間	春4月21日～4月29日 秋9月1日～9月7日	緑の募金期間	春4月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
FAX	0952-25-7312				

役職員		主要事業
理事長	井本　勇 (兼職名　佐賀県知事)	1．森林の整備，緑化の推進及びこれらに係る国際協力 2．緑の普及啓発及び調査・研究 3．森林整備等に関する情報又は資料の収集及び提供 4．「緑の募金」の推進及び管理運営 5．さが緑の基金「基本財産」の造成及び管理運営
副理事長	宮原　岩政	
副理事長	長沼冨士男	
常務理事	島　毅 (兼職名　農林部長)	
事務局長	岡　憲志	
常勤役職員数計	1人（うち役員　－　人）	

緑の少年団	63団　2,528人	県担当部局	農林部森林整備課

組織の沿革

昭和27年2月21日　佐賀県緑化推進委員会設立総会
佐賀市城内歩二丁目14-7（山林会館内）
昭和63年11月4日「財団法人さが緑の基金」設立認可
（佐賀県森林整備課内に置く）
昭和63年11月10日「財団法人さが緑の基金」登記
（平成元年7月1日　基本財産造成のための民間募金活動を開始）
平成2年10月1日　佐賀県緑化推進委員会を財団法人さが緑の基金に統合（緑の羽根募金を基金で実施）
佐賀市城内一丁目1番59号（佐賀県森林整備課内に置く）
平成7年9月26日　「緑の募金」を行なう法人として指定される

歴代委員長

〔佐賀県緑化推進委員会〕
田中　虎登（S27.2～28.4）
安永　沢太（28.4～30.5）
山下　徳夫（30.5～38.5）
小原嘉登次（38.5～H元.5）
岸本　敏（元.5～2.9）

〔さが緑の基金〕
理事長
香月　熊雄（S63.11.4～H3.4.23）
理事長
井本　勇（3.4.24～現在）

歴代事務局長

武富　義明（S27.2～33.9）
樋口　隆（33.10～35.9）
江上　三郎（35.10～38.9）
竹田　寛爾（38.10～45.9）
原　昌司（45.10～46.1）
山口　市治（46.1～53.4）
西岡　琴（53.5～59.4）
北村　伸介（59.5～H元.10）
大島　富雄（元.11～2.9）

橋本　恭行（S63.11～H3.3.3）
坂本　和応（3.4.1～6.3.31）
實松　敬行（6.4.1～8.3.31）
神代　良忠（8.4.1～9.3.31）
岩永　正美（9.4.1～12.3.31）
岡　憲志（12.4.1～現在）

主要活動事項

◎　緑の普及啓発事業　昭和24年以降
毎年県植樹祭開催
（平成12年4月29日　第52回 県植樹祭を開催）
昭和27年2月　県緑化推進委員会設立
緑の羽根募金運動が始まる。
同時に緑の羽根募金運動を通じて，国土緑化思想の啓蒙普及と緑の羽根募金による緑化活動を継続
昭和53年度　緑の少年団4団体が初めて結団。
昭和62年5月　第38回全国植樹祭を嬉野町みゆき公園で開催
昭和63年11月　さが緑の基金設立に伴い，公益性の高い森林及び都市農山漁村の豊かな生活環境の整備活動が始まる。
◎　基金事業　昭和63年度以降
本基金は，緑豊かで住みよい県土づくりを推進するため下記の事業を実施。
○ 県植樹祭の開催
○ 緑のネットワーク整備事業
○ みんなの森造成
○ 苗木配布
○ みどりの里づくり地域活動支援事業
平成2年10月　県緑化推進委員会をさが緑の基金に統合し，委員会の活動を全面継承する。
平成8年4月　緑の募金法に基づく緑の募金活動の開始と，緑の募金による事業を開始。
◎　緑の募金　平成8年度以降

主要活動事項（つづき）	活動の特色
県民総参加による緑の募金運動を展開し，その募金収入により下記事業を行い，山の緑，海の緑，街の緑の調和し美しい緑の郷土（くに）づくりに寄与する。 ○　森林の整備 ・森林づくり支援事業 ・普及啓発 ○　緑化の推進 ・緑の少年団育成事業 少年団活動交付金 地区交流大会 制服等整備 少年団指導者研修 ・緑化・美化ボランティア団体育成事業 ・環境緑化事業 ・普及啓発事業 ○　国際協力（姉妹都市等交流） ○　国土緑化推進機構交付金 ○　募金活動推進事業	○　学校緑化事業 昭和27年委員会発足以来緑化指定校を選定し，学校緑化を実施した。 ○　市民緑化事業 昭和48年以降，県下７市を輪番に実施する，国土緑化推進委員会の委託事業は，合併し施行した。 ○　町村緑化事業 昭和52年度以降，県下６市町村を指定し，実施した。 ○　平成２年10月１日 県緑化推進委員会及びさが緑の基金の統合に伴ない「美しい緑の郷土づくり県民運動」地区推進協議会並びに市町村推進協議会を設置し，運営体制の充実・強化を図る。

県植樹祭の開催

花さか一年生事業

みどりの里づくり地域活動支援事業

緑の少年団活動

●長崎県

現況						
名称	社団法人　長崎県緑化推進協会			会計年度	7月1日～6月30日	
所在地	〒850-8570　長崎市江戸町２－13　県農林部林務課内					
電話	095-823-3529	緑化強調期間	4月23日～4月29日	緑の募金活動期間	春2月1日～4月30日 秋9月1日～10月30日	
FAX	095-821-1255					
役職員	会長	林　義博 (県議会議長)	主要事業	1．親と子新緑のつどい開催事業 2．記念の森づくり記念植樹フェスタ開催 3．ふるさとの森活用促進事業 4．「森とのふれあい基金」設立と管理		
	理事長	白濱　重晴 (県農林部長)				
	常任理事	早稲田　正 (県農林部林務課長)				
	事務局長	畑中　正広				
	常勤役職員数	計４人（うち役員２）				
緑の少年団	35団　890人		県担当部局	農林部林務課		

組織の沿革

昭和25年３月	長崎県緑化推進委員会設立(林務課)
昭和48年10月	緑化推進委員会機構改正(林務課→緑化推進課)
昭和58年４月	緑化推進委員会機構改正(緑化推進課→環境対策課)
昭和62年４月	緑化推進委員会機構改正(環境対策課→自然保護課)
昭和63年４月	緑化推進委員会機構改正(自然保護課→林務課)
平成７年８月	社団法人長崎県緑化推進協会設立総会
平成７年10月	社団法人長崎県緑化推進協会設立許可

歴代委員長

岡本　直行	(S 25.3～30.4)
金子　岩三	(30. 5～33.2)
水頭　欽一	(33.3～34.4)
森田　三重	(34.5～35.10)
久保　勘一	(35.10～36.10)
田浦　直蔵	(36.10～38.4)
初村滝一郎	(38.5～39.12)
小柳　二雄	(39.12～42.4)
中村　禎二	(42.5～44.2)
池田　辰巳	(44.2～44.7)
八井　村太	(44.7～46.4)
林田作之進	(46.5～48.3)
桑原　信一	(48.3～50.4)
松田　九郎	(50.5～54.4)
加藤　清則	(54.5～56.6)
初村　誠一	(56.6～58.4)
虎島　和夫	(58.5～60.7)
古藤　恒彦	(60.7～62.4)
初村　誠一	(62.5～H 3.4)
宮内　雪夫	(3.5～6.9)
吉住　重行	(6.9～9.7)
村山　一正	(9.7～11.5)
林　義博	(11.5～現在)

歴代事務局長

	(以前不在)
池上　清	(S 41.4～49.6)
原村昭夫(兼)	(49.7～50.3)
杉山龍雄(〃)	(50.4～52.3)
竹内孝美(〃)	(52.4～54.3)
松代昭三郎(〃)	(54.4～55.3)
浜野茂美(〃)	(55.4～57.3)
深堀譲治(〃)	(57.4～58.3)
山口千年(〃)	(58.4～60.3)
鈴木輝彦(〃)	(60.4～63.3)
吉留　繁(〃)	(63.4～H元.3)
富永　徳(〃)	(元.4～4.3)
前田重人(〃)	(4.4～6.3)
松尾俊彦(〃)	(6.4～7.9)
吉嶺芳徳(〃)	(7.10～8.3)
井上　充(〃)	(8.4～9.3)
奥田正明(〃)	(9.4～11.3)
畑中正広(専任)	(11.4～現在)

主要活動事項

(10年度)

9月12日	緑化運動ポスター審査（1,682点）
10月29日	花壇コンクール実施
11月6～8日	グリーンボランティア技能指導者養成講習会（25組）
1月28日～29日	緑の少年団指導者交流研修会(12名)
2月28日	記念の森づくり記念植樹（50組）
4月29日	親と子新緑のつどい(本土地区1, 離島地区3）1,315名
6月1日～30日	環境月間中緑の少年団による花苗植栽事業（18,000本）
6月30日	ふるさとの森活用促進事業(案内板, 道標, 樹名板の設置)
6月30日	ゴルファーの緑化促進協力会委託緑化事業

活　動　の　特　色

はじめに

長崎県の地理的な特色は，五島，壱岐，対馬という大きな離島をかかえ，そのほかにも多くの島々をもつ市町村を有する大変特異な形態の県である。

このような条件の中で，長崎県緑化推進協会としても，いろいろな活動に取り組んでいるところですが，その中で代表的な次の三事業の実施状況を紹介します。

(一) 親と子新緑のつどい

従来，みどりの日を中心に開催していた全県的植樹祭としての性格のつよい「ながさき森のつどい」を平成6年度から「親と子新緑のつどい」という名称に変更して植樹祭色を少し薄めて，広く一般県民に緑に接する機会を与え，森で遊び，森を知るレクレーション色をにじませた行事に衣替えを行った。

そして，この行事の目的を県内すみずみまで浸透させるために県の地方機関単位に分散して数カ所で実施することとし，マンネリ化を防止する上からも4年毎に本土地区を一本化した全県的行事として実施している。

当日は，屋外で遊びを兼ねた各種の森の体験を通じて多くの親子づれが楽しい汗を流している。今後とも継続していく方針である。

(二) 記念の森造成事業

県民に広く呼びかけ，人々の人生の中での節目となる結婚，誕生，入学，卒業等々の記念を迎えた方々を募集して，「県民の森」の一部を提供していただき，記念植樹を行ってきた。

平成7～11年度の5カ年で260組，260本のさくらの園が造成された。

この植樹を通じて参加者の方々を極力森林に親しませ，緑の重要性に対する認識を深めていくためにも，今後，管理のためしばしば植樹地に足を運ぶよう呼びかけている。

今後は現在進めている前述の「親と子新緑のつどい」等を通じ全県的に地方色豊かで，きめ細かい植樹要望個所に対しても，緑の募金で対応していく予定である。

(三) ふるさとの森活用促進事業

多くの県民を森に誘い，森の魅力を体験させる。

その行動を助長するため，登山道の道標や，案内板を設置している。

案内板等が「水と緑の森林基金」からの支援により設置されていることを登山者に周知させ，今後の緑の募金への理解を深めていくことを期待している。

親と子新緑のつどい

ふるさとの森活用促進事業

記念の森造成事業

●熊本県

現況	名称	社団法人　熊本県緑化推進委員会	会計年度	2月1日～1月31日	
	所在地	〒862-0950　熊本市水前寺6丁目5番19号　熊本県住宅供給公社ビル2F			
	電話	096-387-6195	緑化強調期間	春4月23日～4月29日	緑の募金期間　春3月1日～5月31日　秋9月1日～10月31日
	FAX	096-387-6218			

役職員	理事長	島津　勇典（熊本県議会議長）
	副理事長	冨永　清次（菊陽町長）
	副理事長	西山　敬直（林務水産部長）
	常務理事	橋本　常雄（兼事務局長）
	常勤役職員数	計2人（うち役員1人）
緑の少年団		89団　2,986人

主要事業	1．緑化の普及啓発及び公共施設等の緑化事業 2．みどりのボランティアによる県民参加の森林づくり事業 3．緑の少年団育成対策事業
県担当部局	林務水産部森林整備課みどり推進室

組織の改革	昭和25年12月1日	国土緑化熊本県推進委員会設立
	平成2年10月24日	熊本県緑化推進委員会と名称変更
	平成8年7月1日	社団法人設立許可（7月4日登記）
	平成12年2月10日	特定公益増進法人に認定

歴代委員長

大久保勢輔（S25.12～28.8）
瀬口竜之助（28.9～32.5）
二神　勇雄（32.6～34.5）
岩尾　豊（34.6～36.6）
平川　千吉（36.7～38.4）
園田　清充（38.5～40.6）
櫛山　弘（40.7～42.1）
戸上第一郎（42.2～42.4）
田代由紀男（42.5～44.5）
倉重　末喜（44.6～46.4）
沼田　一（46.5～48.2）
田中　典次（48.3～49.2）
松岡　義昌（49.3～50.4）
小谷久爾夫（50.5～51.2）
浦田　勝（51.3～52.2）
増田　英夫（52.3～53.2）
今村　来（53.3～54.4）
岩崎　六郎（54.5～55.2）
浦田宇次郎（55.3～55.6）
池田　定行（55.7～56.6）
幸山　繁信（56.7～57.5）
八木　繁尚（57.6～58.4）
小材　学（58.5～60.2）
久保　一明（60.3～61.2）
水田　伸三（61.3～62.4）
永田　悦雄（62.5～63.2）
米原　賢士（63.3～H元.2）
金子　康男（元.3～2.2）
北里達之助（2.3～3.4）
平川　和人（3.5～4.2）
古閑　三博（4.3～5.2）
高田昭二郎（5.3～6.2）
馬場　三則（6.3～7.4）
山本　秀久（7.5～8.4）
杉森　猛夫（8.5～9.4）
山本　靖（9.5～10.4）
八浪　知行（10.5～11.4）
島津　勇典（11.5～現在）

歴代事務局長

土屋　終造（S25.12～32.10）
家入　一雄（32.11～43.5）
花田　文雄（43.6～51.6）
梶川　憲久（51.7～53.6）
家入　幸雄（53.7～54.6）
田浦　正人（54.7～55.7）
竹本　鉄男（55.7～57.9）
板梨日出男（57.10～63.6）
高野　紀之（63.7～H7.6）
橋本　常雄（7.7～現在）

主要活動事項

1．緑の募金
　昭和26年以降，毎年『緑の羽根募金』を行い，緑化思想の普及啓発を図るとともに募金による緑化活動を実施，平成7年から法律に基づく『緑の募金』活動を実施

募金実績の推移		
	昭和26年	1,184千円
〃	昭和40年	5,700千円
〃	昭和60年	30,534千円
〃	平成11年	72,806千円

2．植樹祭の開催（主なもの）
昭和29年　水害記念植樹祭（阿蘇山草千里）
昭和33年　行幸啓記念植樹祭（長陽村乙ガ瀬）
昭和52年　県林業技術センター完成記念植樹祭
昭和56年　県鳥獣保護センター完成記念植樹祭
昭和60年　全国植樹祭（阿蘇町みんなの森）
平成3年　熊本県植樹祭『くまもと森林のつどい』に改め内容充実
平成3年　第1回くまもと森林のつどい（大矢野町）
平成11年　第10回くまもと森林のつどい（菊池市）

3．緑の少年団の育成
　昭和51年　初めて緑の少年団が結成される（鹿央町米野岳緑の少年団・山江村緑の少年団・御船町水越緑の少年団・産山村山鹿緑の少年団・産山村産北緑の少年団）以降，毎年結成され，平成12年1月1日現在，89団体2,986名
・緑の少年団活動費の助成
・全県緑の少年団交流集会の開催
・都市山村少年交流集会の開催

4．九州地区緑化推進大会の開催
昭和51年　第27回大会…熊本市
昭和59年　第35回大会…熊本市
平成4年　第43回大会…熊本市
平成12年　第51回大会…熊本市（予定）

5．花木友の森造成事業
昭和56年7団体で実施
以降，毎年10ヶ所程度で実施
平成11年度実績
施行面積　108,903㎡（12ヶ所）
植栽本数　3,063本
事業費　3,600,000円

6．県民参加の森林づくり事業

7．緑化木の無償配布
毎年『みどりの週間』（4月23日～29日）に実施

8．緑化関係コンクールの実施

活　動　の　特　色

（活動目標）

県民一人一人に緑（森林）の持つ機能や重要性について理解を深めるとともに，健康で住み良い緑豊かな生活環境を保護・創出して次世代に引き継ぐための緑化を推進する。

1．緑化イベント

①『グリーン・グリーン・コンサート』

みどりの日（4月29日），雄大な阿蘇五岳を望む「グリーンピア南阿蘇アスペクタ」で，森林の大切さや働きを広く県民にアピールするため10,000人規模のコンサートを熊本放送，熊本日日新聞社との共催で開催。

②『一枚の葉っぱから』親子記念植樹

親子の心の触れ合いや自然との触れ合いの大切さを感じてもらうため，九州森林管理局・熊本放送・熊本日日新聞社との共催で，親子記念植樹や森林インストラクターによる森林教室を実施。

③『くまもと森林のつどい』

森林と水との関わり等を重点に普及啓発し，今後さらなる緑化運動の機運を充実させる「くまもと森林のつどい（熊本県植樹祭）」を開催し，緑・特に森林に対する県民の新たな関心と一層の理解を深める。

2．緑化の支援

①植樹祭の開催と緑化木の配布

各地域で植樹祭を開催するとともに，公園，学校等の緑化に必要な緑化木を配布し，緑化思想の普及啓発と環境緑化を支援する。

②花木友の森造成

地域住民等で組織する団体（緑の少年団，ボーイスカウト，老人会等）が，環境緑化・美化のため自ら植樹及び管理する花木を中心とした森を造成する場合に，緑化木及び資材等を交付する。

③記念植樹苗木の配布

緑を啓発する各種行事等の記念すべき出来事を記念植樹に託そうとする団体に，緑化木を無償で配布する。

④ゴルファーの緑化促進協力

ゴルフ場の緑化協力金により，学校，公園，福祉施設等，公共施設の緑化を促進する。

3．少年緑化活動推進

①都市，山村少年交流会

子供たちがもっと自然の中で遊び，学ぶ機会をもち，より一層自然の大切さを知り，自然への理解を深めるため，「緑の少年団」を中心とした都市と山村の少年たちによる交流会を開催する。

②全県緑の少年団交流集会

緑の少年団相互の交流会を通じて，森林学習や野外活動等を行い，活動内容のレベルアップを図るとともに，緑の少年団の緑化活動を組織的，かつ広域的に一層拡大し，より充実した活動を促進。

③青少年緑化活動促進

緑の少年団の活動を促進するため，各地域で少年団を対象とした森林教室を開催するとともに，団活動費の一部を助成する。また，新たな結団を督励・指導し，結成された緑の少年団に，団旗，帽子・スカーフ等の装備を支給する。

4．シンボル森林

①シンボル森林の活用促進

県下で選出された，大事にしておきたい森林やうっそうとしていて森林浴に敵している森林に県民が直接親しめるように，森林の持つ保健休養機能と景観保持機能を重視した健康増進や都市住民と山村住民との交流等，緑豊かな環境活動基盤の利用促進を図るための総合案内板を設置。

5．県民参加の森林づくり

①市民が支える豊かな森林づくり

県民が自ら森林整備に参加する「みどりのボランティア」の登録・配置を行い，先導的な役割を担う指導者を養成する。

②みどりのボランティアの登録・養成

県民参加の森林づくりを推進するため，情報の収集，みどりのボランティアの募集・登録及び養成。

③みどりのボランティア等による植樹，下刈り，枝打ち，除伐等を行う「県民参加の森林づくり」事業を支援。

6．森林インストラクター

①森林インストラクターの養成・活用

森林・林業に対する理解を深め，森林レクリエーション活動の指導を行う森林インストラクターの資質の向上を図るため，自主研修や指導に要する活動費に対して助成するとともに，県及び市町村の森林イベントでの活用を促進。

●大分県

現況	名称	社団法人　大分県緑化推進機構		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒870-0844　大分市大字古国府字内山1337番地の20				
	電話	097-545-3363	緑化強化期間	3月1日～4月31日	緑の募金期間	春3月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	097-545-3393				
	役職員	名誉会長	日野　立明 (兼職名　県議会議長)	主要事業	・植樹行事に関する事業 ・緑化思想の普及・啓発 ・緑の募金の推進及び寄付金の管理 ・森林基金及び緑の募金に関する事業 ・青少年緑化活動の推進 ・森林整備等に情報又は資料の収集及び提供	
		理事長	小松紘一郎 (兼職名　県林業水産部長)			
		副理事長	田中　恒治 (兼職名　県教育委員長)			
		〃	壁村　史郎 (兼職名　森林組合連合会長)			
		常務(兼)事務局長	斉田　末弘			
	緑の少年団	70団体　2,254人		県担当部局	林業水産部	

組織の沿革

昭和26年2月17日	大分県緑化推進委員会設立
平成4年1月28日	大分県緑化推進委員会解散
平成4年1月24日	「社団法人大分県緑化推進機構」設立総会
平成4年2月25日	「社団法人大分県緑化推進機構」の設立許可
平成4年3月9日	「社団法人大分県緑化推進機構」の公益法人設立登記

歴代理事長

機構設立以降
飯田志農夫 (H4.2.28～5.7.11)
堤　新二郎 (5.7.12～7.5.17)
帯刀　将人 (7.5.18～12.6.30)
小松紘一郎 (12.7.1～現在)

歴代事務局長

機構設立以降
田尾　敏昭 (H4.2.28～7.6.28)
千原　賢次 (7.7.1～8.6.28)
佐藤　勝一 (8.7.1～9.6.28)
安藤　茂信 (9.7.1～11.6.30)
斉田　末弘 (11.7.1～現在)

主要活動事項

① 県植樹大会の開催
② 森林基金及び緑化基金に関する事業の実施
③ 緑の少年団指導者及び団員研修会の開催
④ 門松カードを県下全家庭に配布
⑤ 緑の羽根の配布
⑥ ラジオ放送等やマスメディアによる環境緑化，募金に関する公報・宣伝
⑦ 緑の募金街頭キャンペーンの実施
⑧ グリーンインストラクターの養成

活　動　の　特　色

県と共催により昭和31年度に第１回の植樹大会を開催して以来，今日まで45回の県植樹祭を開催してきた。その都度1,500～2,500名程度の参加者を得て盛大に行い，戦後の大量伐採跡地の復旧や原野造林の推進を始め，多くの記念植樹大会を実施した。

また，昭和33年度には第９回全国植樹祭が開催され，さらに平成12年度に第51回全国植樹祭が開催されて，県民の植林意欲への喚起や森林に対する認識の醸成に大きな成果があった。

大分県植樹大会（平成10年４月24日豊後高田市）

みどりの少年団交流集会や活動発表大会等の開催

県みどりの少年団育成連絡協議会に対し，「指導者及び団員研修会」を毎年実施し，少年団の充実を図っている。

また，大自然の中で行われる１泊２日の同協議会の交流集会に対しても積極的な支援を行っている。

みどりの少年団の１コマ－記念樹の交付

グリーンインストラクターの派遣事業

平成11年度より，県・各種団体の協力を得て，グリーン・インストラクターの要請と派遣に取り組んでいる。

県民の森林やみどりに対する関心が深まる中で，各分野に専門的知識を有する者に，森林・林業の知識を習得してもらい総合的な観点から森林や自然の仕組み等を紹介できる指導者を養成し，各種団体等からの要請に応じてインストラクターの派遣を行っており，好評を得ている。

グリーンインストラクターの活躍

●宮崎県

現況	名称	社団法人　宮崎県緑化推進機構		会計年度	4月1日～3月31日	
	所在地	〒880-0804　宮崎市宮田町13番16号（県庁北別館）				
	電話	0985-31-7759	緑化強調期間	春3月1日～5月31日	緑の募金期間	春3月1日～5月31日 秋9月1日～10月31日
	FAX	0985-31-2776				
	役職員	名誉会長	斉藤　実美（県議会議長）	主要事項	1．緑と小鳥の祭典「森への感謝祭」の開催 2．県民緑化推進運動街頭キャンペーン（緑の募金と緑化木苗木・鉢花の無料配布） 3．春の植木市と樹木医による緑化相談 4．「緑と花のふれあい教室」の開催 5．ボランティアによる六峰街道植樹ツアー	
		理事長	鈴木良一　（宮崎県副知事）			
		常務理事	高城　義忠			
		事務局長	〃（常務理事兼務）			
		常勤役職員数	計3人（うち役員1人）			
	緑の少年団	65団　1,300人		県担当部局	林務部森林保全課保護緑化係	

組織の沿革

昭和26年1月26日	宮崎県緑化推進委員会設立
平成3年1月30日	宮崎県緑化推進機構に名称変更
平成8年5月20日	社団法人宮崎県緑化推進機構に改組
平成12年8月1日	事務局を睦屋第11ビルから宮田町13番16号に移転

歴代委員長

日高　弥一（S25.4～30.5）	川添　睦身（7.5～8.5）
藤井　満義（30.5～32.5）	折笠竹千代（8.5～11.12）
坂口　仲一（32.5～34.5）	鈴木　良一（12.1～現在）
税所　篤行（34.5～36.5）	
坂本　又夫（36.5～37.5）	
清山　義雄（37.5～38.5）	
坂元　親男（38.5～40.5）	
黒木　重男（40.5～42.5）	
川越　石男（42.5～44.5）	
宮竹　常吉（44.5～46.5）	
丸山　正喜（46.5～48.3）	
清　正（48.3～49.4）	
横内　行男（49.4～50.5）	
後藤　基晴（50.5～53.4）	
長谷川　迎（53.4～54.5）	
坂下　周蔵（54.5～56.4）	
宇都　逸郎（56.4～58.4）	
丸山　裕三（58.5～60.4）	
植野　守（60.5～62.5）	
堀之内砂男（62.5～H元.4）	
松井　繁夫（元.4～3.5）	
西川　貫一（3.5～5.4）	
工藤　悟（5.4～7.5）	

歴代事務局長

大賀　正男（S26.1～27.7）	
荒川　潔（27.7～32.3）	
中馬　尚（32.4～38.5）	
岩岡　正喜（38.5～41.3）	
玉木　恭一（41.4～43.8）	
熊谷　三郎（43.8～46.7）	
坂本　淳（46.7～48.8）	
吉田　雅文（48.9～51.7）	
木ノ下智明（51.8～55.3）	
桑山　秀夫（55.4～57.3）	
別当　嘉昭（57.4～59.3）	
玉川佐久良（59.4～62.3）	
四位　行昭（62.4～H2.5）	
寺原　盛行（2.6～5.5）	
川崎　良賢（5.6～12.5）	
高城　義忠（12.6～現在）	

主要活動事項

1．県民緑化推進運動
　(1)　県民緑化推進運動強調期間（3月1日～5月31日）
　　①　緑の募金運動の推進
　　ア　緑の羽根着胸期間
　　・緑の募金運動強調週間（3月1日～7日）
　　・県みどりの日（4月8日）
　　・全国一斉「緑の募金強調週間」（4月23日～29日）
　　イ　街頭キャンペーン
　　②　緑と小鳥の祭典「森への感謝祭」（4月29日）
　　③　植木市と樹木医による緑化相談（4月23・24日）
　　④　実のなる木の苗木配布会（4月8日）
2．緑の少年団の育成
　(1)　既設団（65団）の育成
　(2)　緑化事業
　(3)　装備費助成
　(4)　総合研修大会
3．緑の相談所設置
4．小鳥にやさしい森づくり運動の推進
　・小中学校ポスターコンクールの実施
　・実のなる木の苗木配布
5．森林ボランティア活動の推進
　(1)　森林ボランティア活動事業
　(2)　緑と花のふれあい教室の開催（12ヶ月）
6．国・県等の委託事業の実施（12ヶ月）

活　動　の　特　色

1．小鳥にやさしい森づくり運動

宮崎県並びに県緑化推進機構では，県民一人ひとりが水源の涵養，国土保全，野生生物の保護，レクリェーションや保健休養の場としての森林の持つ公益的機能など，みどりの重要性についての理解をより一層深めるとともに，健康で住みよい緑豊かな生活環境を守り育てることを目的として，「あなたです緑と野鳥（ことり）の育て親」をテーマに県民緑化推進運動を平成６年度から展開している。また緑化シーズンの３月１日から５月31日までを「県民緑化推進運動強調期間」と定めて，小鳥の好む実のなる木や鉢花など緑化用苗木の配布による「緑の募金」街頭キャンペーンや植木市と樹木医による緑化相談を実施している。

特に，４月29日の「みどりの日」には，県民ふれあいの森において「緑と小鳥の祭典」を開催，小鳥の好む実のなる木の配布や植樹，入学記念の森づくりなど県民参加による小鳥にやさしい森づくり推進運動の展開による森林整備の推進を図っている。

小鳥にやさしい森づくり

2．「緑と花のふれあい教室」開催

県民に緑とふれあう機会を提供し，「緑の募金」の県民に対する理解と求心力を高めるため，公募による一般市民の参加者を対象に，「緑と花のふれあい教室」を開催し，受講者は毎月１回講師の指導により，小鳥の好む実のなる木や鉢花栽培の体験学習を行い，栽培された緑化木の苗木や鉢花は，街頭配布など一般県民に配布している。

緑と花のふれあい教室

3．緑の少年団の育成と緑の相談所設置

緑の少年団の活動費，装備費，緑化事業費の助成や総合研修会の開催など，その育成に努めるとともに，当機構に緑の相談所を設置し，緑の文化財としての巨樹・古木などを次の世代に引継ぐため，樹木医による樹勢診断や回復治療など緑化相談を実施している。

緑の少年団の緑化活動

植木市と樹木医による緑化相談

●鹿児島県

現況					
名称	財団法人　かごしまみどりの基金		会計年度	7月1日～6月30日	
所在地	〒892-0816　鹿児島市山下町9番15号　鹿児島県林業会館内				
電話	099-225-1426	緑化強調期間	春2月1日～4月30日	緑の募金期間	春2月1日～4月30日
FAX	099-225-1426				

役職員	
理事長	須賀　龍郎 (兼鹿児島県知事)
常務理事	上村　行生
事務局長	早崎　郁郎
常勤役職員数	計3人（うち役員0人）

主要事業

県土緑化運動
1．森林･林業及び環境緑化普及啓発事業
2．県民のみどりづくり実践活動促進事業
3．森林(もり)づくり及び環境緑化の助成事業
4．緑化募金運動推進事業

緑の募金事業
1．森林の整備
2．緑化の推進
3．森林の整備または緑化の推進に係る国際協力
4．募金活動の広報及び資材の購入

緑の少年団	59団　1,814人	県担当部局	林務水産部森林保全課緑化推進室

組織の沿革

昭和26年1月　鹿児島県緑化推進委員会設立
平成5年9月13日　財団法人かごしまみどりの基金設立認可
（平成5年9月13日法人成立の登記）
平成8年3月29日以降　特定公益増進法人認定

歴代委員長

増田　静（S26.1～26.4）
米山　恒治（26.4～27.9）
田中　茂穂（27.9～31.12）
米山　恒治（31.12～33.3）
大坪　静夫（33.3～42.5）
柴立　芳文（42.5～46.5）
佐多　宗二（46.5～50.8）
小里　貞利（50.8～54.5）
上園　辰巳（54.5～58.5）
原田健三郎（58.5～H元.2）
五領　和男（元.3～3.4）
橋口　茂（3.5～5.8）
土屋　佳照（5.9～8.7）
須賀　龍郎（8.8～現在）

歴代事務局長

酒匂　融（S26.1～29.9）
尾辻　晴隆（29.9～35.7）
田中　友善（35.7～38.7）
山口　郁夫（38.7～50.4）
市之瀬　隆（50.4～51.12）
槙　道雄（52.1～53.4）
脇野　透三（53.5～55.5）
福田　利家（55.6～60.4）
清水精一郎（60.4～63.5）
岩川　幸男（63.6～H8.6）
川東　義明（8.7～9.7）
岩川　幸男（9.8～10.6）
早崎　郁郎（10.7～現在）

主要活動事項

昭和26年～現在	緑の羽根募金
昭和28年	世界各国緑地写真展示会開催(山形屋デパート)
昭和31年	緑化ポスター展示会開催（山形屋デパート）
昭和38年	オリンピック協力緑化運動募金をバッジで実施
昭和41年	学校緑化研究会（指宿･大口中学校）
昭和42年	高校・公園等ソメイヨシノ（桜）500本配布
昭和42年5月	学校・緑化研究会（枕崎市立桜山小学校・出水郡野田中学校）
昭和43年	明治百年記念学校の生徒による作文コンクール実施
昭和45年	国体開催記念緑化運動とし「緑の道づくり」を推進
昭和45年	県成人式で庭木を贈呈，都市緑化の日としてトラック11台，乗用車4台で市中パレード（鹿児島市）
昭和48年7月	開聞岳緑の少年団結成
昭和49年3月	鹿児島市中央公園で緑化樹即売会
昭和49年11月	野間岳緑の少年団結成
昭和50年3月	丸山緑の少年団・遠見番山緑の少年団結成
昭和51年3月～9月	金峰山・猿ヶ城緑の少年団結成
昭和52年2月～10月	横尾岳・山門野緑の少年団結成
昭和53年1月～12月	八幡・住吉山・東光山緑の少年団結成
昭和55年	緑の少年団9団結成
昭和56年9月	緑の少年団育成会連絡協議会を設立
昭和56年	大原緑の少年団ほか10団結成
昭和58年1月	鹿児島県緑の少年団の歌を作成
昭和59年5月	第35回全国植樹祭本県で開催
平成元年4月29日	「みどりの日」制定記念グリーンふれあいの集い（県民の森）
平成元年～現在	水と緑の森林基金について企業等協力要請
平成4年11月	鹿児島県森林インストラクター養成研修会(第1回)
平成5年3月	県緑化推進委員会を法人化に向けての検討会
平成5年9月13日	鹿児島県緑化推進委員会を改組し「財団法人かごしまみどりの基金」を設立
平成5年	緑の少年団活動や学校緑化活動を促進するため「緑化活動推進員」を委嘱
平成6年	県内市町村に市町村みどり推進協議会を発足させ，市町村独自の緑化推進を図るよう努めた。
平成7年	「緑の募金法」制定に伴い諸規定等の見直し
平成7年	「財団法人かごしまみどりの基金」のシンボルマーク，イメージキャラクター公募
平成8年	ぬいぐるみ「グリーン太郎」を作成し，街頭募金，各種イベントで活用
平成8年	「かごしまみどりの基金だより」創刊号8,000部作成し情報を提供
平成9年	平成4年度から実施した鹿児島県森林インストラクター研修会で計98名が誕生
平成9年9月	緑の募金中央事業による「九州・沖縄ブロック森林整備合宿の集い」を開催 参加者49名
平成10年8月	全国緑の少年団連盟主催の「カナダ大自然体験」研修に7名の団員参加
平成11年1月	松林の復元を願い 抵抗性黒マツ「スーパーグリンさつま」開発記念植樹4,500本

活　動　の　特　色

戦後の荒みきった人心と社会混乱のなかから，ようやく国土復興に立ち上がった人々が痛感したのは，荒廃した国土に緑を取り戻すことであった。昭和25年に国土緑化推進委員会が設立，翌26年各県に緑化推進委員会が設立され，国土の緑化を一大国民運動として展開することとなり，そのシンボルとして「緑の羽根」募金運動が始まった。

本県では，県緑化推進委員会の発足とともに春期を緑化月間とし緑の募金運動を実施した。また，昭和29年からは各地区で地区植樹祭を開催し，緑の羽根募金と併せポスター等で広く県民に呼かけ年中行事として定着させた。

昭和33年以降マツ資源の保護と新生活運動の一環として門松カードを作成し，門松カード募金を実施し資源の保護と募金の一石二鳥のアイディアを実施した。

昭和40年代を迎え，高度経済成長により所得水準の向上，余暇の時間の増大，都市部への人口集中等により，レクリエーションや休養の場として，自然やみどりを強く求めるようになり，都市空間等の環境緑化がクローズアップされることとなり，住み良い環境づくり運動へ変化するようになった。そこで，緑を守り，育てる運動の輪を広げるため，苗木の配布等によって，手づくりによる緑化の実践活動を実施した。

森林での学習活動等を通じて，心豊かな人間に育っていくことを目的とした，本県第１号の緑の少年団が昭和48年７月に結成され，その後逐次団が結成，昭和59年５月本県で開催された第35回全国植樹祭での緑の少年団の役割や，育成強化を図ることとなった。

年号が平成に改まり，昭和天皇の誕生日４月29日の祝日が「みどりの日」と改まったことを契機に「グリーンふれあいの集い」を県民の森で開催，名称は変わったが現在まで継続して実施されている。

当県緑化推進委員会は，昭和26年に発足して以来，県民の緑化思想の高揚を図り，県土の緑化を推進するため，行政及び民間関係団体との連絡調整を行いながら，広報活動の展開，緑の羽根募金活動の実施，緑の少年団の育成等を行ってきている。

平成４年３月には県総合基本計画に基づき，緑化基本計画（21世紀へ向けてみどり豊かな県土をつくりあげるため，総合的かつ長期的視点に立ったグリーンプラン21）を策定し，県土の緑化推進を図るため，行政と民間が一体となり，県及び市町村段階における組織の強化，事業の拡大，多様化に対応するため，平成５年度を目途に緑化推進委員会の公益法人化を図ることと，市町村段階においても関係団体を網羅した市町村緑化推進委員会の設置を促進することとなった。

約40年間に亘り，本県の緑化の向上に努めた当緑化推進委員会は，平成５年９月13日に「財団法人かごしまみどりの基金」の設立認可により改称された。

平成７年５月の「緑の募金法」の制定により，特定公益増進法人としての認定，県民総参加によるみどりづくりを進めるため，又，森林ボランティアを育成するために，当基金独自の森林インストラクターを養成し98名が誕生活動している。

平成11年11月には，森林ボランティアの中核的な指導者を育成し，自発的な活動企画等により「県民参加の森林づくり」の活動の輪を県下各地に広げていくため，県と基金で森林ボランティア指導者育成研修を実施し17名が修了，今後の活動が期待される。

募金額も平成７年度の募金法制定時5,102万円から平成10年度7,622万余円と順調な伸びを示し，法律の三本柱である森林の整備，緑化の推進，国際協力に有効に活用されている。

今後の当基金の役割は，某町長の植樹祭でのあいさつを引用するが，「一本木を植えると木，二本で林，三本で森，五本で森林となる」の言葉のごとく，森林ボランティアの輪が広がりボランティアによる県民参加の「森林づくり」が行われることが期待される。

●沖縄県

現況	名称	社団法人　沖縄県緑化推進委員会		会計年度	1月1日～12月31日	
	所在地	〒900-0024　沖縄県那覇市古波蔵112番地　畜産会館内				
	電話	098-834-5044	緑化強調期間	春2月1日～2月28日	緑の募金期間	春2月～4月 秋
	FAX	098-834-5046				
	役職員	会長	伊良皆高吉 (県議会議長)	主要事業	1．県植樹祭の開催 2．県育樹祭の開催 3．県緑化コンクールの実施 4．緑の講演（講習）会の実施	
		理事長	外間　現誠			
		常任理事	津波古充清			
		事務局長	(常任理事兼)			
		常勤役職員数	計4人（内役員1人）			
	緑の少年団	50団　1,103人		県担当部局	農林水産部みどり推進課緑化係	

組織の沿革	
昭和45年5月27日	沖縄県緑化推進委員会設立
昭和62年11月2日	社団法人設立認可（11月13日登記）
平成8年4月1日	事務局を与儀から古波蔵に移転

歴代委員・理事長	歴代事務局長
仲宗根平男（S62.7～H2.8）	大城　清次（S62.7～H元.8）
比嘉　行雄（2.9～4.8）	外間　現誠（元.9～6.8）
山口　栄徳（4.9～9.2）	西銘　勉（6.9～9.2）
外間　現誠（9.3～現在）	津波古充清（9.3～現在）

主要活動事項	
昭和46年7月27日～現在	県植樹祭の開催（日米琉合同記念植樹祭）
昭和47年8月～現在	県緑化コンクールの実施
昭和49年9月21日～現在	緑の講演（講習）会の実施
昭和52年10月18日～現在	県育樹祭の開催
平成7年7月～8年3月	県民100万本植樹運動

活　動　の　特　色

本県の緑化推進運動は，戦後の荒廃した県土を緑豊かな住みよい郷土にするため，昭和26年に軍官民による合同植樹祭を実施し，以来植樹祭は県内各地域で開催され，沖縄県植樹祭も去る４月で51回目を数えています。一方沖縄県育樹祭も昭和51年から毎年実施し，植樹祭とともに当県の緑化推進運動の中心的行事として開催され，緑化思想の高揚に努めています。

緑の講演（習）会は，昭和49年９月以来毎月実施し，緑化の普及啓発を図っています。